

# 枚方市立図書館四十年誌

～平成元年以降の取組み～



平成 28 年 3 月

枚方市立図書館

表紙写真

上段左 健康・医療・福祉フェスティバルに出動した自動車文庫

上段中 カウンターの小さなお客様(御殿山図書館)

上段右 保育園児を迎えておはなし会 (釈尊寺分室)

中段左 配架作業 (中央図書館2階開架室)

中段中 中央図書館正面外観

中段右 リフトを使った本の運搬作業(中央図書館バックヤード)

下段左 手話で楽しむおはなし会 (中央図書館おはなしコーナー)

下段右 大勢参加のあった分室職員による手作り工作 (中央図書館玄関ホール)

発刊に寄せて

子どもたちにたくさんの本を読ませてあげたい。保護者のその切実な願いが、昭和48(1973)年に枚方市立図書館を発足させました。

発足当初は、市民会館3階にあった図書館本館と、あいついで設置した分室、さらには自動車文庫ひなぎく号が中心となって、それぞれの地域で図書館サービスの普及に努めてきました。

その後、昭和57(2005)年から平成2(1990)年にかけて、地域のサービス拠点となる図書館分館を市内7箇所に設置し、市民が日常生活の中で、気軽に図書館サービスを利用できる環境整備を行ってきました。

施設整備が一段落した後は、障害者サービスの拡充や市民病院小児病棟での定期的な子ども向け行事など、図書館サービスの充実を図ってきました。

そして平成17(2005)年。念願の中央図書館をオープンし、現在は中央図書館を司令塔として、7分館、11分室、自動車文庫1台が互いに連携しながら、全館一体となったサービス展開を行っています。その結果、年間約366万冊(平成26年度)もの図書館資料を貸出するほか、本に関わる多様なイベントを開催するなど、乳幼児から高齢者まで、広く市民に親しまれているところです。

社会状況が急激に変化している中で、今後市立図書館は、図書館内でのサービスにとどまらず、市立図書館が有する専門的な知識・技術を活かして、学校図書館支援をはじめとする教育・生涯学習関連事業の支援を行うなど、効果的・効率的な運営を心がけながら、市民の「役に立つ図書館」を目指すことが期待されています。

気がつけば市立図書館の発足から40年。このたび、市立図書館のあゆみを『枚方市立図書館四十年誌』としてまとめることが出来ました。

「子どもに本を届けたい」という市立図書館がずっと大切にしてきた思いを継承しつつ、現代の社会状況の中で図書館が求められている役割も踏まえながら、市立図書館は、市民の皆さんに喜ばれる、居心地のいい空間と質の高いサービスをこれからも提供してまいります。今後の市立図書館のサービス展開に、どうかご期待ください。

平成28年3月

枚方市教育委員会教育長

## 枚方市立図書館四十年誌目次

	頁
発刊に寄せて（教育委員会教育長）	1
はじめに 凡例	3
1 基礎的な活動の展開 方針、内規、マニュアルの制定や変更	4
2 特徴的な活動	8
3 コンピュータシステムの導入	13
4 中央図書館	19
5 児童・ヤングアダルトへのサービスの変遷	26
6 障害者サービスの変遷	33
7 分室サービスの変遷	39
8 相互貸借・レファレンスについて	41
9 市史資料室と枚方地域コレクション	43
10 社会的に問題があるとされた資料についての全館的な検討	46
11 年表	49
12 図書館・分室概要	55
13 統計	76
14 記事索引：枚方市の図書館について 1989～2014 ～抄～	87

## はじめに

本市の図書館では、昭和 26(1951)年の大阪府立図書館枚方ブックステーション開設から、昭和 48(1973)年の枚方市立図書館発足を経て、平成元(1989)年に至るまでの十五年間の歴史を、平成 2(1990)年 3 月発行の『枚方市立図書館十五年誌』にまとめました。

その後、昭和 63(1988)年からは『図書館年報』を毎年発行するようになったこともあり、十五年誌以降の記録をまとめることのないまま、平成 25(2013)年に市立図書館発足 40 年目を、平成 27(2015)年には中央図書館開館 10 年目を迎えました。そこで、この中央図書館開館 10 周年という節目を機に、年報に記述しきれない記録や記憶を遺し、この間の活動を市民の皆様幅広く知っていただこうと、十五年誌以降の 25 年間に中心を振り返ってみました。

平成 27(2015)年には指定管理者制度導入の手続きが始まり、次年度からは蹉跎図書館と牧野図書館において指定管理者による運営がスタートいたします。一方、平成 26(2014)年度の 3 中学校支援から始まった学校図書館との連携も含めて、中央図書館を中心としたより良いシステムを構築するよう動き出しています。

ここに、これまでの活動をまとめることで、これから展開していくサービスの礎とし、本市の図書館をいっそう発展させていきたいと思えます。

枚方市立中央図書館

### 凡例

#### 1. 記載方法

本誌は、平成元年から平成 27(2015)年 12 月までの枚方市立図書館について記述したものであるが、文中の数値については『事務概要』(枚方市)と『図書館年報 2015』(平成 26(2014)年統計)を使用している。

#### 2. 写真

多くは枚方市立図書館が毎月発行、配布している『図書館だより』(新着図書案内)表紙、図書館のホームページの行事報告からの転用である。撮影当時と、現在の状況が変わっている場合も多くある。

#### 3. 年表

枚方市立図書館発足から昭和 63(1988)年までは、平成元(1989)年発行『枚方市立図書館十五年誌』に詳しく掲載があるため、それ以降平成 26(2014)年度末までを作成した。作成にあたり、細かく確認作業を行い、過去の年報中の誤り等を訂正して記載している。

#### 4. 統計

年表同様に、平成元(1989)年から平成 26(2014)年度までを『図書館年報』の統計項目でまとめた。数値は『事務概要』(枚方市)を使用している

# 1. 基礎的な活動の展開 方針、内規、マニュアルの制定や変更

## (1) 枚方市立図書館資料収集方針

昭和48(1973)年の図書館条例施行以降、市立図書館における資料収集は、もっぱら専門的な教育を受けた職員の経験と勘を頼りに行われてきた。

しかし、昭和56(1981)年の楠葉図書館の開設に始まる短期間での集中的な分館建設が進められる中で、市立図書館の資料収集における一体性を確保するため、全館共通の資料収集方針を定める必要が生じた。職員間で協議しながら方針案の作成作業を行い、所定の手続きを経て平成2(1990)年7月に「枚方市立図書館資料収集基本方針」を策定した。

この収集方針を定めたことで、市民に対し資料収集にあたる市立図書館の姿勢を明らかにすることができたことは成果の一つである。枚方市立図書館が市民の資料要求に応えられる蔵書を構成するために、市民に公開し、批判と理解を求めるものとした。以降、市民の利用状況、図書館サービスの進展および地域社会の変化によって必要が生じれば改訂し市民の理解を求めていくものである。

## (2) 第1次グランドビジョン

「枚方市立図書館グランドビジョン」(平成16(2004)年3月策定)は、中央図書館開設を翌年に控え、今後の図書館全館の運営のあり方について、明らかにしたものである。

これは現在の第2次グランドビジョンに先駆けて策定されたビジョンとして、第1次グランドビジョンと呼ばれており、図書館全館の運営のあり方を方向付けるビジョンは、市立図書館においてはこの第1次グランドビジョンが最初のものである。

その策定にあたっては、中央図書館の開設が決定されたことが契機となっている。中央図書館開設に係る文書としては、第1次グランドビジョンに先立ち、中央図書館に求められる要件等についてご提言いただいた「(仮称)枚方市立図書館に関する報告」

(枚方市中央図書館整備推進協議会 会長：塩見昇大谷女子大学教授)、また関西外国語大学から図書館棟の寄付を受け、それを使って中央図書館をどのように整備・運営していくかを市としてまとめた「(仮称)枚方市立中央図書館整備構想」(平成15(2003)年7月)の2つがある。

特に、この中央図書館整備構想において示した「中央図書館と分館・分室・自動車文庫における効果的な集中と分担」「ITを重視した図書館システムの構築と情報格差解消の保障」の二つの考え方は、第1次グランドビジョンにおいても今後の市立図書館の基本的な方向を定める考え方として採用し、それを具体化する方針として以下の5点を挙げた。

- ① 図書や雑誌等、印刷媒体による資料提供を図書館サービスの基本としつつ、加えて情報化を推進し、電子メディアなど新しい資源による情報の収集・提供を行う。
- ② 中央図書館を核とし、効率的な図書館システムの再構築を図り、図書館施設、職員の再配置を行う。
- ③ 生涯学習の一環として、市民の図書館活動や運営への参画を図る。
- ④ 市内外の関連機関との連携を充実させる。
- ⑤ 情報化社会に対応した図書館サービスが図れるよう、職員の専門的資質の向上に努める。

また、第1次グランドビジョンでは、効果的な集中と分担の考え方に基づく、中央図書館を核とした図書館システムの再構築の具体化として、図書館各施設の種類ごとの運営の考え方を示した。

ここではリクエスト対応や督促処理、障害者サービス拠点など、集中により効率化が図れる業務は中央図書館に集中し、分館はカウンター業務に重点をおく考え方を示し、図書館全体として運営の効率化を図った。

また、分館のうち、北部・東部・南部地域の比較的利用の多い分館を「地域館」と位置づけ、また中

中央図書館をセンター館と位置づけるだけでなく、近隣地域における地域館としても位置づけて、新たな運営システムの確立を目指したが、各分館の蔵書規模や運営体制は似通っており、地域の拠点館として機能させることはできなかった。

第1次グランドビジョンの成果としては、中央図書館開設により、貸出冊数が飛躍的に伸びたこと、中央図書館へのAVコーナーやインターネット端末の設置等、新たなメディアによるサービスを本格的に開始したこと、中央図書館においてボランティア活動の機会を提供し、市民が有する能力を図書館サービスに活かしていただくことで市民との協働を進めたこと、中央図書館に参考資料室を設置し、レファレンスを重視した体制を整えたことなどを挙げることができる。

### (3) 第2次グランドビジョン

「枚方市立図書館第2次グランドビジョン」(平成23(2011)年7月策定)は、第1次グランドビジョンの成果と課題及び社会状況の変化に伴う新たな課題を踏まえ、市立図書館のこれからの「あるべき姿」の実現に向けた具体的な方向を明らかにするため、5年程度の中期的なビジョンとして策定したものである。

第2次グランドビジョンでは、それまで定めていなかった市立図書館のあるべき姿(理念)を「知の源泉となる図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供して、その教養、調査研究、余暇活動などに役立つ社会教育機関」「市民のニーズに応じて資料や情報を提供する地域の情報拠点」と定めた。図書館には社会教育機関としての側面と市民ニーズに基づく情報拠点としての側面があり、偏ることなくそれぞれを意識した運営が必要であることを明らかにしたのである。また、これを実現するための運営基本方針を、下記の5点にまとめ、その方針を具体化するさまざまな取り組みを進めている。

- ①市民の生涯学習を支援する図書館をめざします。
- ②図書館資料を計画的・系統的に収集し、未来に伝える図書館をめざします。

③市民のニーズに応じて、役に立つ図書館をめざします。

④だれもが使いやすく、市民とともに歩む図書館をめざします。

⑤効率的効果的なサービス提供を行う図書館をめざします。

第2次グランドビジョンは中期的なビジョンと位置づけているが、「あるべき姿」については、基本的な図書館運営の考え方を示すものとして、長期的な位置づけを行っている。

第2次グランドビジョンでは、「枚方地域コレクションの構築と専門的なレファレンス」や「子ども読書活動の推進」といった市立図書館の特色づくりを進めるとともに、蔵書計画や「子ども読書活動推進計画(第2次)」の策定、数値目標を定めた利用者増加に向けた取り組みなど利用者サービス向上に向けたさまざまな取り組みを進めている。

また、このようなサービス向上を進める一方で、第2次グランドビジョンでは、第1次グランドビジョンで明らかにした「効果的な集中と分担」の考え方をさらに進め、「選択と集中」の考え方のもとで効率的・効果的な図書館運営のあり方を提示した。

その中の「最適な役割分担と配置をめざして『選択と集中』を進め、図書館システムの簡素化を図ります」との方針を踏まえながら、市の行政改革実施プランを受けて検討を行った結果、将来にわたる経済状況を見通せない中で、自ら効率化を進めることで生み出した成果によって、図書館サービスを向上させていく方針を立て、その手段として生涯学習施設と図書館の複合施設の図書館への指定管理者制度の導入を決断するに至った。

今後は平成28(2016)年度に蹉跎・牧野の両図書館に制度の先行導入を行い、その検証結果も活かしながら、平成30(2018)年度に蹉跎・牧野を含む複合施設の図書館分館6館に制度導入を図る予定である。

この制度導入の議論の中で、市立図書館は選択と集中の考え方に基づく、直営の中央図書館を司令塔とした図書館全館の運営のあり方を提示した。

そこで最も求められているものは、専門的な職員

が持つ、長年の知識と経験の蓄積に基づくノウハウである。これを最大限に活かすとともに、継承も図りながら、図書館全館が一体となってサービスを向上させる運営体制を構築することが今後の市立図書館の課題である。

#### (4) 枚方市立図書館蔵書計画

枚方市立図書館蔵書計画は、第2次グランドビジョンで明らかにした市立図書館のあるべき姿（理念）と特色ある図書館づくりの考え方を踏まえ、蔵書の構築にあたる基本的な考え方を示した「蔵書計画基本指針」（「資料収集基準」を含む）と、それを受けて作成した「資料選書基準」「蔵書管理基準」「蔵書保存基準」「蔵書除籍基準」の各基準を合わせて、平成24(2012)年3月に策定したものである。

基本指針については、その考え方の概略を蔵書計画に添付した「枚方市立図書館蔵書計画基本指針の概要」に示しているが、枚方市立図書館蔵書計画では、バランス重視の蔵書群の構築を目指し、以下の5つの蔵書構築のあり方に係る考え方を示すとともに、それを具体化するための取り組み内容を明らかにした。

- ① 知の源泉としての体系的かつ系統的な蔵書群の構築
- ② 市民の多様な資料要求に応えられる蔵書群の構築
- ③ 蔵書の魅力を増す特色ある蔵書群の構築
- ④ 市民の情報活用を支援する蔵書群の構築
- ⑤ 適切な蔵書管理に基づく次代に伝える蔵書群の構築

また、第2次グランドビジョンの考え方を踏まえ、今後の資料収集や蔵書管理のあり方を定める蔵書計画の策定を決めたことで、それまで資料収集にあたる基本的な考え方を示してきた「枚方市立図書館資料収集基本方針」と、蔵書計画で示す資料収集や蔵書管理の考え方との整合を図る必要が生じた。

そこで、基本指針の策定に合わせて「枚方市立図書館資料収集基本方針」を改訂し、「枚方市立図書館資料収集・蔵書管理等基本方針」を定めた。

なお、平成2年に策定した「枚方市立図書館資料収集基本方針」では、従来第2項において、資料収集にあたり留意する諸点について記載しており、これが公益社団法人 日本図書館協会が策定した「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」からの引用であることを本文中に記載していた。

しかし、資料収集基本方針は、枚方市立図書館が自らの意思と選択によって策定したことを明確にするため、平成21年12月18日付で改訂を行い、当該引用元の記載部分を注釈に移した経緯があり、その後現在の「枚方市立図書館資料収集・蔵書管理等基本方針」に繋がっていることを変遷の記録として記しておく。

次に蔵書計画における各方針については、作成にあたり、第2次グランドビジョンで示した考え方をベースにししながら、具体的な基準については他市の資料収集基準等も参考に作成した。

本市の資料収集・蔵書管理に係る基準は、資料収集、資料選書、蔵書管理、蔵書保存、蔵書除籍のように、資料の選定・受入から除籍までのそれぞれの場面での基準を定めており、ここまで詳細に基準を定めている自治体は全国的にも珍しいと思われる。

なお、蔵書計画をはじめ図書館運営に係る各種の計画は、図書館全体のサービス向上に向けた取り組みの中に位置づけることで、より実効性のある計画となる。現在の蔵書計画は第2次グランドビジョンを踏まえた計画となっており、同ビジョンが平成27(2015)年度をもって計画期間の終期を迎えることから、次期ビジョンの策定後、その考え方に合わせて、新たな蔵書計画を策定することが必要である。

#### (5) 第3次グランドビジョン

第1次、第2次のグランドビジョンに沿って進めてきた枚方市立図書館運営は次の節目を迎える時期となった。

「枚方市立図書館第3次グランドビジョン」（平成28(2016)年3月策定）は、枚方市立図書館第2次グランドビジョンの成果と課題及び社会状況の変化等に伴う新たな課題を踏まえ、平成28年度から5年間の市立



図書館運営の方向性を明らかにするために策定したものである。

第3次グランドビジョンでは、急激に変化する社会状況を背景に、地域社会の教育力の低下、高齢者や小さな子どもを抱えた親子等の孤立化、子どもの学力や読書力の低下など、さまざまな課題が出現し、市民生活に影響を与えていることを踏まえ、これらの課題の解決に向けて積極的に支援を行う「役に立つ図書館」（課題解決型図書館）を目指す方向性を打ち出した。

これは、従来の「図書館は何をすところか」という発想に基づく市民の求めに応じた貸出中心のサービス提供から、「図書館に何ができるか」という発想に基づき、図書館が有する施設（空間）や専門的スタッフが持つノウハウ等を活かして、図書館内外で市民の課題解決を積極的に支援するサービスへの転換を明らかにしたものである。

第3次グランドビジョンでは、この考え方を具体化するため、以下の4つの方針を定めた。

1. 基礎的な図書館サービスを充実します
2. 家庭生活や職業上の課題や地域課題の解決のための各種支援機能を強化します
3. 教育的役割を重視した取り組みを推進します
4. 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制を構築します

「1. 基礎的な図書館サービスを充実します」については、公共図書館として行うべき資料の貸出や予約、レファレンスサービスや対面読書など、基礎的な図書館サービスについて、その充実を図るとともに、地域のつながりの希薄化に伴い、孤立化が進み、今後も人数の増加が見込まれる高齢者や小さな子どもを持つ親子の居場所としての機能を果たすため、図書館という空間に着目した「滞在型図書館への移行」の方向性を

打ち出している。

「2. 家庭生活や職業上の課題や地域課題の解決のための各種支援機能を強化します」については、図書館内における課題解決支援の取り組みについて明らかにしており、レファレンスサービスの充実や子育て・医療・健康づくりといった分野の積極的な情報提供を行うことなどを明らかにした。

「3. 教育的役割を重視した取り組みを推進します」については、社会教育機関である図書館の教育的な役割も踏まえながら、他部署が実施するさまざまな教育・生涯学習関連事業への支援の方向性を示し、当面学校図書館支援と社会教育事業など他部署が実施する教育・生涯学習関連事業の支援に取り組むことを示した。

「4. 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制を構築します」では、本市の厳しい財政状況を踏まえ、以上の取り組みの推進に不可欠な、人材・物・予算といった資源を図書館自らが生み出す必要性を明らかにするとともに、その手法として図書館各施設の役割分担に見合った効果的・効率的な管理運営体制の構築を図るべく、生涯学習市民センターとの複合館の図書館分館への指定管理者制度の導入方針を定めた。

また、自動車文庫のあり方の再検討や図書館分室のあり方等に係る見直し計画の策定の方針を打ち出すとともに、老朽化が進行し、バリアフリー化が遅れ、他の分館と比較して閲覧室が狭隘な香里ヶ丘図書館については、建替えが必要であることを明らかにした。

さらに、質の高いサービス提供と図書館政策の企画・立案等に従事する、核となる専門的スタッフの計画的な育成・配置の方向性を示し、図書館サービスにおける専門的スタッフの重要性を明確にした。

## 2. 特徴的な活動

### (1) 北河内地域の広域利用

平成 13(2001)年 3 月に『定住と交流の自立都市—新北河内地域広域行政圏計画 2000 年代の指針』が策定された。これに基づき、北河内地域広域行政推進協議会を構成する守口市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市および枚方市（以下北河内 7 市）は、図書館及びこれに準ずる施設（以下「図書館」）を広域利用の対象とすることを決め、平成 14(2002)年 10 月 1 日から実施するための協定書を取り交わした。北河内 7 市が相互の図書館利用を促進し、市民の生涯学習機会を更に充実させることを目的としている。広域利用によって、それぞれの図書館の利用者は、各市の図書館の条例、規則に基づいて館内閲覧や複写サービス、レファレンスサービスはもちろんのこと、利用登録、個人貸出が受けられるようになった。7 市は、北河内地区図書館連絡会を 2 ヶ月に 1 度、館長会は年 2 回開いて情報共有に努めている。

利用状況を見ると、枚方市民は、交野市の図書館施設を最も利用しており、次いで寝屋川市、門真市という順や利用人数も当初から大きく変化はない。一方、枚方市の図書館を利用する他市の市民数は、平成 16(2004)年度と中央図書館開設後の平成 17(2005)年度を比較すると、各市とも 4 倍以上にな中央図書館開設時に蔵書が格段に増えたこと、広い

駐車場が完備されたことが大きな要因と考えられる。また、寝屋川市の香里園駅に近い香里園分室や、近隣都市から通院やお見舞いの人がやって来る大学病院近くの市駅前サテライトでも、広域利用者の割合が多い。

北河内 7 市の図書館にも、指定管理者制度導入や窓口業務委託などさまざまな運営形態がみられるようになった。利用者は、各市の利用カードを持ち歩き、生活スタイルに応じた利用をされるなど、図書館利用の広がりがあ



### (2) リサイクル図書について

平成 9(1997)年 10 月に「枚方市立図書館の図書等の譲与に関する要綱」(以下「要綱」)が制定された。枚方市立図書館における、いわゆる「リサイクル図書」の始まりである。

『図書館年報 1998』特集記事「除籍図書のリサイクルについて」に詳しく記載されているが、まとめると、以下のようになる。

要綱制定以前から、利用者より除籍図書を処分す

るのであれば、無償で譲ってほしいという要望は各々の図書館で聞いていた。しかしながら様々な理由で実現できなかった。

その後、

①名古屋市や宇都宮市、堺市などで除籍図書のリサイクルが始まったこと

②市議会で除籍図書の効率的・効果的な再利用のために、一般市民へのリサイクルに踏み切るべきであるとの指摘を何度か受けたこと

③古紙の需要が減少したため、回収業者に引き取りしてもらえなくなったこと

などから、枚方市立図書館でもリサイクル図書に取り組むことになった。

まずは実施要綱作成から始め、名古屋市などの例を参考に案が出された。その案を、分館長会議（現在の「図書館連絡調整会議」）で何度も議論し、最終案が完成した。その際、除籍図書のみならず、寄贈を受けた図書のうち、図書館で受入れしなかったものも対象とした。これは前述の③の事情と、寄贈図書のなかに、既に図書館で所蔵しているものが多数含まれていることなどの理由である。

要綱が制定され、市民への譲与は各分館単位で、いくつかの方法で行うことになった。

枚方図書館（当時）などでは、年度末にリサイクルブック市を行った。これは一室に机を置いて図書を並べ、そこから図書を選ぶ方式である。リサイクルブック市を開催した図書館のほとんどが、まず団体（保育所（園）、幼稚園、小学校など）を対象に先行開催し、そのあと個人を対象として開催した。これは要綱の第3条で譲与の対象とその順位が定められており、団体を個人よりも優先しているためである。また、年度末ということもあり、蔵書点検期間に書架や書庫の整理のため除籍された図書が、リサイクルブック市に並ぶことになった。

一方、御殿山図書館では、リサイクルブックコーナーを設けて、常時譲与していく方法をとった。

リサイクルブック市開催後に寄せられた意見としては、好意的なもののほか、要綱で定められた個人への譲与冊数が10冊までというのは少ないので

は、という指摘もあった。また譲与した図書の多くが、除籍雑誌以外では、受入れしなかった寄贈本であったことや、各館とも会場設営・後片付けなど実施するのに人手を要したことなどが問題点として挙げられた。

その後は、大規模なものとしては、平成23(2011)年12月に開催された中央図書館でのリサイクルブック市を最後に、リサイクルブックコーナーを常設して、譲与する方法にすべての図書館が切り替わった（生涯学習市民センターイベントの際の、小規模なリサイクルブックなどは除く）。その理由は、利用者にゆっくり譲与図書を選んでいただくため、また除籍図書や受入れをしなかった寄贈図書の保管スペースの確保、開催にかかる人手の確保が困難なこと、などである。

開始当初1万冊台だった譲与冊数は、図書館全体で平成26(2014)年度には56,906冊（団体への譲与も含む）となった。



中央図書館リサイクル本コーナー(常設)

### (3) 自動車文庫のアウトリーチサービス

平成3(1991)年4月から、自動車文庫ひなぎく号(2500冊積載車2台を保有)で新たなサービスの取り組みを始めた。始めるにあたって、取り組みのネーミングとして「アウトリーチ」という用語を使用し、企画と渉外の担当者3人が「アウトリーチ委員」として3本柱の構想を立てた。

第1が「病院サービス」を拡充するサービス。第2が老人ホームにステーションを新設する個人貸出サービス。第3が、ステーションでの団体貸出とは

別に、自動車文庫で訪問する保育所（園）への団体貸出サービスである。

枚方市民病院小児病棟等への団体貸出を始めたのは、平成3(1991)年7月からである。当初、面談室を借用して始めたが、無断持出が多かったため、病院と打合せをして院内プレイルームの本棚に100冊常設する方式に変更した。これを始めたきっかけは、「入院児童は大人が読み捨てた週刊誌のような出版物ばかりを読んでいる」と指摘する声があったためである。これをうけて、入院中の子どもたちの読書環境を改善をするべく、手始めとなるサービスに位置づけて取り組んだものである。



厚生年金病院(当時) 小児病棟で (平成7(1995)年)



点滴・パジャマ姿で参加してくれた子ども達

これより前に、枚方市の病院サービスとして、市民病院玄関前駐車進入路上での個人貸出を長らく続けてきたが、駐車車両が出入りするスペースに入院患者に出てきてもらうことが大きな負担となっていたため、この見直しをはかり、病院内1階廊下部分に机を配置して、ブックトラック4台で行う院内サービスに変更した。

平成3(1991)年9月のステーション巡回の見直しで、市内では規模の大きな3老人ホームにステーションを新設した。高齢者向けに選んだ本(時代小説、大活字本、歴史関係の本など)はどこの老人ホームでも人気の高い本なので、それらを自動車文庫に積み込んで、一度にまとめて3ヶ所を巡回する方針で臨んだ。どの施設職員からも、「来てもらっても利用は少ないと思いますよ」と心配する声が聞かれたが、それは、施設に本棚は設置されているものの、入所者が見向きもしないという理由からだった。実際には、自動車文庫に積み込んでいる本が比較的新しいこともあり、多くのご利用に恵まれた。

どこの図書館、どこのステーションでも少子化が目立ち、児童の利用の減少が加速度的に進行している。狭い地域でサービスを行う自動車文庫では顕著に、その影響を受けることが多くなってきていた。そこで、こちらから幼児の集まる場所、高齢者が集う場所など、対象利用者の集まる場所に出向くことが有効であると考えて実施したのが、平成6(1994)年7月から開始した「保育所（園）への訪問団体貸出」である。各施設への意向調査結果により、13施設(公立保育所3、私立保育園7、病院保育室3)へ訪問することとなった。

その中でも受け入れ可能な施設では、職員による子どもたちへの絵本、大型絵本、大型紙芝居などの読み聞かせを実施した。

その後、病院サービスや施設サービスに使いやすいブックトラックを積載することを重点に改造した中型車を所有するに至った。



ブックトラックを積んで走った中型のひなぎく1号

ブックトラックには時代小説、大活字本、雑誌、あかちゃんえほん、えほん、あそびの本といったグループにわけて本を揃え、訪問先によってブックトラックを積み替える。組み合わせを変える方法で積み込み作業を軽減し、幼児や高齢者など各利用者に合わせた選定に配慮した。

その後、自動車文庫事業の見直しにより、2台の自動車文庫を1台にしたほか、施設へのサービスを縮小した。そういった時に、東日本大震災が起これ、被災された人々を支援する「いわてを走る移動図書館プロジェクト」へ活動を止めていたひなぎく1号を寄贈することとなった。ひなぎく1号の岩手県への運搬に合わせ、現地で読み聞かせや科学手品などを実施した。



「ひらちゃん」と呼ばれて走り続けているひなぎく1号

全国的に見れば自動車文庫を持たない図書館が多くなってきた中で、平成27(2015)年秋、大型車の買い替えを行った。



新ひなぎく号 (平成27(2015)年11月)

また、同年冬には枚方信用金庫からの寄付金を元にリフト付運搬車の購入も行った。



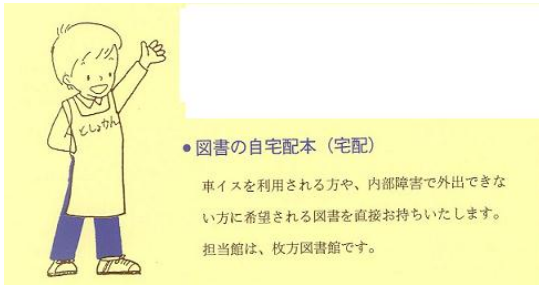
リフト付き運搬車(平成27(2015)年12月)

機動力があり、図書館が長期臨時休館した場合には代替サービス的手段ともなる自動車文庫を保有していることは枚方市立図書館の強みである。今後は、地域での活動や地域イベント等との連携も視野に入れた自動車文庫の活用でアウトリーチサービスに取り組んで行く。

#### (4) 宅配サービスの変遷

昭和51(1976)年、点訳図書が寄贈されたのを契機に視覚障害者へ、枚方図書館から郵送するサービスを始めた。当時の郵政省の制度では、無料で自宅まで郵送される点訳図書も、返送の際は郵便局へ持ち込む必要があったため、持ち込みが困難な利用者の利便を図るべく、昭和57(1982)年から「自宅配本サービス」と呼称して、図書館職員が直接回収することとした。

開始してみると、利用者から旺盛かつ幅広い要望が寄せられたため、点訳ボランティアを育成しての新しい点字図書の作成を開始するとともに、全国の図書館・点字図書館との相互貸借を実施した。手間のかかる作業であるうえに、利用増加により繁忙を極めた。次第に、点字図書の利用者だけでなく、図書館に来館することが困難な希望者には一般図書も運ぶようになった。パソコンの普及等により点字図書の利用が減ると、寝たきりの高齢者や自宅療養者などへの一般図書の配本が主要業務になった。約20年間、枚方図書館職員が担当し、日常の窓口業務やバックヤードの業務も担当しながら公用車で市内各所に出向いた。



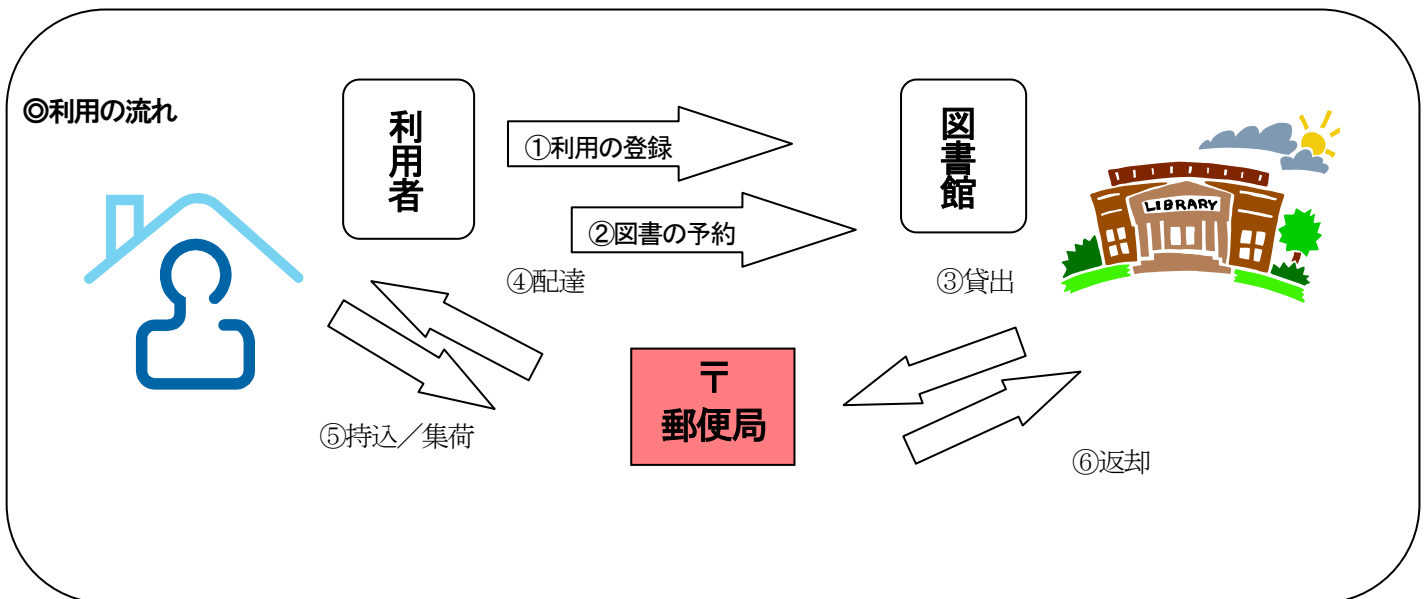
利用案内の「宅配」部分(平成5(1993)年版)

この業務は、平成17(2005)年以降、中央図書館にて継続したが、利用が減少し、平成23(2011)年末に登録利用者が3名となり、自宅配本サービスは一区切りをつけることとなって終了した。

しかし、有料でも自宅まで図書館資料を届けて欲しいという要望はあり、より効率的に図書館資料を市民に提供する一手段として、平成26(2014)年より中央図書館から民間の宅配便を利用した有料(障害の度合いにより減免あり)の「宅配サービス」を実施するようになった。平成27(2015)年12月現在の登録者は32名(うち障害をお持ちの方は22名)である。



「宅配サービス」の箱



### 3. コンピュータシステムの導入

#### (1) 枚方市立図書館のコンピュータ導入

枚方市では、図書館におけるコンピュータ導入については、図書館内外から慎重論があったため、府下の自治体の中でもかなり遅れてのコンピュータ導入となった。

昭和 57(1982)年の当初予算でコンピュータ導入研修関係予算が計上され、図書館における電算化についての調査のため、コンピュータシステム導入自治体への視察や職員派遣研修を行いながら検討を重ねた。当時は、市役所内に導入され始めたコンピュータに強い危機感を抱いた市民によって「コンピュータによる住民管理に対する枚方市民の会」が結成された時期でもあり、図書館の導入計画に対しても交渉が行われた。

しかしながら、図書館業務へのコンピュータ導入は、他市の多くの新設館ですでに実施されており、枚方市立図書館においても無視できない情勢であった。さらに、増大し多様化していく市民の資料要求に迅速かつ確実に応えていくためには、コンピュータ導入は避けて通れないとの認識のもと、市民および職員の理解と合意を得るために館内での研修や他館の見学を重ね、市民との話し合いを行ってよりよい方法を研究していこうとした。しかし、2年後に開館が予定されていた蹉跎図書館からの導入は実現しなかった。

その後、国会図書館蔵書や出版書誌情報を検索するJ/BISC・N/BISC(目録情報をパソコンで検索できるCD-ROM)とパソコン1台を導入し、職員が事務所内で使用を開始した。

平成6(1994)年4月に三代目館長として東京都五日市町(現あきる野市)から平井理館長を迎え、コンピュータについて本格的に検討を開始した。6月には各館各係から1名ずつ総勢13名で構成されたコンピュータ検討委員会が発足し、全館にオンラインシステムを導入するための手順や機器構成、システムの基本的な考え方の検討、パッケージソフト

の比較検討などを行った。

ようやく、平成9(1997)年1月の菅原図書館新館移転オープン時に枚方市初の図書館コンピュータシステムを導入することができた。大阪府下の市立図書館では最後の導入開始となった。

続いて平成10(1998)年9月には当時本館的機能を果たしていた枚方図書館にサーバを移設し、平成11(1999)年2月には、市内で2館目の導入となった。新聞雑誌コーナーを別室で運営しつつ、菅原図書館で導入したMARC(機械可読目録)から別のMARCへの置換作業を併行しながら約10万冊の遡及入力を行った。枚方図書館への導入によって貸出が増加しただけでなく、市民サービスへの効果も高かったことから、全分館への導入を加速させた。

平成11(1999)年度には香里ヶ丘(自動車文庫を含む)、楠葉図書館にコンピュータを導入することで、平成12(2000)年度当初には4館をオンラインで結んだ。自動車文庫はセキュリティ対応から、無線でサーバにつなぐことはせず、ステーションではノートパソコンを使ってオフラインによる貸出返却を行い、持ち帰ったデータをサーバに落とし込む方法をとった。

平成12(2000)年1月より試行していた集中選書を本格実施するため、平成12(2000)年4月枚方図書館に全館の発注・選書・書誌を管理する「選書担当」を設け、平成13(2001)年度からは「現地装備」方式を採用することで購入図書の本納期を約2週間短縮し、集中選書体制を確立した。その後平成14(2002)年3月の山田図書館における導入によって9図書館がオンラインで結ばれ、資料の有効活用や予約提供日数の短縮化など、大きな効果があった。平成15(2003)年1月からは、蔵書検索をインターネット上でも可能にし、平成16(2004)年11月からはこれまで、「かな」による検索のみであった機能を漢字で検索すること等も可能にした。

分室については平成17(2005)年度に村野分室と

枚方公園分室に導入したものの、残りの7分室のコンピュータ導入は進んでいなかった。コンピュータを導入していない分室は紙の貸出券を使用した逆ブラウンチケット方式を続け、予約も分室担当部署が一括してコンピュータに入力を行うなど、枚方市立図書館として2系列の業務形態を並行して実施する状態が続いた。分室の利用者からもコンピュータの導入を求める声が日常的に出されていた。

平成21(2009)年4月に残り7分室に導入できたことで、全館・全分室がオンラインで結ばれることとなった。初めて菅原図書館にコンピュータを導入してから12年をかけて市内全館全分室がオンライン化されたことにより、全館の資料が図書館ホームページや利用者用端末で検索可能となり、利用者の利便性が高まった。

さらに平成21(2009)年10月から、利用者がパソコンや携帯電話から図書館資料を予約できるインターネット予約サービスを開始し、利用者自身が図書を予約し、用意できた本など予約の内容の確認や取り消し、自分自身の貸出状況の確認や貸出期間の延長ができるようになった。

平成23(2011)年9月には、図書館システムのサーバと中央図書館の端末の入れ替えを行い、それに合わせて市民から要望の高かった予約システムの改良として「セット予約方式」「インターネット予約時のカート方式」を採用し、平成24(2012)年4月には、インターネットで予約の順位の確認や対象外だった自動車文庫の蔵書の予約を可能にした。

平成28(2016)年10月には、市立図書館コンピュータシステムのリプレイスが予定されている中で、市内小中学校64校の学校図書館蔵書をデータベース化・オンライン化することにより市立図書館と学校図書館の連携強化を図るとともに、市立図書館の豊富で幅広い分野の蔵書を学校の授業等で活用することで、読書好きの子どもを増やし、児童生徒の学力向上につなげていく取組みを進めている。

## (2) ホームページの開設

枚方市では、平成9(1997)年に「枚方市ホームペ

ージ」を開設し、インターネットを用いた情報提供を開始した。図書館のホームページは、教育委員会の施設案内が最初であった。その後、枚方市立図書館のホームページを、「見やすく・使いやすく、子どもも楽しめ、そして、枚方らしさもさりげなく表示されていること」として作成した。

ホームページに記載する内容としては、

- ・図書館からのお知らせ
- ・施設案内
- ・図書館カレンダーと自動車文庫巡回スケジュール
- ・蔵書検索
- ・子ども向けのしらべものやイベントお知らせのためのページ
- ・調べもので使えるリンク集
- ・図書館条例、統計

を挙げ、ページの背景は暖色系を用いて明るくするとともに、くらわんか舟のイラストを配して枚方らしさを表現した。視覚等に障害のある人も利用できるよう音声読み上げ機能を、また、英語・中国語等での案内も設け、図書館システム会社の協力も得ながら、平成14(2002)年3月ホームページを開設した。ただし、蔵書検索については、ホームページ開設より少し遅れ、平成15(2003)年2月から開始となった。

平成17(2005)年11月には市のホームページについて、誰もが見やすく利用しやすいデザインを実現するためホームページ運用ルール「枚方市ホームページについてのガイドライン」が作成され、図書館のホームページについてもこのガイドラインに沿って変更・修正していった。暖色系の背景が寒色系に変わり、くらわんか舟のイラスト等が削除されたが、図書館から発信したい事項(お知らせ、Q&A等)がより多く盛り込まれるようになった。市のホームページのトップページにある「蔵書検索」のボタンが図書館ページへの入口である。

## (3) インターネット蔵書検索

資料の提供機能の強化充実のために、インターネットで蔵書検索ができるようになったのは平成



15(2003)年1月からである。図書館システムが導入され、各図書館蔵書の登録が完了し、図書館のホームページを平成14(2002)年3月に立ち上げた後のことである。この時点ではサーバの制約もあって、カナ検索しかできなかった。既に大阪府下図書館の蔵書を横断的に検索するシステムは大阪府立図書館によって提供されていたが、漢字での検索ができなかったため試行としての参加だった。

その後平成16(2004)年11月にWEB用(蔵書検索用)のサーバを更新、漢字検索が可能なシステムにバージョンアップした。これによって漢字検索のほか分類検索、よく読まれている本、予約の多い本、所蔵している図書館毎の検索などの多様な検索ができるとともに大阪府横断検索にも参加できるようになった。ただ、当時は分室にはシステムが導入されておらず、すべての蔵書が検索できるようになったのは平成21(2009)年4月からである。

平成26(2014)年度の図書館統計によると、インターネット蔵書検索ページの閲覧件数は約1618万件。1週間で検索が多いのは土日で、平日より20%ほど多い。時間帯では深夜早朝はやや少ないもののどの時間帯も利用されており、大いに活用されているのがわかる。近隣市では検索スピードや精度を改善したシステムを導入している例もあり、本市でも利用者の利便を図るため常に改善してゆくことが必要である。

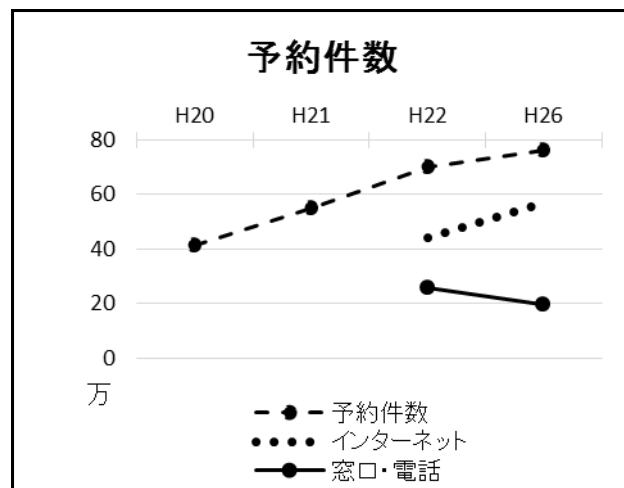
#### (4) インターネット予約

図書検索の次には、インターネットからの直接予約が課題となった。インターネット予約は利用者の利便と予約事務の効率化という長所があり導入すべきものであったが、導入した図書館では予約が何倍にもなったとの例もあり、業務全般がパンクする可能性もあった。そのため、導入についてコンピュータ委員会で慎重に検討した。

検討を開始したのは平成18(2006)年9月からで、予約数の上限やその数に棚置(取り置き)を含むかどうか、利用年齢、登録の方法や案内のマニュアル、周知の方法等について、平成20(2008)年4月サービ

ス開始予定で検討していった。当初は、近隣市にも例があった貸出中の資料だけを予約対象とする案もあった。しかし、利用者の利便性を考慮する観点から、対象はオンライン化されていない分室の資料、自動車文庫の資料、禁帯出資料、視覚障害者用資料を除く全資料となった。上限点数は合計12点(棚置き数を含む、12点中ビデオ・DVD・CDは計6点まで)、借りている資料で予約のないものは1回だけ延長ができる、60日以上延滞があれば予約できない、予約の用意の連絡はメールのみ、予約資料の取り置きは1週間としてスタート、利用年齢は13歳(中学1年生)以上として平成21(2009)年10月から開始した。

導入前の平成20(2008)年度予約件数411,573件、導入後の平成21(2009)年度549,115件、平成22(2010)年度698,482件と順調に伸びた。平成26(2014)年度予約件数は761,113件で導入前の1.85倍となっている。予約の内訳は平成22(2010)年度、窓口と電話を合わせて255,857件で31.2%、館内端末11,514件で1.81%、インターネット(パソコンとスマートフォン)373,984件で58.4%、スマートフォン以外の携帯電話57,127件で8.5%である。平成26(2014)年度はそれぞれ195,083件25.6%、11,505件1.51%、514,858件67.6%、39,667件5.2%となっており、窓口と電話での予約が大きく減っている。インターネットからの予約は大きく伸びているのがわかる。(グラフ参照)



予約のシステム操作については、導入後にも改修をした。当初は、蔵書検索後一件毎に ID パスワードを入れるシステムであった。これは、蔵書検索にはセキュリティをかけず予約する時に個人を認証するシステムであったためであるが、複数タイトルを予約する利用者には手間がかかると不評であった。また、上巻下巻に分かれている資料について、インターネット予約以前は下巻が先に用意できても上巻が揃ってから連絡するといった配慮をしていたものが、下巻を確保すると自動的にメールで連絡が行ってしまうため、これも手直しが必要であった。これらの改修を平成 23(2011)年 10 月から適用、カートによる予約のストックや連続予約が可能となり、先進的な上下の自動セット予約が可能となった。また予約の順位をインターネットで個々に知りたいという要望に応じて、予約順位表示を平成 24(2012)年 4 月に対応した。

#### (5) 集中見計い・集中選書

枚方市立図書館では、昭和 57(1982)年より各館で二つの取次会社のいずれかの取次から図書を購入し、それぞれ見計い(見本図書)が配本され、見計いの成人・児童の選書会議も各館ごとに行われていた。図書館全体の蔵書構成を構築していくために必要であった各館の蔵書の把握が、図書データのオンライン化によって可能になった。そこで計画されたのが、集中見計いと集中選書による物流および書誌データの一元化、効率化と適切な蔵書構成の構築であった。取次から配本される見計いは、購入する額の図書費によってパターン配本化されている。予算が多いと配本される図書が多く、予算が少ないと配本される図書が少ないため、集中して 1カ所の取次との取引額を多くするほうが、多くの見計い図書が配本される。その多くの見計いの中から現物を見て図書を選ぶことは、より確実な選書に繋がり、厚みのある蔵書構成や幅の広い蔵書にするための有効な方法であった。

平成 12(2000)年枚方図書館内に選書担当を立ち上げ集中選書を開始。また図書装備のスピードアッ

プを図るために、枚方図書館で現地装備(平成 13(2001)年 4 月より)も行った。

その当時の様子は『図書館年報 2000』平成 11(1999)年度に詳しいので引用する。

「2001 年 4 月からの本格実施に向けて、2000 年 1 月より枚方・香里ヶ丘・楠葉の 3 館で集中選書及び発注の試行を開始し、2000 年 4 月より全館(分室を除く)での試行を実施していくことになった。それに伴い 2000 年 4 月より、枚方図書館奉仕担当の中に集中選書を担当する職員 3 名が配属された。それまで、各館で実施していた見計い選書・発注・受入事務(図書検収)は一部を除いてすべて枚方図書館で集中されることになった。これまでは、各館で個別に見計い(見本図書)の送品を受けて選書していたが、それを枚方図書館一箇所で見計いの送品を受けて、従来通り現物選定を基本に、全館の職員が一緒に選定する方法に変更した」「成人図書については、各館でリストによる一次選書を行い、全館で現物選定による、最終選書を行う 2 段階選書の実施を開始する。毎日選書担当が作成した選書リストをもとに、各館で必要な図書を選定し、毎週水曜日に枚方図書館で行う全館の選書会議で、見計い図書を前に現物選定を実施する。全館の選書会議には、各館から担当者が 1 名参加する。見計い図書は、必ずしも全館分の冊数が配本されているわけではないので、各館で必要な部数を確保できない場合もある。そのため、会議ごとに各館に優先取得順位をつけ、できるだけ平等に必要な図書を確保できるようにしている。児童書については、選書担当で毎日、仕分けをして児童書の見計いを各館に配送している。各館ではその見計いを選書し、割り当てられた図書の『見計い表』を作成し、毎週木曜日の全館選書会議に参加する。選書会議では、その『見計い表』をもとに 1 点ずつ、各館での購非を決定していく」

このようにして全館選書を行い、枚方市立図書館全館として必要な図書を漏らすことなく購入し、効率的かつ効果的な選書を行える方式にしていった。



毎週実施している児童選書会議

また、「図書の現地装備の検討を2000年度より開始し、2001年2月には、実施している堺市立図書館と八尾市立図書館への視察を行い、4月より枚方図書館事務室にて現地装備を実施した。これにより以前に比べて概ね2週間納期を短縮することができた」と記載されている。

課題として「各図書館にできるだけ速く図書を納入し、標準化された正確な図書情報を提供していくことを目的に選書担当では、業務の改善を行っている。

- ①選書方法の改善
- ②図書データの置き換え作業
- ③雑誌の集中受入の検討
- ④書店購入図書・寄贈図書の受入一本化の検討
- ⑤発注方法の改善の検討を行っていく」との記載があり、これらの問題点の改善に続けて取り組んでいくことになる。

平成17年(2005)年4月のオープンを前に、中央図書館6階に市内全館の資料収集を統括する選書担当が設けられた。①～⑤の問題点で①の改善として成人選書において各館でリストにより選書したデータをメールで選書担当に送り、選書担当で会議までに見計い棚より抜き出しておくことにより、選書会議の内容を薄めずに時間を短縮し、効率化した。これには「購入方法プログラム」(図書館職員作成)により可能となった。②の図書データ置き換え作業は、「マーク置換」という操作を1冊ずつ行うことで完了した。③雑誌の集中受入と④書店購入図書・寄贈図書については、選書担当で一括してデータを入力し各館に配布する一元化と効率化を図った。⑤発注方法の改善については、市民にリクエストされ

た図書を確実に短時間で提供できる方法をと知恵を絞った。大手書店への発注と取次会社へのネット発注、および地域の書店発注の3ルートによる発注方法の導入である。3つの発注ルートを使い分けることで、より早くさまざまな収書が可能となった。

## (6) 図書整理の変遷

コンピュータ導入に伴い、蔵書管理は、それまでの原簿と2枚の目録カード(書名目録、分類目録)による管理に代えて、コンピュータに取り込んで利用する目録「MARC(マーク): MACHINE READABLE CATALOGING=機械可読目録)によって行うことになった。コンピュータシステムの導入とマークの使用によって検索機能は飛躍的に向上した。

導入1館目の菅原図書館では図書館資料の大部分を占める図書資料について固定長(内容量に関わらず一定の情報しか記載されない)のマークを採用したが、再度「MARC検討委員会」で討議を行い、2館目の枚方図書館以降では、マーク情報の精度を高めるため可変長(情報量に応じたデータ)のマークを採用することになった。

以来、マークは同じマークを使用しており、内容細目の購入、バージョンアップもその都度行っている。これらのマークの内容についての相談やメンテナンスなど書誌データについてのあらゆる業務は先述の選書担当が一元的に行っている。

資料の整理方法はコンピュータ導入で大きく変わった。貸出方法が逆ブラウンケット式でなくなったため、ブックポケット、ブックカードが不要になり、資料のフォルムがすっきりし、幅を取らなくなった。後になって貸出手続きの際、返却日が印字されたレシートを渡すようになったため「本をかえす日」の用紙(デートスリップ)の貼付、返却日の押印も廃止した。これによって、利用者のカウンターでの待ち時間を短縮した。

昭和57(1982)年5月の楠葉図書館の開館以来、一般書の分類表示においては、日本の現代小説は「F」として1段ラベル、エッセイは「E」として2段ラベルを使用、それ以外の分類では4桁まで分類して

2 段ラベルを採用していた。中央図書館開館時には様々な検討の結果、枚方図書館を引き継ぐ形で開館する中央図書館の資料については、規模が大きくなり所蔵冊数が増えることを勘案して新しい分類指示表を作成した。大きな変更点としては

- ・主題については6桁分類し、3段ラベルを使用する。
- ・主題の図書についても著者の姓2文字を指示し、背ラベル3段目に表示する。
- ・伝記では被伝者の姓2文字を指示し、背ラベル3段目に表示する。

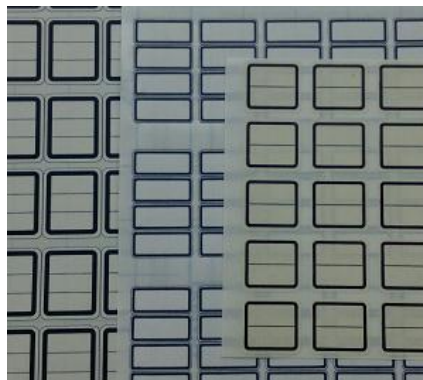
が挙げられる。

現在も中央図書館は6桁分類3段ラベル、それ以外の分館・分室では4桁分類2段ラベルを使用している。

児童の分類表示では、「えほん」「ちしきえほん」「やさしいものがたり」「F (にほんのものがたり)」「N (がいこくのもの)」「みんわ」「すいり」「SF」と主題の3桁分類を採用しているが(中央図書館は「すいり」「SF」を廃止)、現在も一般書以上に館によって違いがみられる。大きな違いは「えほん」について画家の姓2文字を指示しているかどうか、「むかしばなしえほん」を採用しているかどうかであり、それによって配架方法も異なっている。

「ちしきえほん」や主題の図書の分類展開桁数、洋書の整理方法にも若干の差異が生じている。

各分館分室ごとの利用に限定されていた時代を経て、インターネットの普及により、市内の蔵書の流通量が増えた。また、複数の市内図書館施設を利用される方も多くなった。全館で統一した資料の分類表示をしていく必要を検討している。



一般書用ラベル



児童書用ラベル

## 4. 中央図書館

### (1)中央図書館開設

#### ①中央図書館計画が具体化するまで

枚方市立図書館は、昭和48(1973)年4月に発足以来、自動車文庫や分室、分館を市内全域の身近な場所に配置することで、より多くの市民に利用される図書館運営を行ってきた。

一方で、それらの分館や分室など比較的小規模な図書館をバックアップする、より大規模で内容の充実した核となる中央図書館がないことが事業を進める上で大きなネックとなっていた。

中央図書館の役割を担ってきた枚方図書館は、枚方市駅に近いなどの利点はあったが、閲覧スペースが狭い、蔵書数が少ない、3階にあるのにエレベーターがないなど、中核的な中央図書館としての機能や設備が不十分であることから、本格的な中央図書館の整備が市民から望まれてきた。枚方市が平成13(2001)年度に実施した「図書館について」の市政モニター調査では8割のモニターが「中央館が必要」と回答している。一方、昭和55(1980)年1月の図書館運営委員会で『枚方市立中央図書館建設構想について』を答申されているものの、約20年もの間、具体的な進展はなく、実現するのは困難だと思われていた。

そこへ、市内で移転する関西外国語大学跡地を、防災拠点整備を含む「安心と輝きの杜」事業として枚方市が整備することになった。平成13(2001)年8月に関西外国語大学図書館棟が寄贈され、この図書館棟を生涯学習拠点施設整備の一環として「市立中央図書館」として活用することになった。中央図書館開設準備と図書館システム見直しが始まり、平成14(2002)年1月には「中央図書館整備検討委員会」(庁内委員会)を発足した。

#### ②準備

平成15(2003)年4月、枚方図書館に企画担当を設置、中央図書館開設事務局の役割を担うこととなっ

た。平成14(2002)年度市政運営方針の「明日の枚方を切り拓く重点施策」の中では、中央図書館を「大学施設を活用して、『活力と輝き』の源」とし「中央館・分館・分室・自動車文庫を効率かつ効果的に再構築することやボランティアの参画についても検討」と記している。

5月から6月にかけて行なった市内の市民団体・ボランティア団体へのフィールドリサーチによって、多くの市民から中央図書館について様々な意見・アイデアが寄せられ、この意見を参考に市民参加の会議を実施するための委員選考を行なった。(市民からの意見は73件)。

その結果、7月に教育委員会内に「中央図書館整備推進協議会」(庁外委員会)を設置した。この協議会は、従来の学識経験者や関係団体の委員のみならず、市民や市民団体代表や図書館学を学習している学生も応募によって参加し、中央図書館についての意見を交わす場として13人で構成された。中央図書館整備推進協議会では、(旧)関西外国語大学図書館等の見学、大阪市立中央図書館の視察なども踏まえ、枚方図書館が提示した「(仮称)枚方市立中央図書館整備について(案)」を参考にし、検討協議を重ねた。

そして、調査検討の結果を枚方市の目指す「出会い・学びあい・支えあい、生きる喜びをつくるまち、枚方」のまちづくり推進の一助となるように平成15(2003)年2月に「提言(仮称)中央図書館に関する報告」としてとりまとめた。報告には「数多くのサービス拠点を活かし地域情報拠点となる」といった、中央図書館が目指すべき課題とバリアフリー化やアクセス条件の整備など、中央図書館として活用するための要件を示した。

企画担当では、庁内委員会や庁外委員会、また図書館内部の調整をして、平成15(2003)年7月に「枚方市立中央図書館整備構想」をまとめ、さらに平成16(2004)年3月には「枚方市立図書館グランドビジ

ョン」を策定し、中央図書館を中心とした図書館全体の方向性を定めた。

中央図書館整備構想の中で、「図書館システム全体の基本的方向」について「中央図書館と、分館・分室・自動車文庫における効果的な集中と分担」、「IT重視のシステム構築と情報格差解消の保障」としてまとめた。

中央図書館整備構想とランドビジョンを具体的に明示したのが、平成16(2004)年8月策定の「枚方市立図書館システム再構築プラン」である。この再構築プランでは、中央図書館を中心とした図書館サービスを挙げる一方で、中央図書館と重複するエリア内のサービスポイントの見直し、具体的には①山田図書館の分室への変更、②招提分室のサービス方法の見直し、③御殿山図書館の閉館時刻の繰り上げ、④自動車文庫3ステーションの廃止などを示した。結果、招提分室は平成17(2005)年3月末を持って閉室、約23年間のサービスを終えた。

平成16(2004)年11月には枚方図書館館を休館し、中央図書館に引き継ぐべく、移転作業に入った。約50万冊の所蔵能力を持つ中央図書館の開館時に間に合うよう、全館あげて選書、発注作業を行い、山田図書館、御殿山図書館からは、移管用図書を選定、移送が行われた。

枚方図書館で使用していた書架はかなり老朽化していたが、市民の目に触れない閉架スペースの書庫用に移設するなど、古い備品の有効活用に取り組み、備品購入予算の不足を補った。

### ③中央図書館改修工事

旧関西外国語大学図書館棟は、地下1階、地上7階建て(約9,301㎡)で、広い公園の中に位置する。建物の調査・設計・改修工事・環境影響調査等を経て、平成16(2004)年度より、平成17(2005)年度の開館を目指し、改修工事を始めた。

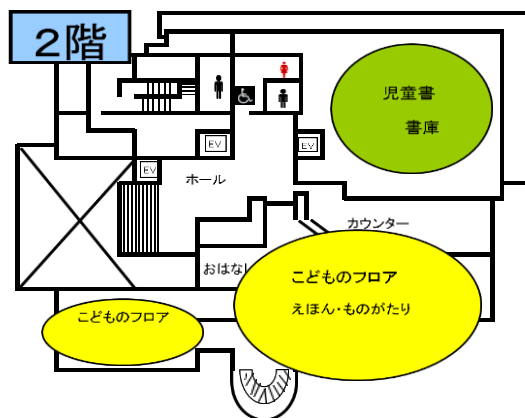
車椅子利用者などのバリアフリーに配慮するため、正面玄関左に設置したエレベーターは、前後の扉が開閉することで、方向転換せずに他の階へ行くことができるようにした。1階から6階までを結ぶ

エレベーターも1基増設し、触って場所や形態がわかる触地図を玄関ホールに設置。各階に点字ブロックなどを視覚障害者が実際に使用しての意見を取り入れて改善した。多目的トイレにはオストメイト、オムツ替えシートなどの設備を設置した。

### ④中央図書館の仕事

中央図書館では、自動車文庫の基地と作業室がある地下から、選書担当の事務室がある6階まで7層に別れて業務を行っている。1階には事務室、分館や分室への資料運搬用連絡棚などを配置した。また、1階北出口側の「軽読書コーナー」では、軽食・飲料水の自動販売機を設置し、飲食や自習を認めている。

2階は「こどものフロア」で木製の低書架に約4万冊を開架し、落ち着いた雰囲気の中に明るさや親しみがわくよう工夫した。段差はゆるやかなスロープに改善され、おはなし室や授乳室なども設けた。

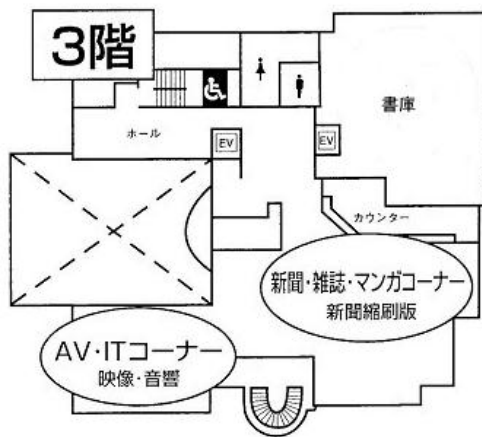


2階入り口付近



2階お話しコーナー

3階は「新聞・雑誌・マンガコーナー」と「AV・ITコーナー」のフロアで、インターネット端末、DVDやビデオが視聴できるAVブースを備えている。



3階PCコーナー



2人がけDVD視聴機

4階は最も広いフロア(1,343.09㎡)で、成人図書を開架する。予約図書の受け渡しの窓口でもあり、中央図書館サービスの中核である。入ってすぐの新作図書と特集本コーナーや、「安心と輝きの杜」にちなんで防災資料のコーナー、エコライフのコーナーもある。



4階エコライフコーナー



4階特集本コーナー

5階は「参考資料室」「障害者・高齢者サービス」「市史資料室」の3つの機能をもつフロアである。参考資料室では特定の知識・情報について調べるための辞書・百科事典・年鑑・便覧や地域資料・行政資料、25,000分の1の全国地図など専門性の高い資料も開架し、資料あるいは情報を求める利用者に対して、それらが得られるように援助するレファレンスサービスを実施している。小規模ながら「平和」コーナーも設置した。



「市史資料室」は文化財課の管轄であるが、郷土について資料を求めて来られる方には、参考資料室と協力して相談を受けている。中央図書館5階参考資料室の枚方市行政資料や郷土資料は貸出できるものがある。森繁久弥氏はじめ、枚方にゆかりの方の著作も集めている。



5階参考資料コーナー

「障害者・高齢者サービスフロア」では、点字図書や録音図書の貸出・閲覧をはじめ、障害者用インターネット端末、対面読書室、映像スタジオがある。開館当時、聴覚障害者の方も楽しむことができるようにとロビーに設置した手話・字幕付放送コーナーは撤去したが、緊急時用電光掲示を設置している。



5階フロアの障害に関する本コーナー



視覚障害者用ダイジー図書と再生機、カセット資料

6階には枚方市立図書館全体の資料収集を統括する「選書担当」があり、新刊図書購入などの検討のため各館から職員が集まって選書会議をしたり、図書装備をするための作業スペース、イベントにも使用できる「多目的室」と「会議室」、さらに「ボランティア室」を設置した。



多目的室で開いている「朗読大会」



## ⑤中央図書館開館からの新たな機能

中央図書館開館時に新たに、資料の貸出処理が正確に行われたかを確認する図書貸出確認装置(磁気式のBDS=ブックディテクションシステム)を設置した。そのほか自動貸出機、IP電話、搬送システム(地階から6階まで各フロアを結ぶ業務用のリフト)の導入などを行なった。

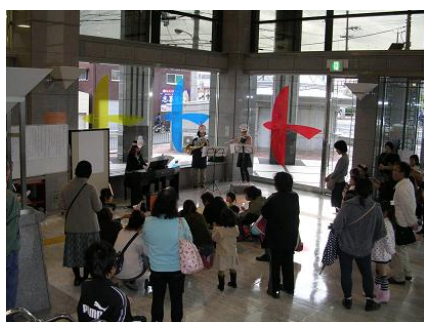
平成21(2009)年7月には、「商用オンラインデータベース」の専用端末を中央図書館3階に設置し、従来の参考図書に加えて官報や法律・経済・医療等に関する最新情報の提供をスムーズに行いビジネス支援サービスの充実を図った。また、平成26(2014)年、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを府下で2番目に導入し、利用に供している。



商用データベースは3階にコーナーがある

中央図書館は祝日も開館、休館日は毎週金曜日とし、毎月の館内整理休館日は第4火曜日とすることで分館の休館日とは重ならないようにして、いつでも市内どこかの図書館を使えるようにした。(分館は毎週月曜日と毎月第3木曜日の休館)。

音楽と本のある場所を融合させたり、絵本画家を招いてワークショップをしたり、これまでできていなかった大がかりな催しも中央図書館を中心に実施できるようになった。

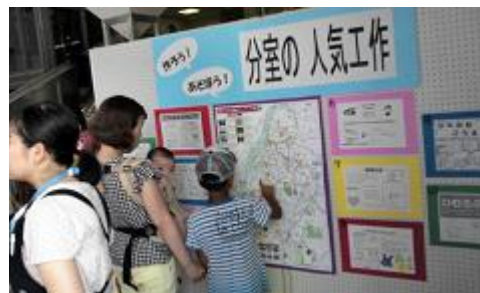


職員の楽器演奏による歌と音楽のおはなし会

平成27年度は1年をかけて10周年記念行事を行った。11月3日は中央図書館のあちこちでイベントを実施し、大いににぎわった。



7月 ミロコマチコさんと窓ガラスに絵を描く



8月には分室の人気工作を中央図書館ロビーで



11月のバックヤードツアーも大人気

## ⑥中央図書館の周辺

整備が進められていた「輝きプラザきらら」及び中央図書館周辺の整備も牧野・楠葉方面へ都市計画道路楠葉中宮線が開通するなどアクセスも向上した。芝生や樹木が植えられ、健康遊具なども配置された防災公園は、平成18(2006)年4月に「車塚公園」としてオープン。公園に面した中央図書館地下部分への飲食店を公募した。中央図書館は、緑でいっぱいの、夏には人気の小さな噴水や滝のある公園と共に親しまれている。



「スズキコージさんとお面つってパレード」(2011)

### (2)中央図書館ボランティアについて

平成17(2005)年、中央図書館開館時から、市民参加による図書館活動の充実を目指し、ボランティアの登録を市民に呼びかけた。中央図書館がこれまでになく広く、死角も多い建物であるため、館内の巡回や正面玄関での案内、書架の乱れを直すことについて重点的に研修を行い、曜日と時間帯の希望を調整してスタートした。

ボランティアの活動は、読み聞かせ講座を受講した人たちで作られた「ひらりんかたりん」によるおはなし会、図書の修理研修を受けた人による修理作業、市民からいただいた寄贈本を受け入れるための装備、リサイクル図書の整理、新聞記事のコピーやデータベース化、3階で所蔵するDVDやCDのチェックなど多岐にわたっている。新着図書案内(2,200部発行)の折込や中央図書館での行事開催時の場内整理など、縁の下の力持ち的な役割をも担っている。6階には専用作業室があり、ボランティア同士の交流の場にもなっている。当初、職員との

連絡調整は、日常のサポート、コーディネーター担当の職員が行っていたが、現在は中央図書館の職員が曜日ごとに交代で連絡係をして交流を図っている。



ひらりんかたりんおはなし会のようす



玄関正面の月替わり展示もボランティアの手作り

毎年100名を越える参加があり、中央図書館や市内図書館サービスが円滑に進められている。初回から参加の人もおられ、10年を中央図書館とともに過ごしてきてくださったことに感謝している。



ボランティアへの感謝状贈呈式後館長室で(2014)



ボランティアによる薬草いけばな展示(2015)

### (3) 枚方市立中央図書館市駅前サテライト

平成 18(2006)年 1 月に開室した枚方市立中央図書館市駅前サテライト(以下「サテライト」)は、定期的な休室日を設けず、平日午前9時から午後7時、土日祝日は午前10時から午後6時開室という枚方市ではこれまでにない施設である。セルフ貸出機の導入も目新しかった。

「サテライト」という名称は、中央図書館から蔵書をはじめとする支援を受けるという形態から、「衛星」を意味して命名された。

市民会館3階にあった枚方図書館は、京阪枚方市駅や市役所に近く、枚方市の中心というイメージが強かった。中央図書館が車塚に移転する準備で閉館した後に、市民からは京阪枚方市駅周辺に図書館設置を求める声が多く寄せられたため、移転準備作業と並行して新聞・雑誌の閲覧と資料の予約を取り扱う窓口としてのサービスを実施した。

そんな中、京阪枚方市駅北側に位置するクラボウ跡地に開設される関西医科大学附属枚方病院(以下関西医科大学附属病院)から、情報交流センター2階の一部分を無償貸与するとの申し出を受けた。

市民会館の図書館サービスコーナーは平成17(2005)年11月に閉じられ、12月にはサテライトの事前説明会を兼ねた記念式典が行われた。

関西医科大学附属病院情報交流センターは、円形の特徴的な建物で、サテライトのある2階へはエス

カレーター、エレベーターが完備されている。サテライト前の通路は病院へ続いており、反対側は旧国道をまたぐ歩道橋であるため、日中は病院を利用する人が往来し、通院時のみの一時的な利用も多い。また、子ども連れや高齢者が地域の図書室として利用し、通勤通学者の予約受け渡し場所としても定着した。

中央図書館に次いで図書貸出確認装置(BDS)や、コイン式のセルフ複写機が導入され、利用者が自由に情報検索できるパソコンの時間貸し、医学・医療に関する一般書の棚の充実など、他の分館分室にはないサービスを展開している。



## 5. 児童・ヤングアダルトへのサービスの変遷

### (1) 第2回子どもの本フォーラム

#### ①開催に至るまで

昭和63(1988)年に行った「子どもの本フォーラム／子ども・本—その豊かなかわりを求めて—」(第1回フォーラム)から「中高生の読書離れ」や「学校図書館の充実」といった課題が浮かび上がってきた。これを受けて更に踏み込んだ研究分析・意見交換によって、図書館においてのみならず広く読書活動について考える機会を持つという趣旨で、平成5(1994)年11月6日・7日に「第2回子どもの本フォーラム「子どもの生活と読書—児童・中高生世代の読書環境を考える—」を開催した。この2回目のフォーラムでは、前述の課題に基づき、特に中高生世代、いわゆるヤングアダルト(以下YA)層の読書を大きなテーマとしてとりあげた。

#### ②準備

第2回フォーラムの準備は開催年月の約1年半前、平成4(1992)年4月から開始した。まず、テーマの中心となるYA層の読書傾向ならびに生活の動向と実態を把握するために、市内在住の10歳から18歳までの男女を対象としたアンケートを図書館・学校・公民館で行った。また、より広範囲にサンプルを収集するために住民基本台帳からの無作為抽出法を用いて専門機関による業者委託アンケートも実施した。当市の図書館においてこのテーマについてこれほどの規模と重層さで行われた調査はかつて無く、非常に貴重なデータとなった。

アンケート調査の結果、対象となったYA層の多くは現状の生活に取り立てて大きな不満はなく、余暇にはテレビやビデオやCD等の視聴覚メディアが好まれ、読書についてはマンガや雑誌、ライトノベルのはしりであった当時のYAに好まれたコバルト文庫や講談社X文庫に一定の肯定的なイメージを持ちつつも、時間的・経済的な制約もあり、それ以上はやや特別なものとしてあまり身近には感じら

れていないということがうかがえた。

平成4(1992)年度は、計4回の大規模アンケートの集計等に準備委員の労力の大半がつき込まれた。その成果として作成した資料が、4種のアンケートを分析した「資料解題とアンケート調査概要報告」と枚方市立図書館のこれまでの児童奉仕を検証した「枚方市立図書館の子どもへのサービス」の2冊子である。



第2回子どもの本フォーラム発行物

平成5(1993)年度は各分館から2名の委員を増員し、前年度の約2倍の人員で記念講演やパネルディスカッションなどの具体化に向けて準備を続けた。

#### ③フォーラム当日

**記念講演**：子どもの読書環境を論ずるためには、視聴覚メディアの影響など子どもを取り巻く多様な情報化社会を立体的・複眼的に見ることが求められる。記念講演には、単に本や読書のみならず、活字以外のメディアや青少年特有の心理と動向を語る事ができる講師をという観点から森毅氏(京都大学名誉教授)に決定した。

森毅氏の講演「なんで本読むねん？」は自身の読書姿勢を起点に、書評論にも触れる幅広いものとなった。また、来場者との質疑応答も興味深い内容のものがあった。

**実践報告会**：三苫正勝枚方図書館長の基調報告の後の実践報告会では①YAサービス先進館として、図書館は必ずしも本好きだけが集うところではなく、あまり本好きでない人達にも居心地の良い場所だと

思わせること、また YA 層の意見・要望を積極的にとりあげることが大事とする埼玉県朝霞市立図書館の取り組みと、②学校図書館現場からとして、積極的に生徒のアイデアを取り入れ生徒とともに魅力ある図書館作りを進めている大阪府立長尾高校の実践が報告された。

**パネルディスカッション**：YA 層に一定影響力のあるメディアの現状を眺みつつ、その上で読書の必要性を議論できればという考えを念頭に、活発で生産的な討論となるように塩見昇氏(大阪教育大学教授)を司会に、子ども文庫関係者、教育評論家、マンガ雑誌編集長、NHK チーフディレクター、大阪音楽大学教授といったユニークな顔ぶれのパネリスト5名を決定した。

当日のパネルディスカッションでは、若者文化の一翼に携わってきた個性的な考えを持ったパネリスト達によって率直かつ刺激的な意見が交わされ、討論は読書離れから学校問題、人間論にまで及んだ。そして、情報量の膨大な現代においては、当然のことながら活字だけが子どもにとって突出した重要メディアと位置づけられることはないにしても、やはり読書は子どもの心の成長に決して欠かせないものであり、同時に読書環境を整えるうえで公共図書館と学校図書館の役割が重要であることも再認識された。2日間のフォーラム開催期間中は、市民、文庫関係者、教職員や市内外の図書館行政に関係・関心ある方々約2,721人(大人1,499人子ども1,222人)もの参加を得た。

#### ④フォーラム後の YA サービス

第2回フォーラムから既に20年余の年月を経た今、平成25(2013)年度から枚方市立図書館では、児童サービス委員会が“中高生向けおすすめ本リスト”を作り、それに合わせて市内各図書館が書架にティーンズコーナー(YA コーナー)を設け、平成26(2014)年度より市内3中学校へ司書を派遣するなど YA への読書支援活動ともなる学校図書館支援をようやく始動させた。

## (2) 児童サービス関係委員会について

### ①児童サービス関係委員会の変遷

枚方市立図書館では、分館の増加に伴い、昭和59(1984)年、各部門代表からなる奉仕活動委員会を設け、児童関係では、「児童図書選択小委員会」と「児童奉仕連絡会」が設置された。平成7(1995)年、両者は「児童奉仕委員会」に一本化され、平成22(2010)年より「児童サービス委員会」として児童サービス関係の全館的な活動を行っている。

### ②児童図書選択小委員会

児童図書選択小委員会は、児童図書の情報収集や選択について意見交換等を行う目的で昭和55(1980)年度から活動していた。

毎月、手書きの見計り図書一覧に4段階の評価を記入した「評価表」をまとめて情報を共有し、評価の高い本はリストにまとめ、基本図書として利用できるようにした。

また、分担収集した新聞書評や、全館選書という枠での外国語図書や高額図書の検討を参考にして、枚方市立図書館としての児童書の充実に取り組んだ。その後の、全館集中選書における児童選書会議へとつながった。

### ③児童奉仕連絡会から児童奉仕委員会

児童奉仕連絡会は、全館的な行事、情報交換、児童に係わる検討課題への対応などに取り組み、児童奉仕委員会に引き継がれた。

読書週間には、講演会や市内人形劇団による人形劇、子どもの本の交換会などを複数館で同時期に開催することで宣伝効果を高めた。

また、職員が作成した行事用作品について、一覧表を作成すると共に著作権許諾申請を行うことで、平成13(2001)年からは、団体を対象に貸出を行うようになった。

学校に対しては、対象を小学校に絞って取り組んだ。小学校の学校図書部会主催の会合に参加、新1年生と全教員向けの図書館利用案内チラシの配布等で PR に努めた。団体貸出やおはなし会について

は、あり方の模索が続けられ、平成 22(2010)年に、学校図書館を窓口として対応する新要領を制定し、活用されている。

リーフレット「あかちゃんといっしょに はじめてのえほん」の発行や、集中選書に使用している「児童図書見計らい表」を基に評価の高い本を一般向けにまとめた「おすすめの子どもの本」リストの作成も手がけた。

「子ども読書年」(平成 12(2000)年)、「本との出会い事業」(平成 14(2002)年)、「市制 60 周年記念事業」(平成 19(2007)年)など、全館で様々な行事に取り組んだ。

#### ④児童サービス委員会

平成 22(2010)年に名称変更され、「中央図書館開館 5 周年記念事業」からスタートした。子どもの読書活動に関するボランティア団体との連携を深める活動や、YA 向けサービスにも積極的に取り組んでいる。

### (3)小中学校との連携

#### ①図書館教育懇談会

小学校へのサービスは、図書館見学の受け入れ、訪問おはなし会、団体貸出、新 1 年生向け利用案内配布などを行ってきた。平成 5(1993)年には初めて小学校図書部会との交流会を行っている。平成 10(1998)年頃から毎年開催されるようになり、以来、学校図書部会との交流会(小学校図書館教育懇談会、以下懇談会)は 12 年ほど続いた。内容は、図書館サービス案内、絵本の読み聞かせやブックトークの実演、おはなしの小道具の製作のほか、市内 5 ブロックに分かれての意見交流を行ってきた。

学校側から図書館への意見は、図書の廃棄や管理、購入の仕方、図書館のレイアウト、読み聞かせボランティアの受け入れについて、図書の搬送、弁償などについて聞きたいというものが多かった。

回を重ねるうちに内容がマンネリ化して、毎年開催する意味があるのか、実演をする必要があるのか、情報交換しても異動等で積み重ねがない等、懇談会

の意義について何度も検討してきた。しかし、学校側から実演や本の紹介などの希望があったため、平成 21(2009)年度まで続けた。

中学校図書部会との懇談会も開催したが数回のみで、毎年の開催とはならなかった。

#### ②学校への支援から学校図書館との連携へ

平成 14(2002)年に新学習指導要領が出来てから、団体貸出の利用が増加してきた。職業体験学習(中学 2 年)の受け入れも始まった。

平成 21 年度まで小学校へのサービスは、学校から依頼されれば学級単位で団体貸出を行い、おはなし会も希望のあるところに訪問してきた。団体貸出は、ほとんど学級文庫として利用されていた。近隣の図書館から職員がおはなし会に出向くことで、本の楽しさを知ってもらい、地域の図書館を PR することにもなった。

平成 22(2010)年度に学校との連携のあり方を大幅に見直し、平成 23(2011)年度からは、図書館見学・学校訪問・団体貸出について新しい体制で始めることとした。それまで、学級担任が主に窓口になってそれぞれのクラスに団体貸出などを行ってきたが、窓口を図書館担当教諭に一本化して学校図書館へのサービスを行うこととした。具体的には、図書館見学は 1 校につき 1 回、学校訪問おはなし会は小学校 2 年生のみ対象で、年 1 回、団体貸出は 2 系統に分け、読書支援用(学校単位)、調べ学習用(学年単位)とした。毎年、各小中学校に案内をして希望を募る。読書支援用図書は、中央図書館で 100 冊単位のセットを作り、児童数の 2 分の 1 を上限に貸出している。調べ学習用団体貸出は、環境問題や修学旅行の事前学習などのテーマにあわせて、学年単位で近隣の図書館から貸出している。

平成 26(2014)年 6 月からは、市内の 3 中学校へ図書館から職員を派遣し、学校司書として配置している。司書教諭と協力して、学校図書館の管理・運営や、図書館を活用した授業等のサポートなどを行う。2 年間で成果を検証し、将来的には全中学校に学校司書を配置する計画である。

また、長年学校側から希望が出ていた配本サービスを開始し、巡回希望のあった市内の小中学校へ、2ヶ月に1度の頻度で読書支援用図書セットを配本している。

#### (4) 「枚方市子ども読書活動推進計画」について

「子ども読書活動推進計画」は「子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13(2001)年(法律第154号))」に基づく法定計画である。市町村においては努力規定であるものの、枚方市では中央図書館開館の翌年にあたる平成18(2006)年6月に第1次の「枚方市子ども読書活動推進計画」を策定した。平成17年(2005)年に「枚方市新子ども育成計画」が策定されたこともあり、図書館だけでなく、家庭や地域、保育所(園)や幼稚園、学校など、あらゆる場で「子ども読書活動推進」に取り組む計画となった。

第1次の特長としては、乳幼児に対する読書活動推進が挙げられる。

平成18(2006)年度に中央図書館が乳幼児向けおすすめ絵本リスト「あかちゃんといっしょに〜はじめてのえほん」を発行し、保健センターを通じて4か月児健診時にすべての受診者に手渡してきた。

平成19(2007)年度には子育て支援室による「絵本で子育て」をキャッチフレーズにした「ふれあいルーム」が図書館や図書館併設施設で開始され、平成27(2015)年現在も継続されている。

平成21(2009)年度には、1歳の誕生日に絵本をプレゼントする「枚方版ブックスタート」を子育て支援室が開始し、図書館においても以前からあった乳幼児向けの定例おはなし会の拡充に努めてきた。

「あかちゃんに絵本を読んで意味がわかるのか」という声もよく聞くが、よい絵本のなかには、やさしくあたたかい絵とリズムのある言葉がいっぱい詰まっている。あかちゃん絵本の読み聞かせの時間は、あかちゃんの心と言葉を育み、大人にとっても楽しい癒しのひとときとなって、あかちゃんと大人をむすぶコミュニケーションツールともなっている。

「第2次枚方市子ども読書活動推進計画」につい

ては、平成23(2011)年7月策定「第2次枚方市立図書館グランドビジョン」を受けて、教育長を委員長とする庁内委員会を設置し、平成24(2012)年6月に策定した。グランドビジョンで「乳幼児からヤングアダルト層までの子どもが読書に親しめる環境づくりの推進を重点的に進め、市立図書館サービスの特色のひとつにする」と謳っており、「第2次枚方市子ども読書活動推進計画」では必然的に「ヤングアダルト層への読書活動推進」が大きな特長となった。

ヤングアダルト(以下 YA)とは主に中学生から高校生を指す。YA層の利用は近年特に少なく、YAサービスは未知の分野であった。それだけに不安も気負いも大きかった。策定にあたって、小学4年生から中学3年生までを対象とした読書アンケートを実施したところ、学年が上がるにつれ、読書離れが進む傾向が見られた。受験やクラブ活動で忙しい YA層へ働きかけるには、学校図書館の存在抜きには考えられない。学校図書館の整備や学校と市立図書館とのさらなる連携が不可欠であることを計画に明記した。

また、市立図書館においても、YA層の読書環境整備の推進を図ることとした。計画に沿って、平成24(2012)年度から YA向けおすすめ本リストを毎年発行。市内全館にティーンズ・コーナーを設置し、YA層への働きかけに努めてきた。また、おすすめ本リストの作家によるワークショップ、中学校の授業と連携した「調べ学習コンクール」などを開催してきた。

#### (5) 乳幼児、小学生、中学生、高校生それぞれに対しての活動

##### ①乳幼児へのサービス

枚方市立図書館では、開館当初から幼児から小学生を対象にしたおはなし会を開催してきたが、平成14(2002)年から始まった学校週五日制などの影響により、特に小学生の平日利用が減少し、就学前の低年齢の子どもの参加が目立つようになってきた。一方、平成4(1992)年頃よりイギリスでスタートし

ブックスタートは、平成12(2000)年の子ども読書年に紹介されたことで、日本でも広まりをみせていた。このような状況で、赤ちゃん向けのおはなし会の要望もきかれるようになり、いくつかの図書館・分室で赤ちゃんに限定したおはなし会が手探りで始まった。職員が自主的にわらべ歌や手あそびの講習を受けたり、図書館でも研修を行ったりして、赤ちゃん向けおはなし会を開催する図書館を少しずつ増やしていった。

平成18(2006)年策定の「枚方市第1次子ども読書活動推進計画」を踏まえて、ブックスタートについて枚方市としてどのように取り組むのかを議論し関係課との調整がなされた結果、枚方版ブックスタート事業は子育て支援室が主体となることになった。そこで図書館では、職員研修、0～2歳児向けのブックリスト「あかちゃんといっしょに～はじめてのえほん」の作成と紹介された本の常設コーナーを設置した。ブックリストを館内に置き赤ちゃん連れの利用者に配布したり、乳幼児健康相談の会場に置いてもらって本と共にアピールしたりしている。



また、子育て支援室による乳幼児と保護者を対象とした交流の場「ふれあいルーム」が、図書館の集会室や図書館と併設の生涯学習市民センターなどで実施され、多くの親子の参加がある。「絵本で子育て」をキャッチフレーズに、乳幼児向けの図書への関心が高まっている。

## ②幼児から小学生へのサービス

平成に入ってから「子ども」の中では幼児から小学生の来館利用が多い。各館・分室での職員によるおはなし会や工作、人形劇などの行事を長年実施

してきた。図書館全体の行事としては、外部講師に依頼した科学遊びについての講演会や音楽会、マジック、人形劇など、秋の「読書週間」(10月27日～11月9日)の時期に合わせて毎年実施してきた。春の「子どもの読書週間」(4月27日～5月10日)も近年定着してきた。平成12(2000)年には「子ども読書年」にちなみ、児童文学作家による講演会や絵本画家の原画展を行い、親子で参加できる行事として好評を得た。

中央図書館開館後の新たな取り組みとして、平成19(2007)年からブックリスト「おすすめの子どもの本」を作成・配布したことがあげられる。子どもの本にかかわる大人に読んでもらえるよう発行したが、近年カラー印刷にしたことで子どもにも手に取られやすくなった。以後は毎年職員が1年を通しておすすめの本を選書し、毎年発行している。



「おすすめの子どもの本」2015年版

平成21(2009)年には枚方市立図書館手刷りの「読書ノート」を配布し、想定していた小学生はもちろん大人からも好評を得た。

同年行なわれた「えほんぎょうさんならべ展」は面展台(ダンボールを材料にした手作り簡易書架)を利用して表紙を見せ、ずらりと並んだ絵本の展示が、本が手に取りやすいと好評だった。





### ③中学生から高校生へのサービス

昭和 49(1974)年に香里ヶ丘図書館(当時分室)で始まった「中学生読書会」は、後に「中高生読書会」として、菅原図書館、御殿山図書館などに広がった。学校週五日制の開始や様々なメディアの登場など子どもを取り巻く状況がめまぐるしく変化する中、一時期には5つほどあった中高生読書会も参加する子どもの減少が見られ、平成 27(2015))年時点で活動しているのは香里ヶ丘図書館中高生読書会だけになっている。

中学校では新たなカリキュラムで総合的な学習の時間が取り入れられたことで、近年、職場体験学習が中学 2 年生で行なわれている。学校からの依頼で、中学生に図書館を一職場として実習体験してもらったり、図書館職員が学校で職業講話を行なうなど、ささやかではあるが中学生に図書館を知ってもらう機会を提供している状況である。

平成 24(2012)年に策定した「第 2 次枚方市子ども読書活動推進計画」の重点項目として「ヤングアダルト層の利用促進」が上げられたことでヤングアダルト(YA)対象の資料を積極的に収集し始め、YA コーナーを各館で設置した。これと並行して、中学生向けのブックリストを発行した。翌年には高校生向けのブックリストも発行し、中高生向けへの具体的な取り組みが進んだ。以降は主に小学生までを対象とした「おすすめの子どもの本」とは別に YA 対象のブックリストを毎年発行している。YA 向けの行事としては平成 24 年度から始めた中学生対象の「調べ学習コンクール」が定着し始めている。同年、クラブ帰りの YA にも来館できるように、中央図書館 2 階こどものフロアを平日 17 時閉館から 19 時閉館に延長した。

平成 25(2013)年度には子ども夢基金を利用した事業として主に夏休み期間を利用して【「いのち」のメッセージ～中高生の課外授業～楽しく心豊かに生きるために】と題した中高生向けの講演会とワークショップを実施した。7 月に今西乃子(ノンフィクション作家)さんと「犬・猫の殺処分について考える」、8 月に大西暢夫(写真家)さんと「生きるこ

と 食べること」、12 月立岩真也(社会学者)さんと「人生“勝ち組”“負け組”なんてない」というテーマで、小人数ながら難しいテーマに真摯に向き合うようすがみられた。また次年度入学の全中学 1 年生向けに利用案内を配布している。



「おすすめの本～中学生編～いのちつながる」2012 年



「おすすめの本 高校生編 絆～家族、友達、そして恋」



「おすすめの本 中学・高校生のみなさんへ」2014 年

### (6) 読み聞かせボランティアについて

読み聞かせボランティアは、枚方市内の各地域で、絵本等の読み聞かせや、ストーリーテリング、また、最近では「えほんのひろば」(注 1)等を通して、子

ども達への読書活動推進を行っている。その活動は、文庫活動、地域の集まりや図書館でのおはなし会、幼稚園・保育所・小学校での読み聞かせなど、広範囲にわたっている。その担い手も、読み聞かせのグループ、または小学校のPTA活動など多岐にわたっている。

読み聞かせボランティアは、枚方市立図書館創立当初は、文庫や図書館での活動が主であったが、平成18(2006)年6月に『枚方市子ども読書活動推進計画』が策定されると、小・中学校で以前にも増して読書推進の取組みがなされ、始業前の「朝の読書運動」や授業における図書の時間などで、ボランティアによる絵本の読み聞かせ等が積極的に行われるようになった。

平成17(2005)年9月開催の小学校図書部会と枚方市立図書館との交流会のために事前実施した『小学校における「おはなしボランティア」(注2)受入れ調査アンケート集計』では、枚方市立小学校45校中25校と市内小学校の約半数が、「おはなしボランティア」を受け入れている。またその25校での実施内容は、ストーリーテリングのみが4校、読み聞かせのみが11校、読み聞かせとストーリーテリング実施が8校、ブックトーク実施が3校、パネルシアターやエプロンシアターの実施が3校だった。また、その実施時間帯は、授業時間が17校、朝の読書時間が9校、20分休みや昼休みが1校、土曜日の「ふれ愛・フリー・スクエア」(注3)で実施されているのが2校であった。

近年ではこれに加え、小学校で「えほんのひろば」を開催する読み聞かせボランティアが出てきており、年々その数は増えつつある。(注4)こうした活動は、図書館だけでは果たせない子どもへの読書推進の裾野をより一層広げている。

一方、図書館は、読み聞かせボランティアへの支援を次のように実施している。

①本の団体貸出し

②活動の場の提供(図書館集会室の使用許可)

③ボランティア交流会(平成19(2007)年度より毎年実施)

④ボランティア養成講座(絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング等)

⑤読み聞かせ等のスキルアップ研修・講演会

⑥「ひらかた 読書ボランティアのなつやすみおはなし会」を読み聞かせグループの活動紹介とPRのため平成20(2008)年度より枚方市立図書館主催で開催

⑦「えほんのひろば」用絵本のセットと面展台の貸出し(平成20(2008)年度より)

⑧大型紙芝居の貸出し

⑨行事用作品の貸出し

⑩子ども読書活動等推進団体としての登録集会室使用許諾、研修会等へのお知らせ、読み聞かせボランティア希望者への団体PR(紹介可の団体のみ)

⑪新刊本の情報提供(おすすめ本リスト作成・配布。第1回は、平成19(2007)年度新刊分より選定し平成20(2008)年度に作成・配布。その後毎年実施。)

\*注1. 絵本あれこれ研究家の加藤啓子氏が実践する新しい絵本の楽しみ方。「ダンボール製面展台」等を使って300冊程度の絵本の表紙を見せながら展示し、その絵本をお互い一緒に読み合う「ひろば読み」など、楽しみながら本に親しむ活動。

\*注2. 「おはなしボランティア」は読み聞かせボランティア。

\*注3. 「ふれ愛・フリー・スクエア」各学区で休日(土曜日)に小学校を活用し、地域のボランティアにより運営されている事業。

\*注4. 枚方市立図書館では平成19(2007)年度に面展台を作成し、この後「ぎょうさん ならべ展」を平成22(2010)年まで4回開催。平成22(2010)年10月、読み聞かせ活動ボランティア支援事業『「えほんのひろば」ボランティア養成講座』を開催。この後、読み聞かせボランティアによる、「えほんのひろば」の小学校開催が広がる。

\*注5. 当初のタイトルは「ひらかた 絵本とおはなし じゅずつなぎ」だったが、平成25(2013)年度より現タイトルに変更

## 6. 障害者サービスの変遷

### (1) 障害者サービス委員会の活動

#### ① 設置までの経過

枚方市立図書館では、“誰もが利用しやすい図書館”にするために図書館が抱える様々な障害をなくすための検討をすすめてきた。

その具体的な活動は、昭和51(1976)年に市内の点訳奉仕グループより点字図書の寄贈を受け入れた枚方図書館が、視覚障害者への郵送貸出を開始したことから始まった。

国連が定めた「国際障害者年」を契機に障害者の利用促進のための施設・設備等の充実・改善が進められた。その一環として図書館でも、点字図書蔵書目録点字版の作成・配布や視覚障害者への点字図書の郵送貸出も開始した。昭和57(1982)年には点字図書の自宅配本サービスも開始した(後述)。

同年には障害者サービスを特色ある活動の一つとして掲げた楠葉図書館が開館し、朗読ボランティア(有償)の協力による対面朗読(のちに「対面読書」と改称)や録音図書の製作、郵送貸出の実施、更に併設する楠葉公民館との共催による朗読講習会も毎年開催するなど、中央図書館開館の平成17(2005)年まで、障害者サービスの中心的機能を担った。

その後、サービスの広がりに伴って様々な問題や課題が表面化したため、全館的な検討の場として昭和60(1985)年に障害者サービス委員会を設置した。

#### ② 設置後の活動

障害者サービス委員会ではまず、全館の現状と課題を把握するために実態調査を実施すること、併せて学習会開催により問題意識の共有化をはかり具体的作業につなげていくことを今後の活動方針とした。

以来、各館に障害者サービスの窓口担当者を配置したほか、内外関係者を講師に招いての学習会の開催、更には利用者懇談会を継続的に開催するなどの活動を重ねていった。

そして、平成元(1989)年には委員会としてこれまでの活動を「障害者サービスの現状と課題1988」という報告書にまとめて全職員に配布、意識の共有化をはかった。

さらに、他の委員会等とも連携しながら新館でのサービス充実を提言したり、視覚障害職員の配属を契機にして楠葉図書館で全館職員を対象に体験型の障害者サービス実務研修を開催した。

平成2(1990)年度には点字制定100周年記念行事を開催。盲聾二重障害者の講師による講演会は新聞記事にも取り上げられ市内外より約130名の参加を得た。

平成3(1991)年度には聴覚障害者を対象に利用者交流会を開催し、マンガを置いてほしいとの要望は次年度の資料収集検討委員会への具申につながった。平成6(1994)年度には障害者サービス委員会内に聴覚障害者サービスワーキンググループを設置して検討を重ねた結果、対象を聴覚障害者に限定したマンガの貸出サービスが始まり、やがて一般利用者も含めたマンガの一般貸出につながった。

また、平成4(1992)年より今後の障害者サービスの実施計画についての検討を開始し、平成6(1994)年に「枚方市立図書館障害者サービス基本計画」としてまとめて、中央図書館開館後の活動に引き継いだ。

中央図書館開館後は障害者・高齢者サービス担当が委員会事務局となり、「点字資料・録音資料の取り扱いに関する職員マニュアル」や「障害別窓口対応マニュアル」の「視覚障害者編」及び「聴覚・言語障害者編」の作成など活動が続いている。

### (2) 障害をもつ職員の配置

図書館における障害者サービスは、障害を持つ職員の配属によって発展する。サービスを受ける立場の障害者がサービスを提供する側の図書館に配属され、提供するサービスの企画・提案・検討を行い、

実行することで障害者サービスが充実してきた。現在実施している対面読書、録音・点字図書の貸出・製作、情報提供サービス、手話・字幕付き映像資料の制作、行事等の障害者サービスも障害を持つ職員が存在が必要不可欠である。

### ①視覚障害者編

平成元(1989)年に枚方市として初めての点字受験による職員採用試験(非常勤)が実施され、全盲職員1名が楠葉図書館に配属された。更に翌年、図書館司書が公募され、先の非常勤職員が合格して正職員として勤務することになった。

当時、受け入れまでの準備作業として次のようなことを行った。

- ①他市の実態調査や見学。
- ②職員全体集会を開催し、人的な面で留意すべき点などを協議。
- ③視覚障害職員の通勤経路及び職場環境の点検と整備。
- ④視覚障害職員をめぐる文書処理の検討。
- ⑤点字ワープロシステム等購入物品の検討・発注。
- ⑥人的補助を含めた視覚障害職員が担当する具体的業務内容の検討。
- ⑦人事課からの依頼に基づく、人事募集要項など各種関係文書の点訳など。

このような多方面にわたる検討や準備を行ったが、受け入れ前の懸念事項の大半は対話を重ねる中で解決できた。障害者雇用にとって相互理解を深めることがいかに大切なことかを物語っている。

### ②聴覚障害者編

聴覚障害職員の配置は平成6(1994)年に始まったが、二人目の職員が平成13(2001)年4月、枚方図書館に配属されてから大きく動いた。

まず、聴覚障害者や手話通訳者を対象とした新聞の購入や雑誌の貸出、手話・字幕付き映像資料の貸出などを開始した。

平成17(2005)年に開館した中央図書館の5階には障害者・高齢者サービス資料室が設置され、視覚

障害職員、聴覚障害職員が配属された。また、手話通訳ができる職員や障害者サービス専門員も配属され、聴覚障害職員の情報保障に努めている。

映像スタジオも設置され、手話・字幕付き映像資料の制作を行っている。

図書館を利用する機会が少ない聴覚障害者に図書館まで足を運んでもらうために聴覚障害職員が「手話でたのしむおはなし会」や「手話ブックトーク」などの行事を発案し、定期的開催している。

### (3)「対面朗読」から「対面読書」への展開と変化

「対面読書」とは、活字による読書が困難な人に対する音訳サービスのことである。2時間を1単位として実施し、読み手は図書館に個人登録している「音訳協力者」が担当し、利用者の希望する本や資料を音訳する。

対面朗読サービスは昭和57(1982)年に楠葉図書館の開館に伴って始まった。

楠葉図書館には対面朗読室を設け、利用者のメモ用に点字タイプライターや録音用にテープレコーダーも整備した。サービスの対象は視覚障害者等、通常の活字による読書が困難な人である。音訳者は、楠葉図書館開館後、楠葉公民館と共催で実施した対面朗読ボランティア養成講座の受講終了者に依頼した。

当初から対面朗読は読み手に謝金を支払うことで図書館の業務としての位置づけと責任を明確にし、読み手である音訳者をボランティアとは呼ばずに「音訳協力者」とした。

楠葉図書館での対面朗読サービスの実施以降、各図書館でも随時、対面朗読サービスが開始された。牧野図書館以降の新館には対面朗読室が設けられ、平成17(2005)年に開館した中央図書館では三つの対面朗読室と高さの調整が可能な机を設置し、車いすを使用している人にも利用しやすい環境を整備した。

中央図書館開館以降はサービスの名称を「対面朗読」から「対面読書」に変更した。これは読み手の行為である「朗読」から、サービスを受ける側の利

ユーザーの行為としての「読書」を重視したものである。

利用者の多くは視覚障害者だが、加齢により視力が低下した高齢者も多い。読まれる資料は小説やエッセイ等の読みものが多いが、新聞や雑誌を読む人もいる。

枚方市立図書館は、市内 10ヶ所で実施可能なサービスポイントを整備していることから、利用者が近くの分館で対面読書を利用できるというメリットがある。外出する機会が限られている視覚障害者にとって対面読書は趣味の読書を楽しむと同時に、社会との接点を維持することにも繋がっている。

ここ 10年の統計を見ると、ピークの平成 21(2009)年度の649回を境に実施回数は減少している。これは、頻繁に利用されていた方が高齢などの理由から減少したことと、PR 不足により利用者が増えなかったことが原因と考えられる。

対面読書は今後も障害のある利用者の読書を保障する重要なサービスとして位置づけ、継続するとともに、多くの人に利用してもらえよう PR に努めていく。

#### (4) 機器の整備とメディアの変化

ここでは、機器は大きく以下の二つの用途と規定し、いわゆる施設面での「バリアフリー」のための設備と区別する。

- ①視覚障害者、聴覚障害者用資料製作用機器。
- ②読書と情報入手を支援するための機器。

機器の整備は昭和 57(1982)年の楠葉図書館開館後から始まった。

楠葉図書館は録音資料製作も始めた。当時の録音媒体(メディア)はカセットテープである。そこで、録音資料製作専用のデッキとマイク、ヘッドフォン、複数のコピーを複製できる「高速ダビング機」、テープの中身を消去するための「消磁機(イレイサー)」も揃えた。

1990年代半ばになると、本格的にパソコンが普及し始め、資料製作の分野にも変化が生じた。つまり、アナログ機器からデジタル機器への変化である。

カセットテープで製作していた録音図書はデジ

タル録音された音源をCDにコピーして提供する「デージー(DAISY)資料」に変わる。点字板や点字タイプライターで直接紙に打ち込んで製作していた点字図書はパソコンを使用したパソコン点訳に変わり、点字プリンターや立体コピー機を使って印刷するようになった。

当館でデジタル化が本格的に進んだのは平成 17(2005)年中央図書館開館の時である。デージー資料製作用パソコン(専用編集ソフトがインストールされたもの)、デージー資料再生用プレイヤー等を揃えた。

また、平成 20(2008)年には「24時間テレビ 愛は地球を救う チャリティー募金」からデジタル録音機や CD コピー機等の寄贈を受けた。点字のサービスでは「ASKK てんてん」という、表示部が回転して点字を表す小型の機器を導入し、利用者に貸し出すサービスも行った。

そして、中央図書館は開館当初から聴覚障害者サービスにも取り組み、映像資料に日本語字幕や手話を挿入するための編集システムソフトや撮影用デジタルビデオカメラ等を整備した。

また、中央図書館では利用者の読書支援と情報入手のために IT ルームを設けた。視覚障害者用に画面音声化ソフトをインストールしたパソコン、点字ディスプレイ、OCR ソフトとスキャナ等を揃えて、パソコンやインターネットの操作に不慣れな利用者にも開放し、簡単な講習も行った。肢体障害のある利用者には入力支援ソフトを整備し、IT ルームでのパソコンの使用をサポートした。

拡大読書器は、平成 27(2015)年 4月現在、中央図書館を含め、6館が設置している。

大半の機器やソフトはその後も買い換えや更新を行い、引き続き使用されている。ただ、一部はすでに生産停止になっており、現在では提供できていないサービスもある。今後も進化する機器を利用しながら、よりよいサービスにつなげていきたい。

#### (5) マンガの提供について

平成 3(1991)年 11月、聴覚障害者との交流会が牧

野公民館で開催された。その時、参加者から「図書館には私たちが利用できる資料が少ない。マンガがあれば図書館も利用しやすい」という意見があった。日本語の情報が耳から入らない聴覚障害者の中には絵や表情、手話を読み取ることは得意だが、文字や文章の理解が苦手な人もいる。マンガは吹き出しに出てくる日本語と絵をつなげればその内容を理解することができるという趣旨である。これを契機に、市民に「マンガに関するアンケート調査」を実施し、図書館としてマンガの貸出の検討が始まった。

そして平成7(1995)年4月から山田図書館(現：山田分室)で、平成10年(1998)年5月から牧野図書館で、聴覚障害者に限定したマンガの貸出を開始した。

当時は聴覚障害の利用者に「マンガ利用券」を発行し、図書館の事務所内に別置しているマンガ専用の書架からマンガを選んでいただき、図書館のカウンターで貸出をしていた。

しかし、聴覚障害の利用者から「自分たちだけを特別扱いしないでほしい」、「マンガを事務所内ではなく、一般の図書と同じように自由に借りたい」等の指摘を受けた。

また、一般の利用者からもマンガの利用の限定を見直してほしいとの要望があり、検討した結果、平成12(2000)年4月、一般の図書と同じように、だれでもマンガを利用することができるようになった。

## (6) 特徴的な聴覚障害者サービス

### ①手話でたのしむおはなし会

中央図書館では毎月第四土曜日、「手話でたのしむおはなし会」を開催している。きこえる子どももきこえない子どもも、誰でも一緒に楽しめるおはなし会である。

きっかけとなった出来事がある。枚方図書館のおはなし会に、聴覚障害を持つ両親がきこえる子どもと参加された。おはなし会の終了後、その母親から手話で「子どもはおはなし会を楽しめたけど、私たちには内容がわからなかった。手話がついていれば子どもと一緒に楽しめるのに…」と言

われた。

その後、館内で話し合いを重ね、平成16(2004)年2月、枚方図書館で「手話による読み聞かせ」を開催した。

「手話による読み聞かせ」は定期的には実施したが、試行錯誤の連続で、反省と話し合いを重ねた。

中央図書館開館後、平成18(2006)年1月から定例で「手話でたのしむおはなし会」を毎月第四土曜日に開催している。



「手話でたのしむおはなし会」は聞こえる子どもも聞こえない子どもも、誰でも一緒に楽しめるおはなし会である。聞こえない子どもだけが対象であれば、音声は不要で、参加した聞こえない子どもの年齢に合わせた手話や身振りでの表現で十分である。しかし、「手話でたのしむおはなし会」の場合、音声も手話も必要である。聴覚障害の職員が語る(手話で表現する)絵本は音声がなく、手話だけで進められるので、絵本の内容を伝える音声が必要になる。聴覚障害の職員は絵本の内容を覚え、それを頭の中で映像化して絵本に合わせて手話で表している。単純に手話表現だけを読み取っていると、絵本の内容とズレが生じてくる。

「手話でたのしむおはなし会」では聴覚障害の職員が手話で絵本を表現し、同時に手話のわかる聞こえる職員が同じ絵本を声に出して読んでいる。手話と音声に出している口の形をお互いが見て、ページをめくるタイミングをはかりながら絵本を読み進

める。

しかし、聞こえる職員が一人で絵本を読み進める場合、音声を出しながら手話を表現するので、音声（文）に合わせた手話表現になる。一人で二つの言語（音声日本語と手話）を同時に表現することはとても難しい。手話に集中すると、音声を忘れる。音声中に集中すると手話がおろそかになる。物語など長い絵本は音声と手話を同時に表すことが難しいので、クイズ形式の絵本やストーリーの少ない絵本を選ぶことが多い。



基本的には絵本は譜面台に載せて、読み進める

## ②聴覚障害者のための利用案内

聴覚障害者の図書館利用の促進を図るため手話による中央図書館の利用案内のDVD『聴覚障害者のための利用案内 2005(平成17)年度版(字幕版)』を作成した。この利用案内は聴覚障害職員が図書館の利用方法を手話で解説している。また各フロアの担当職員も事前に表現する手話を覚え、不慣れながら手話で担当フロアを紹介している。

開館5年後の平成21(2009)年には、聴覚障害者向けの新しいサービスの紹介を含めた『改訂版』を聴覚障害職員と手話のできる職員の出演で作成した。

## ③聴覚障害者のための図書館見学・利用説明会の開催

平成19(2007)年3月、聴覚障害者のための中央図書館の見学及び利用説明会を開催し、中央図書館制作の映像資料等の紹介や図書館サービスについての意見交換を行った。

## ④手話ブックトーク

平成20(2008)年、中央図書館6階多目的室で第1回手話ブックトークを開催した。

手話ブックトークの対象は枚方市内に在住・在学・在職の聴覚障害者であるが、手話を学習中の一般利用者の参加も多い。内容は昔話などの手話語り、何かテーマを設けて関連する本を紹介するブックトーク、新着図書・映像資料の紹介などである。読み取り通訳はなく、手話だけで進行する。聴覚障害職員と手話のできる職員が担当しており、年に3回、開催している。



## ⑤字幕および手話付き映像資料の貸出サービス

聴覚障害者団体から受けた「字幕付き邦画ビデオの貸出サービス」の要望を発端として、障害者サービス委員会で検討した結果、平成15(2003)年度から「字幕および手話付き映像資料の貸出サービス」を実施した。

## ⑥手話・字幕付き映像資料の制作

図書館主催の「字幕挿入作業に関する技術講習会」の受講修了者が「字幕挿入等編集協力者」となり職員とともに手話・字幕付き映像資料を制作している。

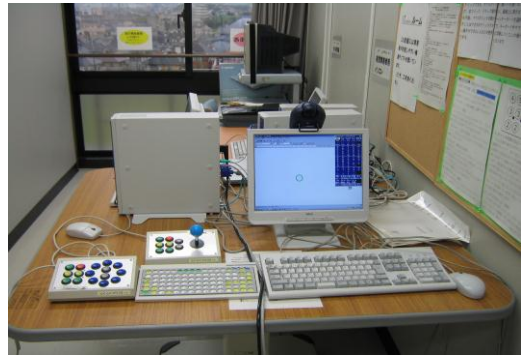
映像スタジオで、聴覚障害の手話語りを収録し、収録した映像を編集して、手話版や字幕版の映像資料が作られる。現在は、中央図書館で年3回開催している「手話ブックトーク」の映像資料の制作を中心に行っている。

手話・字幕付き映像資料の作成には膨大な時間がかかる。1時間の映像資料が完成するまでに1年から3年の時間がかかることもある。なにより手話の

日本語翻訳作業に相当な時間が費やされる。1分の手話語りを翻訳するのに一か月以上かかることも多い。映像に挿入する日本語字幕は字数に制限があるため、簡潔な訳文が必要である。手話には表れていない気持ちを表現するため、直訳ではなく意識する技術も必要である。

また、挿入した字幕を数人で校正するのだが、校正するたびに新たな日本語表現が飛び交い、その都度、訳文を検討する。

年間に制作できるタイトル数は少ないが、新しい映像資料を心待ちにしている利用者も多い。制作した映像資料は中央図書館の3階と5階のDVDコーナーに置いている。聴覚障害を持つ人に限らず、手話学習中の一般利用者にもよく利用されている。



手に障害のある方向けのいろいろなキーボード



パソコンの画面の情報をピンで点字に表し、指でなぞって読める

**中央図書館の手話ブックトーク**

手話版

2011.11.12

テーマ

1. どんで!
2. 夏空神と風の神
3. 卒の紹介
4. ビール

DVD: 64分

※手話村(手話・音声なし)

秋田市立中央図書館

障害者・高齢者サービス

映像スタジオ

中央図書館の手話ブックトークコーナー

11月12日

64分



視覚障害者の意見で改善した玄関と2階間の階段手すりと点字ブロック



使いやすくした事務所前に続く階段



## 7. 分室サービスの変遷

平成2(1990)年の津田図書館開設にともなって、平成元(1989)年に津田分室が閉室した。鉄道の駅から近いなど地理的に利便性の高い地域を中心として分室から分館へと展開していった結果である。

残った13分室は開室日数を増加させるなど市民の利便性の向上に取り組んだ。昭和49(1974)年より西口公設市場内で開室していた枚方公園分室を、平成2(1990)年1月の枚方公園青少年センターの新築と同時に移転し、2階にリニューアル開室した。分室としては初の複合施設で、当初の週4日だったが利用状況に合わせて、8月には日曜日を含む週5日開室をするとともに、初めて午前10時30分からの開室とした。



現在の枚方公園分室(平成27(2015)年)

この年、各分室は小学校1年生に向けて図書館利用案内のPR紙を作成し、近隣小学校に出向き先生方に直接配布を依頼するとともに、分室のPRを行った。後に分室職員でPR委員会を作り全小学校に配布するようになる。この手法は、現在は児童サービス委員会が引き継いで全館で全小学校を対象に取り組んでいる。また、快適な利用ができる施設にと望まれていたクーラーを全分室に設置した。さらに、藤阪分室が開室15周年を迎えた年でもあり、記念文集を発行した。

平成3(1991)年1月に藤阪分室、宮之阪分室が週4日開室、平成4(1992)年には禁野分室を除く全分室を週4日開室とした。

平成5(1993)年5月には図書館サービスの空白地

帯であった東部地域に分室を建設するため、氷室分室検討委員会に分室非常勤職員も加わって発足し、平成6(1994)年12月に氷室分室の開室に至った。平成7(1995)年には小中学校の夏休み期間の午前開室の試行を氷室分室で始めた。

平成5(1993)年11月6日、7日開催の「第2回子どもの本フォーラム」では、分室は工作の部屋を担当した。普段の分室での工作行事の経験をいかして作成指導をし、親子連れの来館者に喜ばれた。

平成7(1995)年、「枚方市事務事業再構築プラン」が発表され、図書費の大幅な削減とともに分室の見直しを検討した。利用者の反対運動もあったが、平成13(2001)年3月末に野田分室、南船橋分室、禁野分室の3分室を閉室した。同年9月に村野分室をサプリ村野(旧村野小学校)に移転した。分室では、90年代から乳幼児と保護者対象のおはなし会を始めていたこともあり、ひらかた版ブックスタートが子育て支援室所管で始められた時にも円滑に連携することができた。乳幼児健診の部屋で絵本の紹介と読み聞かせを行い、赤ちゃん絵本のリストを手渡した。後に枚方市立図書館全体の赤ちゃん絵本リストや枚方版ブックスタート事業への図書館の関連事業につながっている。

さらに、この頃から近隣小学校からの要望で、学校訪問おはなし会に分室職員が数多く出向いた。平成12(2000)年3月から釈尊寺分室で、続いて平成14(2002)年に東香里分室、茄子作分室、平成15(2003)年に宮之阪分室が、それぞれの近隣小学校5校の1年生～6年生、支援学級などに年間5～6回おはなし会を実施した。児童の利用促進の一役をになっていたが、平成23(2011)年にサービス全館統一を図ったため、結果として分室の訪問おはなし会は大きく回数を減らすことになった。

開室曜日については平成14(2002)年に村野分室で午前開室が始まると同時に、昭和59(1984)年9月から試行していた村野分室と茄子作分室の土日

の隔週開室を、全分室土曜日開室へと統一した。

また、村野分室、茄子作分室、東香里分室で、これまで実施していなかったマンガの貸出をはじめ、徐々に広げて現在は全分室で所蔵、貸出をしている。

平成 17(2005)年 4 月の中央図書館開館に伴い、中央図書館エリア内の招提分室は 3 月末で閉室し、代わって 9 月から土曜日の午後のみ招提小学校図書室を活用した貸出を始めた。自動車文庫の配本によるものだったが、大阪府内で発生した小学生無差別殺傷事件の後でもあり、学校内への出入りについて安全面とのバランスがとりにくく、利用が広がらないまま、平成 21(2009)年 12 月に終了した。中央図書館開館に伴っては、山田図書館も 3 月末で閉館し、規模を縮小した上で、6 月に初のコンピュータ導入分室(山田分室)を再オープンした。枚方公園分室、村野分室にもコンピュータを導入し、9 月に再開室した。

平成 21(2009)年 4 月、全分室へのコンピュータ導入が実現し、市内の図書館すべてをオンライン化した。コンピュータ導入を始めて 12 年、中央図書館開館から 4 年、長期に亘る手作業との二元的貸出方式を解消した。

平成 23(2011)年 7 月から 9 月にかけて、枚方市子ども夢基金活用事業として『奏でる 絵本・語る音〜子どものための絵本と音楽の出会いコンサート〜』を枚方演奏家クラブと分室職員で、各分室の地域の公民館など 9 会場で行った。どの会場も満員で、参加総数 846 人(子ども 507 人 大人 339 人)だった。

平成 24(2012)年はサプリ村野のリニューアル工事に伴い村野分室は 1 年間休室となり、翌年 4 月再開室した。

分室では、5 年や 10 年ごとに開室周年記念行事を工夫して実施してきた。平成元年以降だけをみても、以下の通りである。

☆平成 7(1995)年 11 月。藤阪分室が開室 20 周年。「宮沢賢治の世界 林洋子ひとり語り」と人形劇を開催し記念文集発行。

☆平成 10(1998)年 11 月。禁野分室開室 25 周年。土居安子氏による記念講演会「子どもの本を楽し

む」と人形劇を開催し、記念文集を発行。

☆平成 17(2005)年 9 月。藤阪分室、東香里分室開室 30 周年。手作りのペープサートと、バルーンアートを開催。

☆平成 18(2006)年 7 月。茄子作分室開室 25 周年。影絵とバルーンアートを開催。

☆平成 19(2007)年 8 月。香里園分室開室 20 周年。人形劇を開催。

☆平成 21(2009)年 7 月。釈尊寺分室開室 30 周年。ブックトークや講師を招いての「紙ひこうき作り」などを開催。

☆平成 23(2011)年 1 月。茄子作分室開室 30 周年。人形劇を開催。

☆平成 25(2013)年 7 月。宮之阪分室開室 30 周年。人形劇を開催。

☆平成 26(2014)年。村野分室、枚方公園分室 40 周年、氷室分室 20 周年。

☆平成 27(2015)年。40 周年の藤阪分室は落語の会、東香里分室は職員による科学遊びとバルーンアート。



東香里分室 40 周年記念行事(平成 27(2015)年 12 月)

地域の施設を借りたり、市内で活動する人形劇団にお願いしたりの身近な行事である。

利用者との距離が近く、地域の中の枚方市立図書館最前線として 30 年、40 年と歩んできたが、最多時 16 あった分室も、現在では 11 分室となった(サテライトを含む)。授業時間の延長や、その他の社会変化の影響もあり、かつては押し寄せるようだった小学生の利用は減って、乳幼児と保護者や高齢者が利用の中心になってきている。徒歩圏内でより気軽に利用しやすい図書館施設へと、施設面の課題など検討が求められている。

## 8. 相互貸借・レファレンスについて

### (1) 相互貸借

図書館法によると「図書館」とは、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」とあり、枚方市立図書館は、市民の希望にそえるよう取り組んで来た。

枚方の図書館活動初期には、選書の参考に市民の図書に対する要望やその傾向を知るための希望図書制度という制度があった。現在はそれをより具体化した予約・リクエスト制度を実施している。当時の合言葉でもあった「草の根を分けても利用者の求める資料を探し出して提供する。」という姿勢で市民からの要望に対応してきた。

コンピュータ導入前、職員は予約・リクエスト用紙に記入されている書名の確認を複数のツールで行ったり、出版社に問い合わせをしたりし、蔵書の有無を確認にも予約・リクエスト用紙の束を片手に目録カードをひたすら繰った。図書館の蔵書を管理する目録の整備がまず必要で、納入された図書の目録カードを各館で一枚一枚所定の位置に納めていた。早朝、市内の他の図書館を回った後出勤したり、会議などで出向いた際に目録カードと向き合ったりもした。知り合いの他市の図書館員と所蔵確認を個人的に頼みあうことも珍しくはなかった。

やがて、職員の個人個人の努力だけでは処理しきれない量となり、市外の図書館と図書の貸し借りを相互貸借を制度として整え、勤務時間内に府立図書館等へ借受けに出向くようになった。2人がかりで大きなバッグを担いで階段を上り下りし、電車を乗り継ぎ、向かった府立中之島、夕陽丘、大阪府立図書館では、目録調べ1時間、書架探し30分、手続きのための書類作成といった手順で、百冊を超えるような図書を借り受けた。

予約・リクエスト業務にとって電子機器の発達、図書館への導入の効率は非常に大きい。

まず、ファクシミリの導入により、各館に行かずとも蔵書を検索することが可能となり市内未所蔵資料の特定が早くなった。平成2(1990)年、枚方図書館、平成5(1993)年に全9館にファクシミリを導入。平成3(1992)年には、図書情報を知るためのJ-BISC、N-BISCを導入した。主に図書発注に使用するものだったが、インターネットが普及していなかった当時、予約・リクエスト用紙に書かれた書誌事項確認においては作業時間の短縮となった。

平成8(1996)年、大阪府立、大阪市立の両新中央図書館が開館する。開館準備のため相互貸借の一時停止期間があり、府内の図書館は大きな借受け先を一時期ではあるが失った。これにより、これまで枚方と連携の少なかった北河内ブロック外の一部の府内図書館と直接協力関係を結ぶ転機となった。

平成9(1997)年、菅原図書館が新館移転すると同時に枚方市初のコンピュータ導入が始まり、平成11(1999)年には枚方図書館、その後順次分館に導入となった。平成15(2003)年、図書館のホームページにおいて蔵書検索を開始。翌年、かな検索から漢字検索へバージョンアップしたことにより、書名や著者の表記通りの入力による検索が可能となった。他市の図書館においても、徐々に従来のパソコン通信による蔵書検索から、インターネットによる広く開かれた蔵書検索となる。

平成17(2005)年、中央図書館を開館し、蔵書冊数を大幅に増加した。利用の増加に伴って予約リクエストも増えた。他市から求められること依頼することも増え、他市の所蔵調査はもとより、新規相手館の借受け手続きを確認することに当初苦労した。

平成13(2001)年、枚方市内6大学との間で「図書館資料の貸借・複写に関する協定書」を締結した。しかし、大学の市民への図書館開放が進み、協定書に基づく手続きは少なくなった。

インターネットの普及によって、誰でも出版情報や所蔵情報を入手することが容易となり、他市の住

民からの問い合わせが寄せられることが増えてきた。情報はつかめるのだが貸出が出来ないなど、その後の手続きや物流が伴わない事例がある。また、市民から他市へ直接問い合わせたり、連携のない民間施設資料について申し込みされることもある。図書館への要求は多種多様となっている。変化に対応しつつ、草の根をかき分けてでも市民の求める資料を提供する努力は変わらない。

## (2) レファレンスサービス

レファレンスサービスとは、学習・研究・調査を目的として、図書館利用者が必要な情報や資料を求めた際に、その問題解決に向けて、お手伝いを行うサービスである。市民の疑問や課題は、生活のことや仕事、趣味、健康など多岐に渡る。それらの答えに結びつく資料の所蔵や所在の調査から内容の説明、紹介等行う。受付はカウンターに限らず、利用者から声をかけられた場所が窓口となる誰にでも気軽に利用できるサービスである。

レファレンスサービスに大きな変化をもたらしたのが、平成 13(2001)年 7 月に大阪府立図書館が、大阪府下の図書館検索・予約システムにおける連携強化(大阪府 Web-OPAC 横断検索)を始めたことである。このシステムの開始により、資料の所蔵や所在の確認が、図書館のみならず個人でも気軽に行えるようになり、市民の資料への要求は高まってきた。

こういった要求に対応できるよう、図書館計画〔枚方市立図書館グランドビジョン平成 16(2004)年 3 月〕を策定し、平成 17(2005)年 4 月開館の中央図書館にレファレンス資料を取り揃えた参考資料室を設置した。

平成 21(2009)年 4 月には、市内全館・全分室がオンラインでつながり、枚方市内での所蔵確認がより早く行えるようになり、レファレンスにおけるサービスの充実が図られた。

一方で、レファレンスの内容においては、図書館を通じて、本でしか得られなかった情報が、インターネットで容易に得られるようになり、知識への要求度は、ネット等で知りえる情報はもとより、より

専門的で高度な情報も求めらるようになった。

枚方市立図書館では、より幅広い知識の提供を実現するため、平成 14(2002)年に、国立国会図書館総合目録ネットワーク(ゆにかネット)参加への登録をおこない、日本全国からの検索および資料提供を容易に受けらるようにした。

また、より専門的で高度な情報への習得に応えるため、国立国会図書館所蔵によるデジタルコレクションの閲覧を開始し、印刷を含む資料提供を平成 26(2014)年 10 月より実施した。

平成 23(2011)年 8 月より国立国会図書館インターネットレファレンスサービスへの登録を行い、専門的な資料提供や質問に対応できる体制を整えた。

併せて今までのレファレンスにおける情報をデータ整理し、事例集としてまとめ、キーワードによる検索を可能にし、いち早く、資料や情報を提供できる体制を整えた。

また、膨大な情報から必要な情報へ辿り着くことができるよう、特定主題に関する検索方法や手段を記したパンフレットツールを作成し、より分かり易く資料へ辿り着けるようツールの作成をおこない提供している。今後、このようなツールや資料の要求が増し、レファレンスサービスにおいてもより道しるべとなる情報提供が必要とされると考えており、従来の書名・見出し検索でのアプローチから、本文・内容でのデータ提供サービスに取り組んでいきたい。

具体的には、電子図書によるレファレンス提供や、地域資料の電子化による提供、商用データベースの活用等、これからの時代にあったサービス展開により、より早く、より確かに、よりたくさんの情報提供、資料提供に取り組んでいきたい。

レファレンスサービスとは、整理と提供の繰り返しである。

これからも、より多くの「？」にお応えできるよう資料やサービスを整えるとともに、職員の研鑽及び育成が必要であると考えます。

## 9. 市史資料室と枚方地域コレクション

### (1) 市史資料室の収集資料

中央図書館5階にあって文化財課が所管する市史資料室では、枚方に関する歴史資料を収集している。江戸時代を中心とした古文書から現代の行政文書まで、広く収集対象にしている。その資料を大きく分類すると、現物資料・印刷資料・視聴覚資料の3つに分けられる。

現物資料としては、古文書・古記録と公文書（行政文書）がある。これらの資料は、この世に一点しかないものである。古文書は市史編さん時に借用したものとその後ろに寄託・寄贈された新資料である。公文書は、保存年限を満了したもののうち、歴史的価値のある文書を選別して収集している。ただ、未整理のため未公開である。

第二は印刷資料で、さらに細分すると、①郷土資料、②行政刊行物、③歴史図書に区分できる。

①郷土資料とは、枚方地域に関する図書・雑誌のほか、地図、新聞、新聞折込広告、チラシ、市民団体の定期刊行物などである。図書館がいうところの「枚方地域コレクション」に該当する。

地図としては、3000分の1の白地図。昭和40年代前半の地図は、市街化が進行する前の市域の状況がわかる貴重な資料である。

新聞は、全国紙5紙の紙面から枚方の記事を切り貼りしたスクラップブックである。また、北河内や東部大阪等の地方面を切り取って収集し、マイクロ撮影している。

②行政刊行物としては、例規集、公報、広報誌、市勢概要、事業概要、年報、統計書、市議会会議録・議案書、監査資料、総合計画・基本計画、予算書・決算書など枚方市が発行したものである。

③歴史図書は、大阪府内の自治体史を中心として

### 所 蔵 資 料 の 概 要

平成27年3月末現在

資料の種類別		点数	摘 要
現物資料	古文書	56,500点	117家
	公文書	7,073冊	保存年限を満了した公文書のうち歴史的価値を有する行政文書
印刷資料	古文書複製版	729冊	マイクロフィルムからの紙焼き
	郷土図書	3,880点	枚方地域に関する図書・雑誌
	地形図	65点	参謀本部陸軍部測量局 国土地理院
	新聞スクラップ	462冊	広報課から移管294冊。平成5年度から市史資料室でもスクラップ化(168冊)
	新聞折込広告	408冊	平成6年11月から。一日単位別(2地域)と分類別の2種類。
	チラシ	66冊	行政及び民間作成のチラシ
	行政刊行物	6,715点	枚方市や外郭団体が発行した行政刊行物
	歴史図書	3,078点	大阪府内などの市町村史
視聴覚資料	航空写真	2,182点	資産税課から移管
	写真・スライド	110冊	広報課など庁内から移管。写真アルバム・ネガアルバム
	マイクロフィルム	517リール	昭和55年古文書を中心に撮影。平成5年度から撮影を再開。
	新聞マイクロ	288リール	朝日新聞大13年～昭20年 34リール、昭22年～34年 30リール。平成6年から4大新聞の大阪・北河内版のマイクロ撮影
	画像データ	3,000点	市史など刊行物で使用した写真を中心

数値は整理済みの概数

府県史や市町村史である。そこには枚方関係の資料が収録されていることもある。

第三に視聴覚資料がある。中心は航空写真である。昭和29年の航空写真は、地図とともに、当時の状況を知る手がかりとなる資料である。広報課が撮影した写真やネガフィルムを引き継いで保存している。また、古文書を写真撮影したマイクロフィルムのほか、『枚方市史』に掲載した写真も保存している。

※ 市史の担当部署は、平成16(2004)年4月の機構改革によって総務部法制室から図書館に所管替えとなり、翌年4月の中央図書館開館に伴って「中央図書館市史資料室」となった。さらに、平成24(2012)年4月に図書館が社会教育部所管の教育施設に改編された際に、文化財課へ移管された。

### ①参考資料室の地域資料

中央図書館参考資料室では、枚方関係の地域資料を収集している。それでは、参考資料室と市史資料室との違いはなんだろうか。

それは、参考資料室ではインターネットで資料を検索できることである。また、基本的には、開架形式で配架され、自由に閲覧でき、貸出が可能である。

これに対して、市史資料室は、インターネット検索ができず、貸出もしていない。しかし、参考資料室では収集しにくい大学や研究機関発行の研究紀要で枚方関係分についてはできるだけ入手し、閲覧に供するようにしている。

こうした、両者の違いは、お互いの欠点を補い合い、利点を生かすことによって、相乗効果をあげ、市民や利用者の利便に供することができる。特に、市史資料室の情報を提供することによって、枚方地域コレクションの充実につなげている。

### ②地域資料の情報収集

では、地域資料をどのように収集していくかが課題である。どこから都合のよいリストが提供され

るわけではなく、職員が日々の経験を生かし情報を収集する以外にない。

まず、利用者からの情報提供である。例えば「枚方保養所」について問い合わせがあり、『朝日新聞記事集成』に3つの記事が収録されていたので、その旨回答した。その後、その内容が記載されている句誌が送られてきた。それによると、植松壽樹という歌人が大正9(1920)年から2か年ほど当時の蹉跎村に住んでいて、その時期に詠んだ歌や日記が「国民文学」に掲載され、のちに植松の第一歌集『療』や『植松壽樹散文集』に収録されていることを知えた。

あるいは、三浦蘭阪の著作で、三浦家文書に収蔵されていない「模刻鐘銘帖」が、愛知県西尾市の岩瀬文庫に所蔵されることを知ったのも利用者からの問い合わせからであった。このように市民など利用者からの情報提供を通じて、今まで知らなかった地域資料の在り処を教えていただくことが随分ある。

次に、古書目録から地域資料の情報を得ることもある。禁野火薬庫の爆発の資料として大阪府警察部発行の『枚方災害事件警備記録』を入手した。その存在すら知らなかった資料であった。また、古本市でたまたま手にした本から新資料を得ることもある。『大阪府下の文化財指定の石燈籠』(昭和52(1977)年)には、大阪府の指定文化財である片埜神社石燈籠について実測図を含めた解説があり、自家版であるが、貴重な地域資料である。

### ③地域史研究の宝庫

市史資料室にある多種多様な資料は、活用されて初めてその価値が見出される。

『枚方市史』全12巻に利用された資料は、資料全体から見れば1%にも満たない一部分であり、それ以降にも新資料が発見されている。

これらの埋もれた資料を読み解くことで、新事実が明らかになることもある。あるいは、『枚方市史』では記述のない空白期や空白地域を埋めることに繋がるかもしれない。

地域資料は、専門の歴史研究者だけでなく、自分が住んでいる地域に関する素朴な疑問や今後のまちづくりを進める上で過去はどうであったかを調べたりするのに欠かせない資料であろう。地域資料は、すべての人に開かれている。

## (2) 枚方地域コレクション

これまで枚方に関連する資料は、行政資料と市民からの寄贈が中心であり、市立図書館として郷土資料コーナーを設けているものの、関係資料を積極的に幅広く収集している状況でなく、収集した資料もPRしたり、利用を促進したりしていなかった。

そこで、平成23(2011)年に策定した『枚方市立図書館第2次グランドビジョン』（以降、第2次ビジョン）において、枚方地域コレクションの構築を市立図書館の特色のひとつとして位置付け、枚方に関する資料を積極的に収集・活用する方針を掲げた。

枚方地域コレクションとは、枚方に関わる歴史資料、行政資料などの郷土資料、市民の著作、枚方に関する記述のあるあらゆる分野の地域資料を市立図書館として収集していこうというものである。

以来、枚方地域コレクションに該当する資料について、中央図書館選書担当を中心に選書を行い、収集に努めてきた。

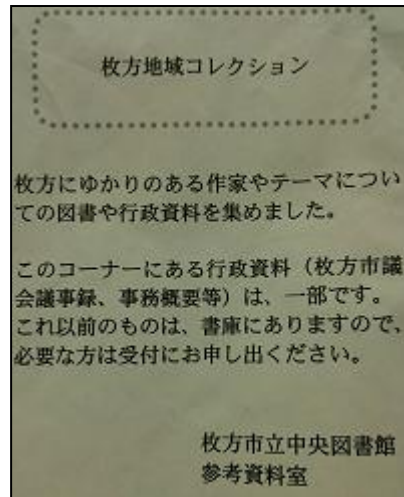
また、未所蔵資料の選書と並行し、既に蔵書としている資料の内容調査を行いながら、枚方地域コレクションに該当する内容を図書館所蔵データに加えている。

平成27(2015)年度時点で、市立図書館が所蔵している枚方地域コレクションの点数は延べ約29,000冊、タイトル数は約7,000冊、利用状況では平成9(1997)年に菅原図書館がコンピュータ導入をして開館して以来、平成27(2015)年3月段階で、約200,000回の貸出回数となっている。

今後については、枚方地域コレクションの収集を継続しながら、コレクション内容に応じてデータベース化し、ホームページに掲載するなどして蔵書の有効活用につなげることが課題である。

また、枚方市に関する専門的なレファレンスにつ

いて、市立図書館の蔵書で対応できない事例に関しては、中央図書館内の市史資料室（文化財課）の協力を得て対応することがあるほか、枚方地域コレクションに該当する資料の選書協力を得るなど、引き続き相互の連携強化を図りたい。



## 10. 社会的に問題があるとされた資料についての全館的な検討

人権やプライバシーの侵害、法律に抵触する可能性があるなどの理由で、「社会的な問題」を指摘される資料について、枚方市立図書館ではその都度、市民の知る権利を擁護する立場で「枚方市立図書館蔵書計画基本方針」等に基づき、資料の購入・提供・保存を検討してきた。

市民が必要とする資料・情報を提供し、知る権利を守ることは図書館の重要な役割の一つで、問題が起きたときに、すべての職員が自ら考え、検討するプロセスを踏むことが、信頼される図書館を作るために必要であると考えます。

枚方市立図書館として、古くは冠婚葬祭等の関係図書取り扱いについて、全館で慎重に検討をした（『枚方市立図書館十五年誌』p27～28.を参照）。ここでは、それ以降に検討をしたことの代表例になると思われる事例を取り上げる。

### (1) 「文藝春秋」1998年3月号と

#### 「新潮45」1998年3月号

「文藝春秋」1998年3月号（平成10(1998)年2月10日発売）は、平成9(1997)年に起きた神戸連続児童殺傷事件で逮捕された少年の供述調書を、加害少年の実名を伏せて掲載した。雑誌発売当日、最高裁家庭局長と神戸地裁所長は文藝春秋社に対し、少年法第22条2項と第61条違反を理由に発売中止を申し入れ、翌日、嚴重抗議した。

「新潮45」1998年3月号（平成10(1998)年2月18日発売）は、平成10(1998)年1月に起きた堺市通り魔事件の被疑少年の実名と顔写真を伴うルポルタージュを掲載した。この記事は、少年法第61条に抵触する可能性が指摘された。

枚方市立図書館では、「新潮45」1998年3月号が発売された翌日に、取り扱いについて討議するための臨時分館長会議が召集され、通常通り受入れして他の号と同様に扱うという論から、該当号だけ受入れしないとの考えまで様々な意見が出されたことを

踏まえて枚方図書館長が以下のように当面の結論を出した。

- ①「新潮45」3月号は、納品を受け入れる（定期購読しており購入中止はしない）。
- ②資料を保存する。
- ③資料に手を加えない。
- ④上記の3点のほか、資料提供については、以下の通りとする。
  - ・少年法に定められている人権擁護の立場から、資料の提供については、問題となっている記事をのぞき「コピー」したものを提供する。
  - ・貸し出ししない。
- ⑤日本図書館協会の見解が示されるなど、判断が必要となった場合には、分館長会議を開催し、取り扱いを協議する。
- ⑥以上の取り扱いについて意見が出されてきた場合には、検討をする。

この措置に対して、矛盾点の指摘や著作権法上の問題、資料の保存方法への意見などが出された。また、同時期に「文藝春秋」1998年3月号については問題がないので通常通りの扱いとするとしたため、こちらも検討すべきではないかという質問も出た。これらについては、4月8日付で枚方図書館長名の回答文書が出されたが、それまでの説明を超えるものではなかった。

### (2) 「週刊文春」2004年3月25日号

平成16(2004)年3月17日に発売された「週刊文春」2004年3月25日号に、国会議員の子どもの離婚や身辺事情に関する記事が掲載された。当人は「プライバシー侵害」との理由で、出版禁止を求め仮処分を東京地裁に申請し、東京地裁は、出版元に出版差止を命じる仮処分を出した。

枚方市立図書館では、3月17日の成人選書会議の席上で状況説明がなされ、翌日の児童選書会議後に



話し合いをすることになった。

18日の会議では、雑誌を提供するという意見が多かったが、提供方法や閲覧を制限するという考えも出た。その上で、19日に緊急GL（管理職）会議が開催された。図書館長は大阪府立図書館と同じく記事を袋とじにして閲覧に供することを提案したが、出席者からは、その措置を取るならばもっと全館的な検討が必要との意見が出たため、臨時リーダー（分館長以上の職員）会議を3月25日に招集することになった。

一方、19日夜には東京地裁が、出版差止の仮処分は維持するものの、流通ルートに乗ったものはその効力が及ばないとの見解を示したことが報道された。

臨時リーダー会議では、図書館として資料の提供を大事にしたいという考えや、効力が及ばないという判断は示されたもののプライバシーを侵害するとの理由で出版差止仮処分が出された記事を提供することの社会的責任をどのように考えるか等、幾通りもの意見があったが、話し合いの中で以下のようにまとまっていた。

- ①枚方市立図書館としては、一般の資料と同じように扱うことを基本とする。
- ②当該資料がそのまま読める形で利用に供する。貸出・予約にも通常どおり対応する。
- ③資料保存の観点から、館内閲覧期間中だけでなく、貸出可能になった段階でもカウンターでの手渡しによる提供を基本とする。

この方針は、平成16(2004)年3月25日付で、決定までに時間を要したお詫びとともにポスターで市民に提示された。

### (3) 『福田君を殺して何になる』

山口県で起きた、光市母子殺害事件で18歳の少年が逮捕された10年後の平成21(2009)年10月に『福田君を殺して何になる』（増田美智子著、インシデンツ）という被告の元少年の実名を表記した図

書が出版された。元少年は、10月5日に広島地裁に出版差止などを求める仮処分を申し立てた。

10月14日の奉仕事務連絡会において、当該資料にリクエストが出たこと、現時点では品切れ状態であること、入手可能時に備えて意見を出し合っておくことが各館に対して通知された。

11月4日の分館長会議で検討することになり、今回は市販され流通している資料であり、提供しない特別な理由があるとは思えないという考えや、係争中の資料の購入・提供に問題はないかという心配する意見などが出された。結論として、過去にも出版差止の仮処分が決定された資料を提供した例があり、流通している資料であれば提供していくことを確認した。

### (4) 『絶歌』

神戸連続児童殺傷事件の加害男性による手記『絶歌』が、平成27(2015)年6月11日太田出版から出版された。被害者父からは同社に対して回収を求める申し入れを行っているが、同社社長は、「出版するもの自身がその責任において決定すべきものとの考えと少年犯罪発生の背景を理解することに役立つと確信している」ということから回収する意向はない。

枚方市立図書館では、6月25日管理職会議、7月9日分館長会議において、各所属職員から収集した意見を基に議論し手続きをへた後、『絶歌 神戸連続児童殺傷事件』を市民に閲覧及び貸出にて提供することを方針として以下の取り扱いとした。

- ①資料提供及び保存のために購入する。
- ②そのままの形で手を加えずに提供（閲覧及び貸出）する。
- ③資料保存の観点から複本を購入し、全館で2冊の所蔵とする。
- ④寄贈図書があった際には、予約をした利用者への提供が終了するまでは受け入れ、提供終了後は保存を主な目的として、購入分と比較して状態の良いものを複本で保存する。
- ⑤今回の事件に関連する既に所蔵している遺族や

加害者両親、作家等が著作した図書や雑誌といった著作物についても、これまでどおり提供していく。  
⑥資料保存目的と、子どもなどが意図せずに目に触れることを防ぐため配架場所は書庫とし、カウンターでの手渡しによる提供とする。

この判断の理由としては、以下のとおりである。

- ・ この著作物は、罪を犯した元少年A自身が書いたもので、本人しか知り得ない犯罪の内容、少年自身の心理やその変化、犯罪の背景などを知り、少年犯罪等について研究する材料となりえるもので、資料的に価値のあるものと判断したこと。
- ・ 枚方市立図書館は、これまでも殺人事件など多くの事件について様々な立場から書かれた著作物を市民に提供してきたこと。
- ・ 内容に遺体損壊時の凄惨な記述は無いものの、猫を殺す際のグロテスクな場面や異常な性行動などのシーンがあり、また、遺族への配慮が必要であることから、利用者にいつでも直接目が触れるような配架方法は適さないと判断したこと。

枚方市立図書館年表 平成元(1989)年度～26(2014)年度

西暦・年号	月	枚方図書館関係事項	その他の出来事
1989 (平成元年)	3月	自動車文庫、「ひなぎく1号」車買い換え	
	4月	津田図書館の開設準備業務開始(担当者1名) 枚方図書館普及係、御殿山図書館内へ事務室を移転	ビデオ「図書館の人びと」発行(日本図書館協会製作)
	5月	山田図書館、平日も午前開館開始(火～金曜日10:30～17:00)	禁野火薬庫爆発50年を機に3月1日を「枚方市平和の日」に制定
	10月	[全館行事] 秋の行事「かがく・こども・あそび」 1. 講演会「子どもと科学の本」山田 和(福音館書店) 2. 「たのしいわらべうた たのしい手あそび」三木久子(大阪YWCA千里) 3. 人形劇「へっこきあねさがよめにきて」(劇団つちのこ) 津田分室閉室	渚処理場が運転開始
	11月	津田分室閉室に伴う経過措置として、自動車文庫津田元町ステーション新設(37ステーション) 第37回大阪公共図書館大会が牧野公民館で開催	
12月	香里ヶ丘図書館、対面朗読を開始		
1990 (平成2年)	1月	枚方公園分室、新装開室(「サンパーク枚方」内に枚方公園青少年センターと併設)	
	3月	自動車文庫、「ひなぎく2号」車買い換え 枚方図書館、ファクシミリを設置 「枚方市立図書館十五年誌」発行	第1回「ひらかた人形劇フェスティバル」開催
	4月	全部門の貸出制限冊数を6冊に緩和	「ピオルネ」がオープン
	5月	複写サービス料金を1枚20円から10円に改定 津田図書館開館(現 津田生涯学習市民センターと併設) 自動車文庫、津田元町ステーション廃止。(36ステーション)	陸上競技場がオープン
	6月	「図書館分室の充実を求める要望書」(59093人署名)が市長・教育長に提出される	花の万博で「枚方市の日」を開催
	7月	「枚方市立図書館資料収集基本方針」を制定	
	8月	枚方公園分室、週3日から週5日開室を開始(水～日曜日10:30～17:00)	第15回国勢調査(枚方市人口390729人)
	9月	楠葉図書館、点字ワープロを設置	
	10月	津田図書館、対面朗読を開始 ～11月7日 [全館行事] 「点字制定100周年記念行事」 1. 16ミリ映画会「点字の世界」ほか 2. 点字教室 3. 点字機器などの展示	
	11月	[全館行事] 「点字制定100周年記念行事」 4. 講演会「手は心の窓」福島 智氏(東京都立大大学院生)	
	1991 (平成3年)	1月	宮之阪・藤阪両分室、週4日開室を開始(宮之阪:月水木土 藤阪:月水金土) [全館行事] 「星を見よう、作ろう」講師:西村一洋氏(磯島小学校教諭)
3月		香里ヶ丘・菅原・山田図書館、ファクシミリを設置 点訳ボランティア懇談会を開催 枚方図書館にパソコンを設置、J-BISC・N-BISCによる図書情報検索処理システムを導入	「枚方市平和の日」に中宮平和ロード開通 北枚市長退任 大塩和男市長就任
5月		香里ヶ丘図書館と自動車文庫の蔵書一元化事業を開始	
8月		自動車文庫、津田ステーションを廃止(35ステーション)	近畿点字図書館研究協議会がパソコンを利用したNLBシステムの電子化を発表
9月		自動車文庫、市内の3老人ホーム(松風荘・悠々の苑・菊花寮)にステーションを新設(38ステーション)	
10月		[全館行事] 読書週間行事 1. コンサート「下の音どの音どんな音」(グループ コン・アセット) [全館行事] 読書週間行事 2. 人形劇「かさじぞう」ほか(劇団ステップ、劇団ぼちぼち、劇団くずは)	第1回友好都市サミット、別海町で開催
11月	聴力障害者との交流会を開催		
1992 (平成4年)	2月	盲人情報文化センターの録音図書コピーサービスの利用を開始 上海市長寧区との友好都市提携にちなんで、枚方図書館内に「長寧区文庫」を開設	啓光学園高校、全国高校ラグビー選手権優勝
	4月	自動車文庫、市民病院ステーションで小児病棟への団体貸出を開始 香里園・野田・南船橋・招提・東香里・釈尊寺・茄子作・村野の8分室で週4日開室を開始(週3日開室は禁野分室のみとなる) 12分室の運営を担当する図書館パート職員全員(29名)が非常勤職員となる	全ての駅周辺が自転車放置禁止区域になる 枚方市文化振興事業団が発足
	7月	菅原図書館、対面朗読を開始	
	10月	補正予算で「逐次刊行物購入費」が承認され、年度途中での誌数増が実現	高齢社会憲章を制定
	11月	平成5年度予定の“第2回子どもの本フォーラム”の基礎資料とするため「青少年の生活と読書について」の意識調査やアンケート調査を開始	

西暦・年号	月	枚方図書館関係事項	その他の出来事
	12月	[全館行事] 1. マジックショウ&お芝居(枚方マジック研究会) 菅原図書館、平日の開館時間を延長(火～金曜日 10:30～18:00)	勤労者総合福祉センター「メセナひらかた」がオープン
1993 (平成5年)	2月	楠葉・蹉跎・御殿山・牧野・津田図書館にファクシミリを設置、すでに設置されている単独館とあわせ全9図書館に設置完了 [全館行事] 2. 春のおたのしみ会・人形劇(劇団び・おーね、劇団どん、劇団ぼちぼち)	枚方市駅高架化工事が完成
	3月	楠葉図書館に設置されている点字ワープロに電子化されたNLBシステムを導入 「枚方市内のティーンエイジャーの生活と読書についての報告書」を刊行	
	4月	香里ヶ丘・菅原図書館、平日の開館時間を延長(火～金曜日10:30～19:00) 朗読協力者の公募試験を実施(平成5年度分)	「サンボエムひらかた」を開設
	6月	山田図書館にて対面朗読を開始、対面朗読実施館は8館となる 学校図書部会(小学校)と初めて交流会を開催	
	8月	香里ヶ丘図書館、集会所増築棟の運用開始(月～土曜日 9:30～21:00、日曜日 9:30～17:00) 香里ヶ丘図書館増改築工事開始(休館期間10月16日～11月11日)	人権尊重都市を宣言
	11月	「第2回子どもの本フォーラム」開催	
	12月	香里ヶ丘図書館増改築工事完成	
	1994 (平成6年)	1月	津田支所地下書庫を津田図書館が管理
3月		朗読協力者の公募試験を実施(平成6年度分、以降は年度末に実施)	ふるさと農園「ひらかたの郷」がオープン
4月		平井 理館長着任	文化財保護条例を施行
6月		学校図書部会(小学校)との交流会を開催	枚方市駅市民サービスセンターがオープン
10月		全分室・普及係にファクシミリ設置	
12月		氷室分室開室	
1995 (平成7年)	2月	自動車文庫、穂谷・尊延寺ステーションを廃止(36ステーション)	阪神淡路大震災(救援対策室を設置)
	3月	楠葉・牧野図書館対面朗読室に防音設備付設	オーストラリア、ローガン市と友好都市提携
	4月	山田図書館、聴覚障害者にマンガの貸出を開始	国際交流協会が発足
	7月	枚方図書館にて対面朗読を開始 自動車文庫、三陽台・氷室台ステーションを廃止(34ステーション)	大塩市長退任 中司 宏市長就任
	8月	自動車文庫、市民病院院内・菊丘南町・東池之宮・北山ステーションを新設(38ステーション)	
	9月	コンピューター検討委員会、「枚方市立図書館コンピューターシステム仕様書」を答申 第1回「北河内相互貸借担当者会議」開催(参加館：四條畷・寝屋川・門真・大東・守口・枚方)	人口40万人を越える
1996 (平成8年)	4月	楠本康夫館長着任	枚方公園駅前広場が完成
	6月	菅原図書館、新館準備に伴う業務電算化のため休館にはいる(自動車文庫による代替サービス実施)	
	7月	自動車文庫、枚方市障害者事業協会「ふるさと農園」へ団体貸出開始 自動車文庫、病院保育室1ヵ所へ団体貸出開始	図書館分館臨時職員の非常勤化がなる
	8月	自動車文庫、星丘・市民病院前ステーションを廃止(36ステーション) 枚方市学校図書部会(中学校)との交流会	障害者基本計画を策定
	1997 (平成9年)	1月	菅原図書館新館が開館(菅原公民館と併設)
3月	自動車文庫、中之芝1丁目・久保田・春日・松美ヶ丘ステーションを廃止(32ステーション)	枚方市駅、平日朝に特急停車	
4月	自動車文庫、北山北ステーションを新設し、従来の北山ステーションを北山南ステーションに名称変更(33ステーション)		
5月	自動車文庫、厚生年金病院ステーションを新設(34ステーション)	名護市と友好都市提携	
7月	枚方図書館普及係が菅原図書館旧館へ移転		
10月	「枚方市立図書館の図書等の譲与に関する要綱」を制定し、各図書館でリサイクル図書展を開催	枚方市、インターネットホームページ開設 市制施行50周年記念式典	
11月	読書週間行事 子どもの本の交換会(於:牧野図書館) 人形劇(於:蹉跎・御殿山図書館) 科学工作あそび(於:菅原図書館)		
1998 (平成10年)	1月	茄子作分室、施設改修工事開始	渚市民体育館開館
	2月	「新潮45 1998年3月号」(新潮社)・「文藝春秋 1998年3月号」(文藝春秋)の提供について議論	
	3月	茄子作分室、再開室	平和の鐘「ヒラリオン」を設置
	4月	中島 治館長着任	
	5月	牧野図書館、聴覚障害者にマンガの貸出を開始	

西暦・年号	月	枚方図書館関係事項	その他の出来事	
	7月	第1回図書館運営委員会協議会開催（案件：枚方図書館の今後のあり方について）	市内全域で高度浄水処理水の供給開始 総合福祉会館「ラポールひらかた」オープン	
	9月	図書館サービス検討委員会発足		
	10月	「枚方市立図書館汎用コンピュータ管理運営規程」を制定 枚方図書館、業務電算化のため休館にはいる（自動車文庫による代替サービス実施） 第2回図書館運営委員会協議会開催（案件：障害者サービスと自動車文庫について）		
	11月	禁野分室開室25周年記念講演会「子どもの本をたのしむ」講師：土居安子氏 第3回図書館運営委員会協議会開催（案件：自動車文庫事業の実情について）		
1999 (平成11年)	1月	第4回図書館運営委員会協議会開催（案件：学校図書館との連携について）	学園都市ひらかた推進協議会設立	
	2月	枚方図書館、業務電算化なり再開館	北海道大滝村・奈良県天川村・長崎県波佐見町と市民交流宣言	
	5月	第1回図書館運営委員会協議会開催（案件：枚方図書館分室のあり方について） 南部一成館長着任		
	9月	児童文学作家講演会 今関信子氏（於 香里ヶ丘図書館）	高齢社会室を新設	
	10月	村野分室開室25周年記念行事人形劇 第2回図書館運営委員会協議会開催（案件：枚方図書館分室のあり方について）	枚方リトルリーグ、世界大会優勝	
	11月	香里ヶ丘図書館・自動車文庫、業務電算化のため休館にはいる 南船橋分室25周年行事記念講演会「子育てに絵本を」 第3回図書館運営委員会協議会開催（案件：枚方図書館分室状況調査と意見交換）		
2000 (平成12年)	1月	香里ヶ丘図書館、自動車文庫による代替サービス開始（30日まで） 第4回図書館運営委員会協議会開催（案件：枚方図書館分室のあり方について） 楠葉図書館、業務電算化のため休館にはいる	北牧野小学校と村野小学校を閉校（北牧野小は牧野小と、村野小は桜丘・川越小と統合）	
	2月	枚方・香里ヶ丘・楠葉の3館で集中選書・発注の試行開始 香里ヶ丘図書館・自動車文庫、業務電算化なり再開館 楠葉図書館図書館、業務電算化のため休館にはいる（自動車文庫による代替サービス実施）	東海大仰星高校、全国高校ラグビー選手権優勝 介護保険制度スタート	
	3月	自動車文庫、三栗ステーションを廃止（33ステーション）		
	4月	竹田肥中央館長着任 牧野・山田図書館でマンガ貸出の一般開放開始 分室を除く全館で集中選書・発注の試行開始 自動車文庫、菊丘南ステーションを廃止（32ステーション） 自動車文庫、松丘・伊加賀西ステーションを廃止（30ステーション） 楠葉図書館、業務電算化なり再開館		
	6月	第1回図書館運営委員会協議会開催（案件：①枚方市の現状と課題について②昨年度における協議会の協議事項について）		
	7月	第2回図書館運営委員会協議会開催（案件：枚方図書館分室の現況調査（現地視察と意見交換））		
	8月	自動車文庫、「ひなぎく1号(LPG)」車買い換え		
	9月	牧野図書館、業務電算化のため休館にはいる		
	11月	子ども読書年記念行事「富安陽子氏講演会」（於：メセナひらかた） ～12月10日 子ども読書年記念行事「川端誠氏絵本原画展」（於：津田図書館）		
	12月	子ども読書年記念行事「川端誠氏講演会」（於：メセナひらかた） 津田図書館、業務電算化のため休館にはいる 牧野図書館、業務電算化なり再開館 第1回中央館構想検討委員会		
	2001 (平成13年)	3月	自動車文庫、「ひなぎく2号(CNG)」車買い替え 津田図書館、業務電算化なり再開館 第3回図書館運営委員会協議会開催（案件：①枚方図書館分室の見直しについて②図書館中央館構想の進め方について） 禁野・野田・南船橋分室、閉室	特例市に移行 市民会館総合結婚式場「天津殿」閉館（青少年課事務所が2階に移転）
		4月	羽根良一館長着任	
		7月	市内6大学との間で「図書館資料の貸借・複写に関する協定書」締結	鍵屋資料館がオープン
		8月	関西外国語大学から図書館棟の寄附の申出あり	
9月		村野分室・分室担当事務所が市役所村野分館へ移転 蹉跎図書館、業務電算化のため休館にはいる	ISO14001認証取得	
10月		枚方図書館でマンガの貸出を開始		
11月		御殿山図書館、業務電算化のため休館にはいる 蹉跎図書館、業務電算化なり再開館		
2002 (平成14年)		1月	山田図書館、業務電算化のため休館にはいる 御殿山図書館、業務電算化なり再開館	市制施行55周年 市の鳥「カワセミ」制定

西暦・年号	月	枚方図書館関係事項	その他の出来事	
	3月	山田図書館、業務電算化なり再開館 関西外国語大学から図書館棟が寄附される 枚方市立図書館のホームページを開設	枚方市の公設民営「NPOセンター」始動 「ふれあいフリースクエア」がスタート 市内各図書館にも市民用のイントラネット端末が配置	
	4月	市政運営方針に中央図書館が明記される		
	7月	全部門の貸出制限冊数を12冊に緩和 分室を除く全館で開館時刻を午前10時に繰り上げ 村野分室の開室時刻を午前10時30分に繰り上げ 村野・茄子作分室の土・日隔週交代開室から、土曜開室に変更 村野分室でマンガの貸出を開始		
	10月	北河内7市における図書館の広域利用を開始		
2003 (平成15年)	1月	図書館のホームページにおいて蔵書検索を開始 茄子作分室でマンガの貸出を開始	枚方市駅・樟葉駅に平日昼間と土曜・休日の終日特急停車 南部市民センターがオープン 第二京阪道路一部区間開通	
	2月	枚方市中央図書館整備推進協議会が提言「(仮称)枚方市立中央図書館に関する報告」を提出		
	3月	東香里分室でマンガの貸出を開始		
	7月	「(仮称)枚方市立中央図書館」整備構想策定 香里ヶ丘図書館でマンガの貸出を開始 宮之阪分室でマンガの貸出を開始		
	12月	香里ヶ丘図書館集会所(別棟)を市長公室市民活動課に貸付(平成16年2月)		
2004 (平成16年)	2月	手話による読み聞かせの開催(障害者サービス委員会)	中西悠子さん(水泳)アテネオリンピック銅メダル 中央図書館整備のため「枚方市民債」発行 ISO9001認証取得	
	3月	「枚方市立図書館グランドビジョン」策定 「週刊文春 2004年3月25日号」(文藝春秋)の提供について議論		
	4月	日本語の字幕付ビデオをタグ方式・貸出期間1週間により貸出を開始(枚方、枚野、津田) 全館・全分室でマンガの予約受付サービス開始 市史編さん事業が総務部法制室から枚方市立図書館に所管替え		
	7月	香里園分室でマンガの貸出を開始		
	8月	「枚方市立図書館システム再構築プラン」策定		
	11月	中央図書館開館準備のため枚方図書館を休館		
2005 (平成17年)	3月	枚方図書館閉館 山田図書館閉館(山田分室6月開室) 招提分室閉室 自動車文庫、招提団地・田口団地・小倉ステーション廃止(27ステーション) 中央図書館開館準備中に漏水事故 御殿山図書館でマンガの貸出を開始	くずはモールがリニューアルオープン 「ひらかた大菊人形展」終了 「輝きプラザきらら」がオープン	
	4月	分室を除く全館の開館時刻を午前9時30分に繰り上げる 御殿山図書館の平日の開館時間を短縮(火～金曜日10:00～17:00) 中央図書館開館(開架冊数11万5千冊、収蔵可能冊数50万冊、閲覧フロア4フロア、祝日開館実施) 開館記念インドネシア展・アース写真展開催 中央図書館ボランティア活動開始		
	6月	山田分室開室		
	7月	氷室分室でマンガの貸出を開始 ～8月30日 中央図書館で戦争と枚方展を開催		
	9月	村野分室・枚方公園分室、業務電算化 自動車文庫、招提小学校図書室の地域開放事業に協力実施(毎週土曜日)		
	10月	藤阪分室開室30周年記念行事「アート・バルーンがやってくる」開催		
	11月	～6日 中央図書館、「本のリサイクルブック市」開催 中央図書館、「暗誦で自分の気持ちを伝えよう」小中高生大会開催 中央図書館、音訳協力者養成講座(デジター専用機器操作講習会)開催(全2回)		
	12月	中央図書館、「ピーターパンの世界」展開催		
	1月	市駅前サテライト開設(関西医科大学附属枚方病院情報交流センター内、祝日開館実施) 「ラポールひらかた」内で対面読書開始 中央図書館、「手話でたのしみおはなし会」開催		関西医科大学附属枚方病院が開院 津田サイエンスヒルズがオープン 「公民館」を「生涯学習市民センター」に再編 防災公園「車塚公園」がオープン
	2月	視覚障害者向け中央図書館見学会・利用説明会を開催		
	3月	中央図書館、字幕挿入技術講習会を開催(全5回) 中央図書館利用案内の映像版「聴覚障害者のための利用案内」(字幕・手話付)完成		
	4月	伊藤久治館長着任 ～5月7日 中央図書館、「みやざきひろかず絵本原画展」開催		
	5月	中央図書館、みやざきひろかず氏講演会「ワニくんとわたし」開催 ～6月11日 中央図書館、「古文書入門講座」開催		
6月	「枚方市子ども読書活動推進計画」策定 藤阪分室でマンガの貸出を開始			
9月	～11月5日 中央図書館で「古文書中級講座」を開催			
11月	子育て支援のための「ふれあいルーム」試行実施(中央図、蹉跎図)			

西暦・年号	月	枚方図書館関係事項	その他の出来事		
		中央図書館、第2回「ことばにであう！子ども暗唱大会」開催			
2007 (平成19年)	3月	ブックスタート・リーフレット『あかちゃんのためのはじめてのえほん』発行	市制施行60周年 市の花「桜」制定		
	4月	山中佳典館長着任 聴覚障害者向け中央図書館見学会・利用説明会を開催 視覚障害者情報ネットワーク「ないーぶネット」による相互協力の活用実施			
	5月	子育て支援のための「ふれあいルーム」本格実施	全45小学校区で自主防災組織が充足 市内初の福祉工場がオープン		
	10月	～22日中央図書館、特別展「江戸時代の医師三浦蘭阪の古文書コレクション」一枚方で発見された古代・中世文書」および講演会開催			
	11月	～平成20年3月中央図書館、連続歴史講座「淀川と街道」（計6回）を実施			
2008 (平成20年)	3月	中央図書館、「手話ブックトーク」開催 中央図書館、視覚障害者交流会実施	韓国の霊岩郡（よんあんぐん）と友好都市提携 新火葬場「やすらぎの社」がオープン		
	4月	吉田孝司館長着任 「おすすめのごどもの本2008」発行（以後毎年発行）			
	6月	～7月2日「読み聞かせ入門講座」開催（於：さだ生洋学習市民センター） 自動車文庫、東池之宮ステーションの駐車場所を移動	東部清掃工場が本格稼動		
	8月	自動車文庫、月見丘ステーション廃止 山之上ステーション新設（27ステーション） 自動車文庫、高田ステーションを春日小学校ステーションに名称変更 自動車文庫、長尾西ステーションを西長尾小学校ステーションに名称変更			
	10月	～11月21日「おはなしボランティアスキルアップ講座」開催			
	10月	中央図書館、字幕と音声ガイドのついた「バリアフリー映画上映会」開催			
2009 (平成21年)	4月	藤阪、香里園、宮之阪、東香里、氷室、茄子作、釈尊寺分室、業務電算化（市内図書館施設の業務電算化完了） 分室を除く全館において祝日開館開始 「枚方版ブックスタート」開始（子育て支援室）	穂谷地区が「日本の里100選」に選ばれる		
	7月	中央図書館、商用データベース利用開始			
	10月	大本英治館長着任 インターネットによる図書館資料の予約受け付け開始 デートスリッパへの押印廃止 「福田君を殺して何になる」（インシデンツ刊）の購入・提供について議論	全市立小・中学校にエアコン・校内LAN整備		
	12月	自動車文庫、招提小学校図書室地域開放事業の終了 枚方市立図書館資料収集基本方針改訂			
	3月	自動車文庫、菊花寮ステーション廃止（26ステーション） 自動車文庫、保育園等への団体貸出休止		国民読書年 第二京阪道路が全線開通	
	7月	中央図書館開館5周年記念事業「光のアート・虹がいっぱい」開催 小学生を対象に「読書ノート」配布			
2010 (平成22年)	8月	自動車文庫、ひなぎく1号運休			
	9月	自動車文庫、池之宮ステーション休止 集中見計らい選書会議の方式を変更			
	10月	中央図書館開館5周年記念「今中家文書・三浦家文書」文化財指定記念事業開催			
	12月	中央図書館開館5周年記念 ボランティア・グループ「ひらりんかたりん」結成5周年事業開催 「大学図書館等類縁機関への閲覧に関する取扱要領」作成			
	1月	中央図書館開館5周年記念事業 落合恵子氏講演会「絵本は心の処方箋」開催			
	2月	茄子作分室開室30周年記念行事で人形劇開催 図書館ホームページを枚方市ホームページ内に移設			
2011 (平成23年)	4月	枚方市に避難中の東日本大震災被災者への貸出サービス開始	東日本大震災 (枚方市支援本部・災害復興支援基金を設置)		
	7月	枚方市立図書館第2次グランドビジョン策定 ～9月4日 子ども夢基金事業「奏でる絵本、語る音」開催（全分室）			
	9月	中央図書館コンピュータサーバ・端末の入れ替え 分室を除く全館にBDS（ブックディテクションシステム）設置			
	10月	中央図書館、ワークショップ「スズキコージさんとお面をつくってパレードしよう！」開催 インターネット予約時のWEBデザイン改訂およびカート方式・セット予約の実施 中央図書館に自動貸出機増設			
	11月	自動車文庫、「ひなぎく1号」車を東日本大震災被災地（岩手県）のボランティア団体に寄贈			
	12月	枚方市立図書館条例施行規則の全部改正			
	3月	「枚方市立図書館蔵書計画」策定		市制施行65周年	
	4月	園田一博館長着任 図書館を社会教育部が所管する教育機関として改編、市史編さんに関する事務は文化財課へ移管 中央図書館2階子供のフロア、平日の開館時間を延長（月～木曜日9:30～19:00） 村野分室、サブリ村野の耐震補強・リニューアル工事のため休室			
	2012 (平成24年)				牧野駅前広場がオープン

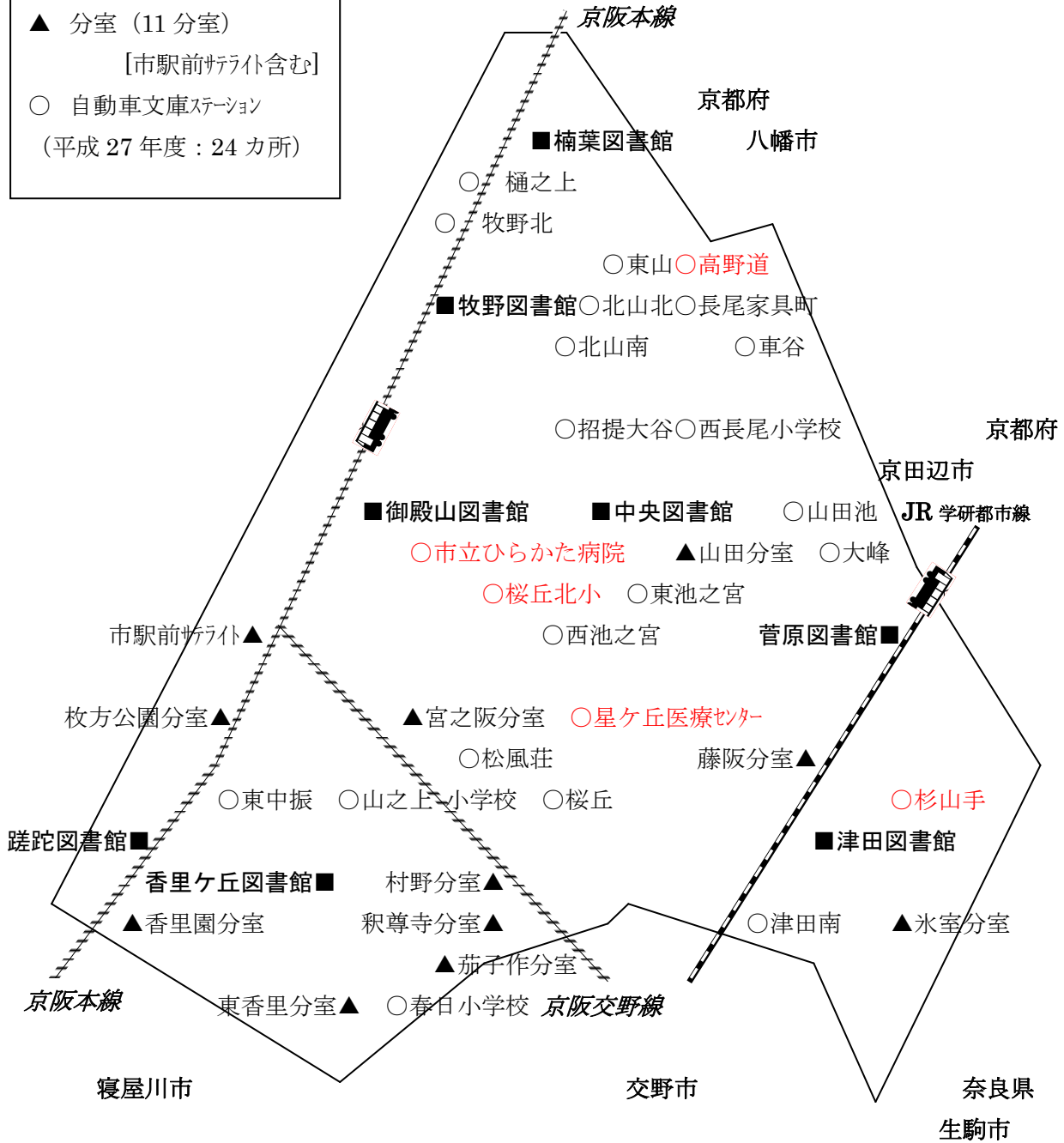
西暦・年号	月	枚方図書館関係事項	その他の出来事		
		自動車文庫、フランスハイツステーションの駐車場所を移動し、杉山手ステーションに名称変更	健康医療都市ひらかたコンソーシアム設立		
	5月	牧野図書館、空調設備工事のため臨時休館 長期延滞者に対する貸出制限を開始			
	6月	第2次枚方市子ども読書活動推進計画策定 中央図書館2階子どものフロア、ティーンズコーナー新設			
	8月	市駅前サテライト、蔵書点検実施			
	9月	中央図書館、「バリアフリー絵本展」・「国際おはなし会」等開催			
	10月	「おすすめの本～中学生編～」作成			
2013 (平成25年)	1月	～2月15日 楠葉図書館、給排水・バリアフリー工事のため休館（予約資料の受付・貸出のみ実施）	枚方名誉市民森繁久彌生誕100年記念事業開催		
	2月	中央図書館、特別展「枚方名誉市民 森繁久彌さんを偲ぶ」開催 ～3月15日 蹉跎図書館、給排水・バリアフリー工事のため休館（予約資料の受付・貸出のみ実施）			
	3月	中央図書館、「中学生の調べ学習コンクール」開催	伊加賀スポーツセンターがオープン		
	4月	村野分室、サブリ村野の工事終了により再会室			
	6月	ブックスタートリーフレット「あかちゃんといっしょにはじめてのえほん」改訂			
	7月	～12月 中央図書館、こども夢基金活用事業「いのちのメッセージ～中高生の課外授業」開催 宮之阪分室開室30周年記念行事で人形劇開催			
	8月	中央図書館、絵本作家ミロコマチコ氏によるワークショップ開催（対象：小学生）			
	10月	「おすすめの本～高校生編～」作成 中央図書館、4階フロアにもティーンズコーナー設置（以降各分館にも設置）			
	11月	中央図書館、やなせたかし追悼イベント実施 中央図書館、「うたと音楽のおはなし会」をロビーにて開催			
	12月	～平成26年2月15日 枚方公園分室、空調設備改修のため休室			
	2014 (平成26年)	3月		国立国会図書館と「視覚障害者用データ収集のための覚書」締結	くずはモールがグランドオープン 中核市に移行
		4月		石村和巳館長着任	
5月		自動車文庫、悠々の苑・村野東ステーション廃止（24ステーション）	枚方市保健所がオープン		
6月		市内3中学校（枚方第四・長尾・桜丘）に学校図書館司書を配置 自動車文庫、池之宮ステーション廃止 桜丘北小学校ステーション新設（24ステーション）			
7月		図書宅配サービスを開始	市立ひらかた病院が開院		
		中央図書館、こども夢基金活用事業「ふしぎな花とひかる虫展」開催。現代美術家椿昇氏によるワークショップ開催（対象：小学3年～6年生）～8月作品展示			
8月		～9月 藤阪分室・宮之阪分室で午前開室を試行 自動車文庫、枚方ハイツステーションの駐車場所を高野道南公園内に移動し、高野道ステーションに名称変更 「これからの図書館運営に関する、意見聴取会」を3回実施			
9月		学校図書館に「団体貸出図書配本事業」を開始 ～12月28日 楠葉図書館、空調設備工事のため休館（予約資料の受付・貸出のみ実施） 中央図書館、国立国会図書館デジタル資料送信サービスの供用を開始			
2015 (平成27年)		1月		～2月28日 牧野図書館、給排水工事のため休館（予約資料の受付・貸出のみ実施） 「これからの図書館運営に関する、利用者説明会」を2回実施	
		2月		枚方地域コレクションの「枚方文化地図」「枚方市全図」を保存のため複製	
		3月	中央図書館、枚方市平和の日によせてライブラリー・コンサート開催「ふしぎな花とひかる虫展」再展示		



# 図書館・分室概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

- 凡例
- 図書館 (8 館)
  - ▲ 分室 (11 分室)  
[市駅前プラト含む]
  - 自動車文庫ステーション  
(平成 27 年度 : 24 カ所)



# 中央図書館(ちゅうおうとしょかん)

正面写真



内部写真(2階)



所在地	車塚2丁目1-1
開設年月	平成17(2005)年4月
専有面積	9,301.77㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階建
休館日	毎週金曜日、第4火曜日、 年末年始、蔵書点検期間
開館時間	月～木 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00
蔵書数	433,200
蔵書数(児童書)	95,959
蔵書数(一般書)	337,241
1日平均貸出冊数	3,422

内部写真(4階)



開設の経過	旧関西外国語大学図書館棟の寄贈を受け、既存の設備を使用しながらバリアフリー化するなど公共図書館として使用できるよう改修工事を行った。枚方市立図書館の中核として、資料収集、児童サービスや学校への支援、障害者サービスの拠点であり、自動車文庫基地も備えている。また、ハイブリット型の図書館として、検索用パソコンの設置やDVD・CD・VHSの視聴などにも取り組んでいる。
地域の特徴	京阪牧野駅から徒歩で約20分、主な交通手段は京阪枚方市駅発のバスである。道路を隔てた建物「きらら」には、教育委員会や地域活性化センターがあり、やすらぎの杜、車塚古墳へ続く。防災公園の機能も備えた大きな公園が隣接し、夏場は水遊びのできる噴水を目指して大勢の親子がやって来る。
校区(近隣の学校)	小倉小学校、招提小学校、交北小学校、山田小学校、山田東小学校、 中宮小学校、枚方第二小学校、桜丘北小学校 山田中学校、招提中学校、中宮中学校、枚方中学校、桜丘中学校
利用状況	開設前に準備した幅広い蔵書により、開館から5か年は利用が増大した。書庫内にも多くの蔵書があり、市内図書館のバックアップ機能を果たしている。児童のフロアは乳幼児を連れた地域の親子に多く利用されている。1階外に設けられた「軽読書コーナー」の利用も多い。

## 香里ヶ丘図書館(こうりがおかとしょかん)

<p>正面写真</p> 	<p>内部写真</p> 																				
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>香里ヶ丘4丁目2-1</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td>昭和54(1979)年5月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td>1,209,60㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td>鉄筋コンクリート造 2階建</td> </tr> <tr> <td>休館日</td> <td>毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間</td> </tr> <tr> <td>開館時間</td> <td>火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>95,731</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(児童書)</td> <td>32,210</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(一般書)</td> <td>63,251</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td>1,476</td> </tr> </table>	所在地	香里ヶ丘4丁目2-1	開設年月	昭和54(1979)年5月	専有面積	1,209,60㎡	建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建	休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間	開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00	蔵書数	95,731	蔵書数(児童書)	32,210	蔵書数(一般書)	63,251	1日平均貸出冊数	1,476	<p>内部写真</p> 
所在地	香里ヶ丘4丁目2-1																				
開設年月	昭和54(1979)年5月																				
専有面積	1,209,60㎡																				
建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建																				
休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間																				
開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00																				
蔵書数	95,731																				
蔵書数(児童書)	32,210																				
蔵書数(一般書)	63,251																				
1日平均貸出冊数	1,476																				
<p>開設の経過</p>	<p>昭和48(1973)年、香里ヶ丘分室開設。日本住宅公団香里団地事務所の3階に間借りしての開室だった。昭和49(1974)年、現在の地に移転。昭和54(1979)年に増築して、香里ヶ丘図書館として開館した。</p>																				
<p>地域の特徴</p>	<p>枚方市南部の中心地域にあり、主な交通手段は京阪枚方市駅、枚方公園駅、香里園駅からのバスである。国内有数の規模と歴史を誇る香里団地の中にあり、緑豊かな丘陵には枚方市を代表する住宅地が広がっている。学校も多くあり、商業施設も整っている。団地は建替えが進められ、多様な世代のニーズへの対応が求められている。</p>																				
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>開成小学校、五常小学校、山之上小学校、香陽小学校、香里小学校、春日小学校 第四中学校、東香里中学校</p>																				
<p>利用状況</p>	<p>高齢者の利用も多いが児童の利用も分館の中では多い。経済や国際関係のリクエストが多くあり時代小説の貸出も多い。分館としては開架エリアが狭いが、利用は多い。</p>																				

# 楠葉図書館(くずはとしょかん)

<p>正面写真</p> 	<p>内部写真</p> 
<p>所在地</p>	<p>楠葉並木2丁目29-5</p>
<p>開設年月</p>	<p>昭和57(1982)年5月</p>
<p>専有面積</p>	<p>716.63㎡</p>
<p>建物構造</p>	<p>鉄筋コンクリート造 3階建1階部分</p>
<p>休館日</p>	<p>毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間</p>
<p>開館時間</p>	<p>火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00</p>
<p>蔵書数</p>	<p>86,948</p>
<p>蔵書数(児童書)</p>	<p>27,978</p>
<p>蔵書数(一般書)</p>	<p>58,970</p>
<p>1日平均貸出冊数</p>	<p>1,318</p>
<p>開設の経過</p>	<p>北部地域では、昭和45(1970)年から5年ほどの間に地域文庫が次々と開設された。図書館としては、昭和48(1973)年から昭和56(1981)年にかけて自動車文庫のステーションを楠葉中町、東山、楠葉センチュリー、枚方ハイツ、北楠葉、中之芝1丁目、中之芝2丁目、楠葉丘、樋之上に設置し、昭和48(1973)年に開設した野田分室も含めてサービスポイントを配置した。また、昭和49(1974)年2月には、郊外住宅地として開発が進む北部地区市民のために市庁舎、図書館、公民館、消防署の出張所を一ヶ所に集めたコミュニティセンターを建設するという「枚方市北部市民センター基本計画書」が策定された。このような経過を経て、昭和57(1982)年5月7日、楠葉図書館はオープンした。</p>
<p>地域の特徴</p>	<p>京阪樟葉駅前にある「くずはモール」の南東側に位置し、駅からは徒歩約10分。東部には男山団地(京都府八幡市)周辺に開発された住宅地をひかえ、中央公園に隣接した恵まれた場所にある。「くずはモール」は2014年3月に増床・リニューアルオープンし、周辺には超高層マンションである「くずはタワーシティ」があり、人通りが絶えない。</p>
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>樟葉小学校、樟葉西小学校、樟葉南小学校、樟葉北小学校、船橋小学校 楠葉中学校、楠葉西中学校</p>
<p>利用状況</p>	<p>平成12(2000)年4月にコンピュータ化を行った。平成21(2009)年4月から開始されたインターネットを経由した図書館資料予約の受付が定着した現在では、予約・リクエストの受付件数は市内の図書館の中でも突出しており、1日約400件、1ヶ月で約1万件的申込みがある。中央図書館が開館するまでは障害者サービスの中心を担っていた。現在でも対面読書や録音図書の利用がある。連日多数の利用者で館内は賑わっている。</p>



# 菅原図書館(すがわらとしょかん)

正面写真



外観写真





所在地	長尾元町1丁目35-1
開設年月	昭和58(1983)年8月 平成9(1997)年1月新築移転
専有面積	969.61㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 3階建1階部分
休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間
開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00
蔵書数	98,457
蔵書数(児童書)	29,444
蔵書数(一般書)	69,013
1日平均貸出冊数	1,273

内部写真



開設の経過	菅原図書館は、当初、菅原小学校横にあった旧農協菅原支所を改装増築して設置された。平成9(1997)年1月に、菅原小学校裏の敷地に新たに作られた生涯学習市民センターとの複合施設に移転、市内初のコンピュータ導入館として開館した。
地域の特徴	枚方市の東部に位置し、平成25(2013)年に新駅舎に整備されたJR学研都市線長尾駅からは徒歩で約10分である。長尾、藤阪地区では昔からの町並みやため池が残っている一方で、高層マンションや新興住宅地の開発も進んでいる。
校区(近隣の学校)	菅原小学校、菅原東小学校、西長尾小学校、長尾小学校、田口山小学校、藤阪小学校 長尾中学校、長尾西中学校、府立長尾高等学校
利用状況	利用の多い年齢層は40代と60代以上、前者は女性が多く後者は男性が多い。生涯学習市民センターを利用する時に併せて図書館を利用される人も多い。子どもたちは保護者(親、祖父母)と共に、土日に来館する傾向がある。また、中央図書館や津田図書館と複数館利用している人も多い。

## 蹉跎図書館（さだとしょかん）

<p>正面写真</p> 	<p>内部写真</p> 																				
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>北中振3丁目27-10</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td>昭和61(1986)年5月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td>936.22㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td>鉄筋コンクリート造 3階建1階部分</td> </tr> <tr> <td>休館日</td> <td>毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間</td> </tr> <tr> <td>開館時間</td> <td>火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>92,660</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(児童書)</td> <td>27,487</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(一般書)</td> <td>65,173</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td>856</td> </tr> </table>	所在地	北中振3丁目27-10	開設年月	昭和61(1986)年5月	専有面積	936.22㎡	建物構造	鉄筋コンクリート造 3階建1階部分	休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間	開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00	蔵書数	92,660	蔵書数(児童書)	27,487	蔵書数(一般書)	65,173	1日平均貸出冊数	856	<p>行事写真</p> 
所在地	北中振3丁目27-10																				
開設年月	昭和61(1986)年5月																				
専有面積	936.22㎡																				
建物構造	鉄筋コンクリート造 3階建1階部分																				
休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間																				
開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00																				
蔵書数	92,660																				
蔵書数(児童書)	27,487																				
蔵書数(一般書)	65,173																				
1日平均貸出冊数	856																				
<p>開設の経過</p>	<p>昭和61(1986)年5月16日、枚方市の最南端、京阪電車光善寺駅を中心とした蹉跎地区を受け持つ枚方市6館目の図書館として開館した。公民館（現生涯学習市民センター）との併設館では、2館目となる。開館により、自動車文庫ステーション（走谷・出口・南中振・香里園）4ヶ所と蹉跎分室を統合した。</p>																				
<p>地域の特徴</p>	<p>京阪光善寺駅前商店街に隣接し、光善寺駅からは徒歩約5分である。国道1号線を越えた西地区には、淀川までの旧村とマンション、戸建住宅、工場が混在し、線路を越えた東地区には、香里団地までマンション、戸建住宅が広がり、北西地区には新興住宅地域がある。国道1号線、線路により分断された地域だが、駅、周辺小売店等の利用の生活導線に位置する。</p>																				
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>蹉跎小学校、蹉跎西小学校、蹉跎東小学校、伊加賀小学校 蹉跎中学校、第二中学校、府立香里丘高等学校</p>																				
<p>利用状況</p>	<p>平成25(2013)年2月4日～3月15日の期間、給排水等の工事のため閲覧室の利用を停止し予約資料の貸出のみ行なったが、平成25年度は平成24年度とほぼ変わらない貸出冊数となった。高齢者の利用が多いが、生涯学習市民センターでの育児サークルに参加している親子連れの利用も目立つ。</p>																				

## 御殿山図書館(ごてんやまとしょかん)

<p>正面写真</p> 	<p>内部写真</p> 																				
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>御殿山町10-16</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td>昭和62(1987)年5月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td>815.71㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td>鉄筋コンクリート3階建て 地下1階部分</td> </tr> <tr> <td>休館日</td> <td>毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間</td> </tr> <tr> <td>開館時間</td> <td>火～日・祝日 9:30～17:00</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>81,563</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(児童書)</td> <td>26,181</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(一般書)</td> <td>55,382</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td>618</td> </tr> </table>	所在地	御殿山町10-16	開設年月	昭和62(1987)年5月	専有面積	815.71㎡	建物構造	鉄筋コンクリート3階建て 地下1階部分	休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間	開館時間	火～日・祝日 9:30～17:00	蔵書数	81,563	蔵書数(児童書)	26,181	蔵書数(一般書)	55,382	1日平均貸出冊数	618	<p>内部写真</p> 
所在地	御殿山町10-16																				
開設年月	昭和62(1987)年5月																				
専有面積	815.71㎡																				
建物構造	鉄筋コンクリート3階建て 地下1階部分																				
休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間																				
開館時間	火～日・祝日 9:30～17:00																				
蔵書数	81,563																				
蔵書数(児童書)	26,181																				
蔵書数(一般書)	55,382																				
1日平均貸出冊数	618																				
<p>開設の経過</p>	<p>御殿山図書館は、昭和62(1987)年5月23日に御殿山美術センター(現・御殿山生涯学習美術センター)との複合施設として開館した。これにより、この地域の図書館活動を長年担ってきた中宮分室を統合した。中央図書館が開館した平成17(2005)年4月からは開館時間を短縮し、平日も17時閉館とした。</p>																				
<p>地域の特徴</p>	<p>京阪御殿山駅から徒歩約3分の位置にあり、昭和19(1944)年まで開校していた大阪美術学校の跡地という由緒ある立地である。駅方面からは登り坂となるが、付近には御殿山神社もあり、緑の多い好環境である。</p>																				
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>高陵小学校、殿山第一小学校、中宮北小学校、磯島小学校 第一中学校、渚西中学校</p>																				
<p>利用状況</p>	<p>市内分館の中で唯一、17時閉館のため夜間利用はないが、長時間滞在する高齢者や幼児連れの母親がよく見受けられる。また、美術センター併設館ということで、絵画や陶芸関係の資料の利用も多い。</p>																				

## 牧野図書館(まきのとしょかん)

<p>正面写真</p> 	<p>内部写真</p> 																				
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>宇山町4-5</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td>昭和63(1988)年5月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td>936.02㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td>鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階建て1階部分</td> </tr> <tr> <td>休館日</td> <td>毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間</td> </tr> <tr> <td>開館時間</td> <td>火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>104,033</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(児童書)</td> <td>23,924</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(一般書)</td> <td>80,109</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td>770</td> </tr> </table>	所在地	宇山町4-5	開設年月	昭和63(1988)年5月	専有面積	936.02㎡	建物構造	鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階建て1階部分	休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間	開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00	蔵書数	104,033	蔵書数(児童書)	23,924	蔵書数(一般書)	80,109	1日平均貸出冊数	770	<p>内部写真</p> 
所在地	宇山町4-5																				
開設年月	昭和63(1988)年5月																				
専有面積	936.02㎡																				
建物構造	鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階建て1階部分																				
休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間																				
開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00																				
蔵書数	104,033																				
蔵書数(児童書)	23,924																				
蔵書数(一般書)	80,109																				
1日平均貸出冊数	770																				
<p>開設の経過</p>	<p>京阪牧野駅周辺の地域を受け持つ、市内8館目の図書館として開館した。併設館としては4番目である。開館に伴い、昭和48(1973)年10月に開設された牧野分室と、自動車文庫の養父、西牧野、東牧野ステーションを統合した。</p>																				
<p>地域の特徴</p>	<p>京阪牧野駅から商店街を抜け牧野公園のそば、駅からは約5分、住宅街の入り口に当たる。牧野公園の桜は枚方八景のひとつで、花見のころは大変賑わう。併設の生涯学習市民センターで毎年3月に行なわれる人形劇フェスティバルは平成26(2014)年度で第25回を数え、全国からプロ・アマの劇団が集う。</p>																				
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>殿山第二小学校、牧野小学校、西牧野小学校、平野小学校 第三中学校、招提北中学校、府立牧野高等学校</p>																				
<p>利用状況</p>	<p>平成17(2005)年に中央図書館が開館してからは貸出が減少、ゆっくりと新聞や雑誌を楽しむ年配の方の利用が増えた。毎月、第4水曜日と第4土曜日はボランティアグループによる「えほんのおはなし会」が行われている。併設の生涯学習市民センターのサークル活動の方々にも利用され、俳句・短歌などの本の利用も多い。また、国土地理院の2万5千分の1の地図(全国)を所蔵し、登山をする方などに利用されている。平成19(2007)年、牧野公園に「伝阿弋流為 母禮之塚」が建立されてからは、アテルイに関する問合せが寄せられている。</p>																				



# 津田図書館(つたとしょかん)

正面写真



内部写真



所在地	津田北町2丁目25-3
開設年月	平成2(1990)年5月
専有面積	1,043.57㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 4階建2階部分
休館日	毎週月曜日、第3木曜日、 年末年始、蔵書点検期間
開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日・祝日 9:30～17:00
蔵書数	96,701
蔵書数(児童書)	23,217
蔵書数(一般書)	73,484
1日平均貸出	704

ティーンズコーナーと雑誌コーナー



開設の経過	昭和48(1973)年、津田支所の一角で津田分室を開設。これを閉室して、平成2(1990)年5月、津田支所横に津田公民館(現・津田生涯学習市民センター)との複合施設1階部分を図書館とした。市内では9番目、併設館としては5番目の図書館となる。
地域の特徴	国道307号線をはさんで津田の集落がつながり、その裏は国見山に連なっている。北側には田畑が広がり、その向こうに藤阪の集落が眺められる。自然に恵まれている反面、JR学研都市線の藤阪駅と津田駅の間位置するなど交通の便が悪かった。その後、近隣に大型スーパーが営業を開始し、津田山手地区では宅地造成が進み、第2京版道路の開通に伴い周辺の道路整備も進んだことで国道の渋滞も緩和され、津田山手から津田駅方面へのバスも運行されるようになった。
校区(近隣の学校)	津田小学校、津田南小学校 津田中学校、杉中学校、府立枚方津田高等学校
利用状況	男女共通として、幼児から12歳までは比較的に利用が安定しているが、それ以降中高生から20歳代までの利用が停滞している。更に30歳代は主婦層を中心に利用が多いが40歳・50歳代までは段階的に利用が減少、60歳代に再び利用増のピークをむかえ、70歳代になると再び利用が停滞している。中高生向けにはこの世代につながる近隣小学校への訪問や、館内でのティーンズコーナーの運用など実施中である。

## 枚方公園分室 (ひらかたこうえんぶんしつ)

<p>正面写真</p> 		<p>内部写真</p> 
<p>所在地</p> <p>伊加賀東町6-8 枚方公園青少年センター内</p> <p>開設年月</p> <p>昭和49(1974)年4月</p> <p>専有面積</p> <p>120.00㎡</p> <p>建物構造</p> <p>鉄筋コンクリート造 2階一部</p> <p>開室日</p> <p>水・木・金・土・日 (祝日は休室)</p> <p>開室時間</p> <p>10:30~17:00</p> <p>蔵書数</p> <p>20,113</p> <p>蔵書数(児童書)</p> <p>7,792</p> <p>蔵書数(一般書)</p> <p>12,321</p> <p>1日平均貸出冊数</p> <p>331</p>		<p>内部写真</p> 
<p>開設の経過</p>	<p>昭和49(1974)年4月、西口公設市場2階に開設した。平成2(1990)年1月に現在地へ移転し、同年8月から開室時間を13:00から10:30に繰り上げ、開室日も週3日から週5日にした。</p>	
<p>地域の特徴</p>	<p>市の歴史街道沿いにあり、古い趣のある住宅が多い一方で、ファミリー向けマンションや単身アパートも多く混在している。分室は公設市場サンパークの2階にあり、京阪枚方公園駅から徒歩3分と近く、人の往来は多い。</p>	
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>枚方小学校、伊加賀小学校</p>	
<p>利用状況</p>	<p>パソコンを利用しない年配の利用者が多い。土日は若い家族連れも来室。予約本の受取のみの利用が多い。小学生単独での利用は少ない。中学生~20歳代の利用は極少。近くの図書館(蹠跽・市駅前サテライト)との併用利用者が多い。読み聞かせサークルなどの団体利用も多い。</p>	

## 村野分室(むらのぶんしつ)

内部写真		内部写真(じゅうたんコーナー)	
			
所在地	村野西町5-1枚方市役所村野分館サ プリ村野内	サプリ村野外観	
開設年月	昭和49(1974)年4月 平成13(2001)年9月現在地に移転		
専有面積	131.20㎡		
建物構造	鉄筋コンクリート造 3階建て1階部分		
開室日	月・水・金・土・日(祝日は休室)		
開室時間	10:30~17:00		
蔵書数	23,117		
蔵書数(児童書)	8,184		
蔵書数(一般書)	14,933		
1日平均貸出冊数	335		
開設の経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和49(1974)年4月、村野団地内に開設。</li> <li>・昭和54(1979)年9月、同団地内で移転改築。</li> <li>・昭和59(1984)年9月、隔週での日曜開室開始。</li> <li>・平成13(2001)年9月、現在の場所に移転。</li> <li>・平成14(2002)年7月、開室時間を13:00から10:30に繰り上げる。</li> <li>・平成17(2005)年9月、コンピュータを導入し、ネットワーク化。週5日開室。</li> <li>・平成24(2012)年4月~平成25(2013)年3月末まで、耐震工事のため閉室。</li> <li>・平成25(2013)年4月、再オープン。</li> </ul>		
地域の特徴	<p>駅の周辺にはマンションアパートが見られるが、一戸建てが多い。古くからの住宅と新興住宅が混在している。分室は住宅街の外れに位置しており、周辺に商業施設・公共施設が少ない。</p>		
校区(近隣の学校)	<p>桜丘小学校、桜丘北小学校、 桜丘中学校、府立枚方支援学校</p>		
利用状況	<p>複合施設(サプリ村野)のため、広場さぶりの親子連れなど施設の利用のついでに立ち寄り利用者が多い。土日も開室しているので、平日に来室できない人の利用がある。他館(中央図書館、宮之阪分室など)との併用利用者が多い一方で、高齢の方は村野分室のみの利用が多い。近隣に学校はあるが校区の外れに位置するため、平日の小学生の利用は少なく、中学生~20歳代の利用は極少である。団体貸出しが多い。交野市に隣接するため広域利用も多い。</p>		

## 山田分室(やまだぶんしつ)

正面写真



内部写真



所在地	都ヶ丘6-9 (旧山田図書館)
開設年月	平成17(2005)年6月
専有面積	238.00㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建て1階部分
開室日	月・水・金・土(祝日は休室)
開室時間	13:00~17:00
蔵書数	27,134
蔵書数(児童書)	10,980
蔵書数(一般書)	16,154
1日平均貸出冊数	137



開設の経過	自動車文庫須山ステーションの貸出増加を受け、昭和49(1974)年、旧山田農協を改装して分室を設置した。設備も不十分で白蟻にも悩まされた建物を建替え、昭和60(1985)年に市内5番目の図書館となる山田図書館を開館した。平成17(2005)年の中央図書館開設に伴い、規模を縮小して再び山田分室として開室した。
地域の特徴	古くからの住宅が建ち並び、住民の高齢化が進む一方で、乳幼児のいる家庭も最近増えてきている。中学生・高校生が少ない。
校区(近隣の学校)	山田小学校、山田東小学校、中宮小学校、 中宮中学校
利用状況	週3回(月・水・金)は午前中に対面読書を実施。回数は市内で最も多い。主な利用者は高齢者、赤ちゃんや幼稚園・保育所(園)児とその母親、次いで30代以上の大人と小学生で、中高生の利用は非常に少ない。ボランティアのおはなし会は毎回10名前後の参加者があり定着している。市民の居場所としての利用も多い。

## 東香里分室(ひがしこうりぶんしつ)

外観写真		内部写真	
所在地	東香里元町30-19 東香里元町会館内		
開設年月	昭和50(1975)年9月	40周年行事のようす	
専有面積	84.00㎡		
建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建2階部分		
開室日	月・水・木・土(祝日は休室)		
開室時間	13:00～17:00		
蔵書数			
蔵書数(児童書)			11,170
蔵書数(一般書)			5,577
蔵書数(一般書)			5,593
1日平均貸出冊数			154
開設の経過	昭和50(1975)年9月、東香里分室を開設した。昭和55(1980)年9月、仮設場所に移転し、昭和56(1981)年4月に改築再開室した。		
地域の特徴	静かな住宅地の中にある。香里ヶ丘図書館とは直線距離で約1kmだが、坂の多い地域でアップダウンが激しい。		
校区(近隣の学校)	香陽小学校、東香里小学校、東香里中学校		
利用状況	主な利用者は高齢者、小学生、主婦である。インターネットで予約をして受取に来る方や、新刊本や他館から本を取り寄せて構成した特集本コーナーを見て借りる利用者が多い。		

## 藤阪分室 (ふじさかぶんしつ)

正面写真



内部写真



所在地	藤阪西町6-4
開設年月	昭和50(1975)年9月1日
専有面積	148.00㎡
建物構造	鉄筋コンクリート
開室日	月・水・金・土 (祝日は休室)
開室時間	13:00～17:00
蔵書数	15,620
蔵書数(児童書)	6,730
蔵書数(一般書)	8,890
1日平均貸出冊数	183

絵本コーナー



開設の経過	昭和48(1973)年頃から藤阪ハイツを中心とした地域開発が始まり、昭和49(1974)年に自動車文庫の藤阪ハイツステーションを設置した。ステーションの運営には地域の母親たちの参加もあり、昭和50(1975)年に藤阪分室を開設した。
地域の特徴	分室は藤阪ハイツという団地の中にあり、周囲を藤阪元町の旧家群と、新興住宅に囲まれている。
校区(近隣の学校)	藤阪小学校
利用状況	子どもたちの利用に加え、昨今はリタイアした男性の利用が目立つ。

## 釈尊寺分室（しゃくそんじぶんしつ）

<p>正面写真</p> 	<p>内部写真</p> 																				
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>釈尊寺町25—19</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td>昭和54(1979)年7月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td>69.00㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td>鉄筋コンクリート造 2階建2階部分</td> </tr> <tr> <td>開室日</td> <td>水・木・金・土（祝日は休室）</td> </tr> <tr> <td>開室時間</td> <td>13:00～17:00</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>11,532</td> </tr> <tr> <td>  蔵書数(児童書)</td> <td>5,664</td> </tr> <tr> <td>  蔵書数(一般書)</td> <td>5,868</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td>114</td> </tr> </table>	所在地	釈尊寺町25—19	開設年月	昭和54(1979)年7月	専有面積	69.00㎡	建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建2階部分	開室日	水・木・金・土（祝日は休室）	開室時間	13:00～17:00	蔵書数	11,532	蔵書数(児童書)	5,664	蔵書数(一般書)	5,868	1日平均貸出冊数	114	<p>行事写真</p> 
所在地	釈尊寺町25—19																				
開設年月	昭和54(1979)年7月																				
専有面積	69.00㎡																				
建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建2階部分																				
開室日	水・木・金・土（祝日は休室）																				
開室時間	13:00～17:00																				
蔵書数	11,532																				
蔵書数(児童書)	5,664																				
蔵書数(一般書)	5,868																				
1日平均貸出冊数	114																				
<p>開設の経過</p>	<p>日本住宅公団が新たな団地を作るときに確保することが定められている公共施設用のスペースに、図書館分室を開設した。</p>																				
<p>地域の特徴</p>	<p>香里ヶ丘図書館までは直線距離では近いが、徒歩で山を越えるかバスならば2本乗換える必要があるなど移動が不便で、高齢者や小さい子どもが利用するには無理がある。釈尊寺団地は第一と第三は分譲だが第二団地は賃貸で、その中のURの事務所の上に分室と集会所がある。すぐ近くに川越小学校があり、児童にとっては、自分たちだけで出かけられる唯一の図書館である。校区内の村野団地の子どもも、近くにある村野分室が校区外となるため、少し遠いが釈尊寺分室を利用している。</p>																				
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>川越小学校</p>																				
<p>利用状況</p>	<p>小学生は授業時間が伸びた関係で、利用しにくい状況になっている。リタイアした高齢者の利用は増えており、1回の貸出冊数は少ないが、毎週、定期的に来室して利用する人も多い。隣に川越保育園と東香里丘幼稚園がある。保育園は月に一度、子どもたちがおはなし会と団体貸出に来る。幼稚園は、バスの送迎の方が多く、延長保育もあり、帰りに利用する子どもは少ない。</p>																				

## 茄子作分室 (なすづくりぶんしつ)

正面写真 		内部写真 																				
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>茄子作4丁目3-10</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td>昭和56(1981)年1月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td>77.00㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td>木造平屋建</td> </tr> <tr> <td>開室日</td> <td>月・水・木・土 (祝日は休室)</td> </tr> <tr> <td>開室時間</td> <td>13:00～17:00</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>13,206</td> </tr> <tr> <td>  蔵書数(児童書)</td> <td>5,325</td> </tr> <tr> <td>  蔵書数(一般書)</td> <td>7,881</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td>158</td> </tr> </table>	所在地	茄子作4丁目3-10	開設年月	昭和56(1981)年1月	専有面積	77.00㎡	建物構造	木造平屋建	開室日	月・水・木・土 (祝日は休室)	開室時間	13:00～17:00	蔵書数	13,206	蔵書数(児童書)	5,325	蔵書数(一般書)	7,881	1日平均貸出冊数	158		内部写真 (入口付近) 
所在地	茄子作4丁目3-10																					
開設年月	昭和56(1981)年1月																					
専有面積	77.00㎡																					
建物構造	木造平屋建																					
開室日	月・水・木・土 (祝日は休室)																					
開室時間	13:00～17:00																					
蔵書数	13,206																					
蔵書数(児童書)	5,325																					
蔵書数(一般書)	7,881																					
1日平均貸出冊数	158																					
開設の経過	昭和56(1981)年、地域住民の要望により開設。平成10(1998)年3月、施設改修を行い再開室。平成23(2011)年、開室30周年記念行事として「人形劇」を開催した。																					
地域の特徴	近くに春日神社があり、緑豊かな環境である。児童公園と茄子作保育所に隣接している。大きな商業施設や、公共施設はない。																					
校区(近隣の学校)	春日小学校																					
利用状況	地域住民の利用が多く、リピーターがほとんどである。高齢者の利用が増える一方、就園前の児童をつれた保護者の利用も増えている。また、保護者を伴わない小学生の来室も多い。																					



# 宮之阪分室(みやのさかぶんしつ)

正面写真



内部写真



所在地	宮之阪1丁目9-49 (京阪宮之阪駅高架下)
開設年月	昭和58(1983)年
専有面積	108.79㎡
建物構造	鉄骨造高架下建物
開室日	月・水・木・土(祝日は休室)
開室時間	13:00~17:00
蔵書数	16,235
蔵書数(児童書)	5,698
蔵書数(一般書)	10,537
1日平均貸出冊数	214

「さるのミニほうき」を作っています



開設の経過	地元住民からの図書館施設設置の要望があったところへ、京阪宮之阪駅高架化に伴う高架下の利用が検討されることになり、昭和58(1983)年に開設された。駅の乗降口に近く、郵便局に隣接し、商店街の中にあるなど地域の生活動線上にある好条件が揃い、開室当初は約5000冊の蔵書であったが、たちまち市内16分室(当時)中、2番目に貸出の多い分室となった。
地域の特徴	京阪宮之阪駅近くで商店街にあり、高齢者を含む利用者が多い
校区(近隣の学校)	明倫小学校
利用状況	小さい子を連れた若いお母さんもいるが、主にリタイヤした男性や高齢の女性が多く、小学生は少ない

## 香里園分室(こうりえんぶんしつ)

正面写真



行事写真



所在地	香里園町12-97 香里会館2階
開設年月	昭和62(1987)年5月
専有面積	140.25㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建
開室日	月・水・金・土(祝日は休室)
開室時間	13:00~17:00
蔵書数	19,007
蔵書数(児童書)	7,796
蔵書数(一般書)	11,211
1日平均貸出冊数	215

内部写真



開設の経過	昭和62(1987)年5月、枚方市南部の寝屋川市との境界近くに開室した。平成25(2013)年11月から12月にかけてエアコンの入れ替えと天井扇の設置、及び分室では初となるトイレのバリアフリー工事を実施した。
地域の特徴	枚方市の古くからの住宅地の中にあり、寝屋川市と道を隔てて隣接しているため、広域利用者が他の分室より多い。
校区(近隣の学校)	香里小学校 枚方第二中学校
利用状況	開室当時は小学生を中心とした子どもと主婦層の利用が主だったが、近年、子どもの低年齢化と高齢者の利用が目立つ。

## 氷室分室(ひむろぶんしつ)

<p>正面写真</p> 	<p>内部写真</p> 																				
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>尊延寺3-1-47</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td>平成6(1994)年12月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td>200.77㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td>鉄骨平屋建</td> </tr> <tr> <td>開室日</td> <td>月・水・木・土(祝日は休室)</td> </tr> <tr> <td>開室時間</td> <td>13:00～17:00 (夏期10:30～17:00)</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>20,965</td> </tr> <tr> <td>  蔵書数(児童書)</td> <td>7,770</td> </tr> <tr> <td>  蔵書数(一般書)</td> <td>13,195</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td>165</td> </tr> </table>	所在地	尊延寺3-1-47	開設年月	平成6(1994)年12月	専有面積	200.77㎡	建物構造	鉄骨平屋建	開室日	月・水・木・土(祝日は休室)	開室時間	13:00～17:00 (夏期10:30～17:00)	蔵書数	20,965	蔵書数(児童書)	7,770	蔵書数(一般書)	13,195	1日平均貸出冊数	165	<p>内部写真</p> 
所在地	尊延寺3-1-47																				
開設年月	平成6(1994)年12月																				
専有面積	200.77㎡																				
建物構造	鉄骨平屋建																				
開室日	月・水・木・土(祝日は休室)																				
開室時間	13:00～17:00 (夏期10:30～17:00)																				
蔵書数	20,965																				
蔵書数(児童書)	7,770																				
蔵書数(一般書)	13,195																				
1日平均貸出冊数	165																				
<p>開設の経過</p>	<p>枚方市東部に図書館など公共施設がないことから、氷室分室を開設した。開室20周年を迎えた平成26(2014)年に氷室老人集会所にて人形劇を開催、11～12月には、屋根の修理、壁の塗り替え、空調設備交換工事を行った。</p>																				
<p>地域の特徴</p>	<p>氷室小学校に隣接し、分室敷地内が通学路になっている。校区が広く、小学生は一度帰ると分室に再度来るのは困難なため、下校時に分室に立ち寄ることが許可されている。周りは自然が残り、「にほんの里100選」にも選ばれている。建物は住宅がほとんどで商業施設、公共施設は少なく、生涯学習市民センターのロビーのように自習が可能な場所の要望が多い。</p>																				
<p>校区(近隣の学校)</p>	<p>氷室小学校 杉中学校</p>																				
<p>利用状況</p>	<p>来室者のほとんどが学校帰りの小学生。本を借りるというよりも、遊び場として利用している子どもが多い。未就学児は車で外出が多いのか、おはなし会(ババールの会)の参加以外あまり見かけない。テスト中など学校から早く帰宅できる時に利用する中学生もいる。成人の利用者は60歳以上の方が多い。成人、児童ともに1～2時間読書をして借りずに帰る姿を、頻繁に見かける。</p>																				

## 市駅前サテライト(しえきまえさてらいと)

<p>外観</p> 	<p>入口付近</p> 																																	
<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td colspan="2">新町2丁目1-50 関西医科大学附属枚方病院 情報交流センター2階</td> </tr> <tr> <td>開設年月</td> <td colspan="2">平成18(2006)年1月</td> </tr> <tr> <td>専有面積</td> <td colspan="2">163.73㎡</td> </tr> <tr> <td>建物構造</td> <td colspan="2">鉄骨造 2階建2階部分</td> </tr> <tr> <td>休館日</td> <td colspan="2">年末年始・蔵書点検期間</td> </tr> <tr> <td>開館時間</td> <td>月～金</td> <td>9:00～19:00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>土・日・祝日</td> <td>10:00～18:00</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(中央図書館蔵書数を含む)</td> <td></td> <td>約22,000</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(児童書)</td> <td></td> <td>約4,400</td> </tr> <tr> <td>蔵書数(一般書)</td> <td></td> <td>約18,000</td> </tr> <tr> <td>1日平均貸出冊数</td> <td></td> <td>508</td> </tr> </table>	所在地	新町2丁目1-50 関西医科大学附属枚方病院 情報交流センター2階		開設年月	平成18(2006)年1月		専有面積	163.73㎡		建物構造	鉄骨造 2階建2階部分		休館日	年末年始・蔵書点検期間		開館時間	月～金	9:00～19:00		土・日・祝日	10:00～18:00	蔵書数(中央図書館蔵書数を含む)		約22,000	蔵書数(児童書)		約4,400	蔵書数(一般書)		約18,000	1日平均貸出冊数		508	<p>内部写真</p> 
所在地	新町2丁目1-50 関西医科大学附属枚方病院 情報交流センター2階																																	
開設年月	平成18(2006)年1月																																	
専有面積	163.73㎡																																	
建物構造	鉄骨造 2階建2階部分																																	
休館日	年末年始・蔵書点検期間																																	
開館時間	月～金	9:00～19:00																																
	土・日・祝日	10:00～18:00																																
蔵書数(中央図書館蔵書数を含む)		約22,000																																
蔵書数(児童書)		約4,400																																
蔵書数(一般書)		約18,000																																
1日平均貸出冊数		508																																
<p>開設の経過</p>	<p>平成17(2005)年3月に枚方図書館を閉館し、京阪枚方市駅周辺に市立図書館施設を求める声が多く寄せられる中、関西医科大学附属枚方病院の情報交流センター2階部分の無償貸与を受けて開設した。</p>																																	
<p>地域の特徴</p>	<p>京阪枚方市駅北口から徒歩約5分、府道京都守口線沿いにあり、病院への通路途上にある。商業施設、ラポール枚方、メセナ枚方などが近くにあり、一般住宅街からはやや離れている。</p>																																	
<p>校区 (近隣の学校)</p>	<p>枚方小学校</p>																																	
<p>利用状況</p>	<p>年末年始を除いて定休日を設けていないため、枚方市立図書館施設で年間開室時間が一番長く、通勤通学途中に予約本を受取る場所としてよく利用されている。また、手狭ではあるが、子ども連れや高齢者の立ち寄り場所としても定着してきた。</p>																																	

## 自動車文庫



イベントでの貸出



所在地	車塚2丁目1-1 (中央図書館)	左奥ひなぎく号 右手前リフト付き車 
名称	ひなぎく号	
積載冊数	約3,000冊	
導入更新年月	平成27年11月	
運行開始日	昭和49年	
運行曜日	火～金・日	
運休日	年末年始・蔵書点検期間・祝日	
ステーション数	24(病院内2ヶ所含む)	
1日平均貸出冊数	190冊	
開設の経過	自動車文庫は昭和48年7月から「枚方市立図書館条例」に基づき、貸出を中心とした図書館サービスや利用者の掘り起こしを目的に「ひなぎく号」の愛称で運行を開始した。	
特徴	自動車文庫は、分館、分室など固定施設を利用しにくい市民への図書館サービスのセーフティネットとしての役割を中心として、さらに、その機動力を生かして市のイベント参加などの積極的な取り組みを行うことで図書館の認知度を高め、図書館全体の利用者増進を目指すものとしている。	
利用状況	高齢者や子育て中の保護者と乳幼児などの利用が多い。 また、病児保育や留守家庭児童会などに団体貸出を行っている。 病院2ヶ所内へブックトラック(移動式書架)を運び入れて貸出を行っている。	

## 各館の貸出冊数の推移（平成元(1989)年～26(2014)年）

図書館名	年度	1989年 (平成元)	1990年 (平成2)	1991年 (平成3)	1992年 (平成4)	1993年 (平成5)
総数	成人	1,171,360	1,325,009	1,397,544	1,519,428	1,638,627
	児童	803,499	893,697	884,943	869,369	830,738
	合計	1,974,859	2,218,706	2,282,487	2,388,797	2,469,365
枚方図書館	成人	104,123	116,998	121,518	129,921	137,951
	児童	37,608	33,841	31,168	30,244	29,440
	合計	141,731	150,839	152,686	160,165	167,391
分室 (～H12年度 13ヶ所・ H13年度～ 10ヶ所・ H17年度～ 11ヶ所)	成人	154,549	154,842	175,907	196,572	193,759
	児童	202,599	194,095	217,211	220,045	190,214
	合計	357,148	348,937	393,118	416,617	383,973
自動車文庫	成人	54,039	53,958	54,987	61,928	64,093
	児童	79,431	85,257	83,190	80,041	72,718
	合計	133,470	139,215	138,177	141,969	136,811
香里ヶ丘図書館	成人	124,782	139,765	149,516	164,243	173,333
	児童	79,236	90,303	88,634	87,280	84,405
	合計	204,018	230,068	238,150	251,523	257,738
楠葉図書館	成人	158,657	167,705	171,607	179,701	191,041
	児童	96,145	101,166	98,423	92,417	101,107
	合計	254,802	268,871	270,030	272,118	292,148
菅原図書館	成人	110,770	111,726	112,569	118,234	137,923
	児童	64,669	60,686	59,905	61,331	57,663
	合計	175,439	172,412	172,474	179,565	195,586
山田図書館 平成16年閉館→ 平成17年分室に	成人	76,926	71,617	68,552	75,672	87,271
	児童	34,862	39,846	33,845	31,358	35,299
	合計	111,788	111,463	102,397	107,030	122,570
蹉跎図書館	成人	140,145	146,529	150,802	157,096	164,415
	児童	60,177	59,240	54,561	52,814	53,197
	合計	200,322	205,769	205,363	209,910	217,612
御殿山図書館	成人	117,812	130,325	126,633	139,307	144,939
	児童	73,128	76,937	71,455	72,855	70,117
	合計	190,940	207,262	198,088	212,162	215,056
牧野図書館	成人	129,557	140,141	153,279	174,099	206,892
	児童	75,644	74,541	71,734	70,224	69,334
	合計	205,201	214,682	225,013	244,323	276,226
津田図書館	成人		91,403	112,174	122,655	137,010
	児童		77,785	74,817	70,760	67,244
	合計		169,188	186,991	193,415	204,254

1994年 (平成6)	1995年 (平成7)	1996年 (平成8)	1997年 (平成9)	1998年 (平成10)	1999年 (平成11)	図書館名
1,667,011	1,693,087	1,628,734	1,708,005	1,754,346	1,745,077	総数
815,359	800,863	755,053	726,778	778,690	743,977	
2,482,370	2,493,950	2,383,787	2,434,783	2,533,036	2,489,054	
136,311	140,201	144,995	132,575	98,930	170,487	枚方図書館
29,104	27,976	28,727	25,943	20,994	35,254	
165,415	168,177	173,722	158,518	119,924	205,741	
185,533	188,207	176,693	162,072	172,702	177,679	分室 (~H12年度 13ヶ 所・H13年度~ 10ヶ所・H17年度 ~ 11ヶ所)
176,866	171,836	162,832	137,921	151,870	149,282	
362,399	360,043	339,525	299,993	324,572	326,961	
64,437	65,737	68,363	54,890	56,594	44,729	自動車文庫
63,578	63,416	65,547	54,022	51,875	39,477	
128,015	129,153	133,910	108,912	108,469	84,206	
192,150	193,727	194,728	190,025	197,857	153,670	香里ヶ丘図書館
91,975	89,800	82,971	72,515	79,656	61,556	
284,125	283,527	277,699	262,540	277,513	215,226	
196,067	200,727	219,339	208,854	220,849	179,493	楠葉図書館
100,700	97,998	101,465	90,206	94,280	77,580	
296,767	298,725	320,804	299,060	315,129	257,073	
137,580	148,929	84,279	274,288	304,321	317,951	菅原図書館
61,137	60,384	36,249	116,353	127,009	126,950	
198,717	209,313	120,528	390,641	431,330	444,901	
92,428	90,320	83,531	81,321	86,295	85,499	山田図書館 平成16年閉館 → 平成17年分室 に
43,035	43,114	38,577	36,105	37,660	37,151	
135,463	133,434	122,108	117,426	123,955	122,650	
162,087	158,117	146,999	154,530	150,827	148,427	蹉跎図書館
55,238	57,574	52,724	46,028	46,824	47,641	
217,325	215,691	199,723	200,558	197,651	196,068	
148,191	147,127	144,970	129,505	132,551	125,886	御殿山図書館
66,159	65,285	67,380	50,067	55,375	52,574	
214,350	212,412	212,350	179,572	187,926	178,460	
213,176	216,675	207,749	198,213	208,242	214,637	牧野図書館
66,650	64,810	59,807	56,556	67,780	67,094	
279,826	281,485	267,556	254,769	276,022	281,731	
139,051	143,320	157,088	121,732	125,178	126,619	津田図書館
60,917	58,670	58,774	41,062	45,367	49,418	
199,968	201,990	215,862	162,794	170,545	176,037	

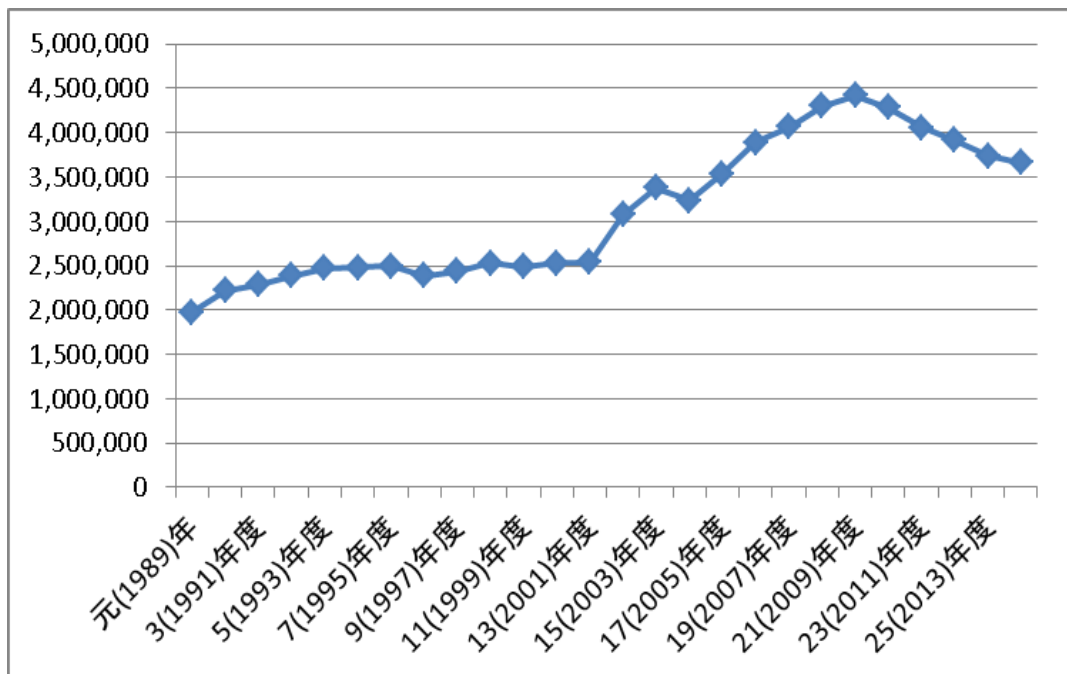
図書館名	年度	2000年 (平成12)	2001年 (平成13)	2002年 (平成14)	2003年 (平成15)	2004年 (平成16)
総数	成人	1,780,795	1,796,154	2,170,727	2,364,096	2,258,063
	児童	751,387	745,744	902,348	1,010,575	978,033
	合計	2,532,182	2,541,898	3,073,075	3,374,671	3,236,096
枚方図書館	成人	166,365	190,240	303,208	340,657	229,311
	児童	36,835	39,984	54,171	63,107	45,264
	合計	203,200	230,224	357,379	403,764	274,575
分室 (～H12年度 13ヶ所・H13年度～ 10ヶ所・H17年度～ 11ヶ所)	成人	172,516	143,402	170,499	207,999	223,518
	児童	136,161	108,824	125,598	131,864	132,412
	合計	308,677	252,226	296,097	339,863	355,930
自動車文庫	成人	48,668	46,511	37,108	37,226	34,440
	児童	47,343	44,909	40,434	39,470	32,893
	合計	96,011	91,420	77,542	76,696	67,333
香里ヶ丘図書館	成人	204,437	198,450	210,014	263,820	289,586
	児童	77,343	77,470	94,070	106,858	112,118
	合計	281,780	275,920	304,084	370,678	401,704
楠葉図書館	成人	223,111	238,779	289,909	300,950	284,852
	児童	103,557	115,942	132,195	154,930	151,236
	合計	326,668	354,721	422,104	455,880	436,088
菅原図書館	成人	312,466	284,073	292,838	294,182	288,589
	児童	117,589	107,656	125,978	138,259	134,969
	合計	430,055	391,729	418,816	432,441	423,558
山田図書館 平成16年閉館 → 平成17年分室 に	成人	103,754	87,938	140,703	148,891	159,455
	児童	43,818	37,542	46,800	51,985	47,332
	合計	147,572	125,480	187,503	200,876	206,787
蹉跎図書館	成人	132,030	102,045	151,815	170,629	168,025
	児童	45,612	40,757	65,004	74,498	79,086
	合計	177,642	142,802	216,819	245,127	247,111
御殿山図書館	成人	122,877	100,408	130,589	137,379	144,151
	児童	51,309	46,894	68,122	80,925	75,944
	合計	174,186	147,302	198,711	218,304	220,095
牧野図書館	成人	203,147	280,200	307,951	319,244	296,639
	児童	55,872	77,364	90,441	100,987	98,967
	合計	259,019	357,564	398,392	420,231	395,606
津田図書館	成人	91,424	124,108	136,093	143,119	139,497
	児童	35,948	48,402	59,535	67,692	67,812
	合計	127,372	172,510	195,628	210,811	207,309



図書館名	2005年 (平成17)	2006年 (平成18)	2007年 (平成19)	2008年 (平成20)	2009年 (平成21)	図書館名
総数	2,555,428	2,871,731	3,012,592	3,198,021	3,301,305	総数
	979,285	1,020,236	1,049,340	1,100,433	1,118,382	
	3,534,713	3,891,967	4,061,932	4,298,454	4,419,687	
中央図書館	687,310	849,660	967,289	1,014,888	1,060,329	中央図書館
	176,563	197,786	218,274	235,110	253,896	
	863,873	1,047,446	1,185,563	1,249,998	1,314,225	
分室 (～H12年度 13ヶ所・H13年度～ 10ヶ所・H17年度～ 11ヶ所)	294,623	423,509	424,805	457,448	458,506	分室 (～H12年度 13ヶ所・H13年度～ 10ヶ所・H17年度～ 11ヶ所)
	129,242	153,543	159,134	163,813	161,167	
	423,865	577,052	583,939	621,261	619,673	
自動車文庫	37,088	44,942	43,495	41,608	36,728	自動車文庫
	32,085	34,649	32,616	32,529	26,208	
	69,173	79,591	76,111	74,137	62,936	
香里ヶ丘図書館	314,821	320,105	325,099	347,100	359,244	香里ヶ丘図書館
	116,069	117,304	122,140	136,111	136,618	
	430,890	437,409	447,239	483,211	495,862	
楠葉図書館	269,477	283,633	298,059	326,712	345,454	楠葉図書館
	129,892	130,144	133,001	136,237	136,681	
	399,369	413,777	431,060	462,949	482,135	
菅原図書館	269,099	259,581	257,051	278,057	280,440	菅原図書館
	124,230	121,394	122,262	127,883	121,240	
	393,329	380,975	379,313	405,940	401,680	
山田図書館 平成16年閉館 → 平成17年分室 に						山田図書館 平成16年閉館 → 平成17年分室 に
蹉跎図書館	169,444	170,758	179,140	193,508	208,972	蹉跎図書館
	73,779	77,289	81,010	87,716	99,908	
	243,223	248,047	260,150	281,224	308,880	
御殿山図書館	144,031	149,848	155,821	170,358	169,003	御殿山図書館
	60,586	54,334	53,288	53,153	53,092	
	204,617	204,182	209,109	223,511	222,095	
牧野図書館	235,176	229,282	215,547	219,883	223,299	牧野図書館
	73,150	71,554	61,048	61,715	61,514	
	308,326	300,836	276,595	281,598	284,813	
津田図書館	134,359	140,413	146,286	148,459	159,330	津田図書館
	63,689	62,239	66,567	66,166	68,058	
	198,048	202,652	212,853	214,625	227,388	

図書館名	年度	2010年 (平成22)	2011年 (平成23)	2012年 (平成24)	2013年 (平成25)	2014年 (平成26)
総数	成人	3,189,035	3,039,238	2,938,277	2,799,305	2,747,992
	児童	1,095,633	1,016,422	973,786	938,149	918,284
	合計	4,284,668	4,055,660	3,912,063	3,737,454	3,666,276
中央図書館	成人	1,024,627	934,985	850,497	750,835	789,519
	児童	252,022	221,869	213,346	193,702	206,257
	合計	1,276,649	1,156,854	1,063,843	944,537	995,776
分室 (～H12年度 13ヶ所・H13年度～ 10ヶ所・H17年度～ 11ヶ所)	成人	455,317	449,663	426,904	430,332	435,004
	児童	164,372	162,389	147,759	151,084	164,936
	合計	619,689	612,052	574,663	581,416	599,940
自動車文庫	成人	32,035	28,996	30,208	25,728	26,460
	児童	19,460	17,327	19,905	18,484	19,541
	合計	51,495	46,323	50,113	44,212	46,001
香里ヶ丘図書館	成人	338,512	324,266	348,107	339,026	326,578
	児童	129,882	114,758	113,775	105,020	103,068
	合計	468,394	439,024	461,882	444,046	429,646
楠葉図書館	成人	347,173	340,379	323,708	331,911	269,660
	児童	134,288	132,199	124,636	127,657	92,678
	合計	481,461	472,578	448,344	459,568	362,338
菅原図書館	成人	267,389	262,625	273,524	268,963	272,404
	児童	111,219	100,972	100,720	95,249	97,898
	合計	378,608	363,597	374,244	364,212	370,302
山田図書館 平成16年閉館 → 平成17年分室 に	成人					
	児童					
	合計					
蹉跎図書館	成人	200,191	193,947	181,685	180,385	177,729
	児童	98,271	86,821	79,644	80,390	71,490
	合計	298,462	280,768	261,329	260,775	249,219
御殿山図書館	成人	155,906	151,860	147,283	134,215	130,491
	児童	54,062	52,048	49,878	47,241	49,480
	合計	209,968	203,908	197,161	181,456	179,971
牧野図書館	成人	213,475	203,735	211,171	197,469	180,788
	児童	62,179	56,736	52,994	51,559	47,099
	合計	275,654	260,471	264,165	249,028	227,887
津田図書館	成人	154,410	148,782	145,190	140,441	138,980
	児童	69,878	71,303	71,129	67,763	65,827
	合計	224,288	220,085	216,319	208,204	204,807

## 貸出冊数の推移(平成元年度～平成 26 年度)



(冊)

元(1989)年	2(1990)年度	3(1991)年度	4(1992)年度	5(1993)年度
1,974,859	2,218,706	2,282,487	2,388,797	2,469,365
6(1994)年度	7(1995)年度	8(1996)年度	9(1997)年度	10(1998)年度
2,482,370	2,493,950	2,383,787	2,434,783	2,533,036
11(1999)年度	12(2000)年度	13(2001)年度	14(2002)年度	15(2003)年度
2,489,054	2,532,182	2,541,898	3,073,075	3,374,671
16(2004)年度	17(2005)年度	18(2006)年度	19(2007)年度	20(2008)年度
3,236,096	3,534,713	3,891,967	4,061,932	4,298,454
21(2009)年度	22(2010)年度	23(2011)年度	24(2012)年度	25(2013)年度
4,419,687	4,284,668	4,055,660	3,912,063	3,737,454
26(2014)年度				
3,666,276				

図書館サービスの推移（平成元（1989）年～26（2014）年）

		1989年度 (平成元)	1990年度 (平成2)	1991年度 (平成3)	1992年度 (平成4)	1993年度 (平成5)	
投入に関する指標	分館	8	9	9	9	9	
	図書館数	13	12	12	12	12	
	分室	37	37	39	38	38	
	自動車文庫ステーション						
	職員数	71	78	78	79	81	
	一般職員	30	30	29	29	29	
	非常勤職員等						
	蔵書冊数	425,518	479,525	515,751	543,206	581,445	
	成人	266,369	282,991	289,845	298,132	304,927	
	児童	691,887	762,516	805,596	841,338	886,372	
合計							
購入冊数	成人	61,552	38,864	41,084	43,635	43,396	
	児童	31,325	21,599	20,580	21,606	21,206	
	合計	92,877	60,463	61,664	65,241	64,602	
	除籍冊数	成人	25,394	21,107	19,416	33,358	21,106
		児童	18,967	15,963	14,665	21,533	16,406
		合計	44,361	37,070	34,081	54,891	37,512
	図書館経費 決算額 (単位:千円)	一般会計歳出	87,721,656	91,647,442	98,003,445	110,605,929	105,446,081
		教育費	13,655,220	13,021,384	14,031,851	15,119,001	13,793,795
		中央図書館整備事業費					
		(内図書館費)					
図書館費		633,695	693,156	753,135	857,512	1,049,850	
人件費				521,403	645,401	694,514	
物件費			58,650	135,067	109,067	246,369	
図書費		77,388	80,554	88,500	90,500	92,900	
逐次刊行物費			8,145	8,165	12,544	16,066	
算出に関する指標		登録者数	30,652	32,705	33,157	35,127	38,021
	成人	21,512	22,161	20,331	19,121	18,595	
	児童	52,164	54,866	53,488	54,248	56,616	
	合計						
	実利用者数						
	成人						
	児童						
	合計						
	貸出冊数	1,171,360	1,325,009	1,397,544	1,519,428	1,638,627	
	成人	803,499	893,697	884,943	869,369	830,738	
児童	1,974,859	2,218,706	2,282,487	2,388,797	2,469,365		
合計							
予約受付数	41,559	46,181	51,582	57,442	65,322		
成人	19,742	23,522	26,717	20,450	15,683		
児童	61,301	69,703	78,299	77,892	81,005		
合計							
団体貸出冊数	56	67	59	50	63		
団体数	7,505	5,950	7,458	9,916	8,708		
相互貸借借受冊数	1,129	1,125	1,318	1,027	1,237		
貸出冊数		88	227	199	484		
複写サービス件数	9,357	12,358	14,288	15,102	17,460		
枚数	37,202	52,745	65,596	65,714	83,739		
対面読書実利用者数		8	9	17	17		
実施回数	214	311	432	532	589		
点字資料貸出冊数(タイトル/冊)	121/362	254/614	/843	/749	198/371		
録音資料貸出巻数(タイトル/巻)		981/6,845	1,872/9,796	2,126/10,894	1,832/9,975		
主なサービス指数	登録率 (登録者数/人口)%	13.4%	14.0%	13.6%	13.7%	14.3%	
	実利用者率(実利用者数/人口)%						
	市民一人あたり貸出冊数	5.1	5.7	5.8	6.0	6.2	
	登録者一人あたり貸出冊数	37.9	40.4	42.7	44.0	43.6	
	実利用者一人あたり貸出冊数						
	市民一人あたり蔵書冊数	1.8	2.0	2.1	2.1	2.2	
	蔵書回転率(回)	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	
	市民千人あたり購入冊数	241	155	157	165	163	
	市民一人あたり図書費	289	206	225	229	234	
	購入図書平均単価(円)	1,199	1,332	1,435	1,387	1,438	
貸出コスト	321	312	330	359	425		
一般職員一人あたり貸出冊数	25,319	28,445	29,263	30,238	30,486		
一般職員一人あたり奉仕人口	5,001	5,011	5,039	5,008	4,903		
一般会計に占める図書館費の割合(%)	0.72%	0.76%	0.77%	0.78%	1.00%		
枚方市人口(各年度末)	390,094	390,888	393,061	395,625	397,180		

1994年度 (平成6)	1995年度 (平成7)	1996年度 (平成8)	1997年度 (平成9)	1998年度 (平成10)	1999年度 (平成11)		
9	9	9	9	9	9	図書館数	分館
13	13	13	13	13	13		分室
38	36	38	34	34	34		自動車文庫ステーション
83	83	84	84	84	85	職員数	一般職員
33	35	83	82	79	79		非常勤職員等
608,282	624,604	627,724	648,750	647,872	660,647	蔵書冊数	成人
314,338	320,216	321,164	324,357	324,586	329,256		児童
922,620	944,820	948,888	973,107	972,458	989,903		合計
46,396	42,049	34,471	29,624	34,432	30,139	購入冊数	成人
21,477	18,092	15,350	13,678	13,584	15,041		児童
67,873	60,141	49,821	43,302	48,016	45,180		合計
34,388	35,529	34,416	22,411	17,640	16,683	除籍冊数	成人
13,052	12,887	13,352	12,061	9,860	5,247		児童
47,440	48,416	47,768	34,472	27,500	21,930		合計
107,177,753	108,902,168	111,393,074	113,642,322	111,560,632	114,697,211	図書館経費 決算額 (単位:千円)	一般会計蔵出
15,109,952	15,536,709	14,900,425	15,052,568	13,209,691	13,026,341		教育費
							中央図書館整備事業費
							(内図書費)
1,045,421	973,524	1,037,476	1,081,058	1,100,576	1,162,002		図書館費
751,504	761,478	851,691	910,961	925,243	936,558		人件費
176,900	105,150	101,606	86,338	92,090	142,161		物件費
100,999	90,899	71,578	69,702	69,998	69,948		図書費
16,018	15,997	12,601	14,058	13,245	13,335		逐次刊行物費
37,745	39,162	43,369	40,686	39,826	44,503		
17,977	17,639	17,741	14,217	13,884	14,568	登録者数	成人
55,722	56,801	61,110	54,903	53,710	59,071		児童
							合計
						実利用者数	成人
							児童
							合計
1,667,011	1,693,087	1,628,734	1,708,005	1,754,346	1,745,077	貸出冊数	成人
815,359	800,863	755,053	726,778	778,690	743,977		児童
2,482,370	2,493,950	2,383,787	2,434,783	2,533,036	2,489,054		合計
65,058	69,898	66,108	70,237	82,111	89,979	予約受付数	成人
14,674	13,648	12,521	13,736	14,901	12,636		児童
79,732	83,546	78,629	83,973	97,012	102,615		合計
75	110	135	137	161	240	団体貸出	団体数
16,250	28,007	31,842	35,794	33,847	34,448		冊数
1,464	724	2,907	5,020	5,204	6,012	相互貸借	借受冊数
519	487	351	308	195	320		貸出冊数
18,656	20,532	20,999	21,269	21,446	21,303	複写サービス	件数
93,182	103,949	109,073	104,943	101,810	99,318		枚数
16	17	18	15	16	16	対面読書	実利用者数
565	567	528	506	449	433		実施回数
198/463	167/363	163/258	207/354	159/349	131/189	点字資料貸出冊数(タイトル/冊)	
1,312/8,215	1,313/7,899	1,475/9,454	2,024/10,943	2,268/12,604	1,962/10,893	録音資料貸出巻数(タイトル/巻)	
14.0%	14.2%	15.2%	13.6%	13.2%	14.6%	登録率 (登録者数/人口)%	
						実利用者率(実利用者数/人口)%	
6.2	6.2	5.9	6.0	6.2	6.1	市民一人あたり貸出冊数	
44.5	43.9	39.0	44.3	47.2	42.1	登録者一人あたり貸出冊数	
						実利用者一人あたり貸出冊数	
2.3	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	市民一人あたり蔵書冊数	
2.7	2.6	2.5	2.5	2.6	2.5	蔵書回転率(回)	
170	150	124	107	118	111	市民千人あたり購入冊数	
254	227	178	172	172	172	市民一人あたり図書費	
1,488	1,511	1,437	1,610	1,458	1,548	購入図書平均単価(円)	
421	390	435	444	434	467	貸出コスト	
29,908	30,048	28,378	28,986	30,155	29,283	一般職員一人あたり貸出冊数	
4,798	4,831	4,794	4,812	4,833	4,772	一般職員一人あたり奉仕人口	
0.98%	0.89%	0.93%	0.95%	0.99%	1.01%	一般会計に占める図書館費の割合(%)	
398,197	401,003	402,672	404,220	406,009	405,588	枚方市人口(各年度末)	

		2000年度 (平成12)	2001年度 (平成13)			2002年度 (平成14)	2003年度 (平成15)
投入に関する指標	分館	9	9	※分館	9	9	
	図書館数	13	10	分室	10	10	
		30	30	自動車文庫ステーション	30	30	
	職員数	83	81	職員数	78	75	
		78	71	非常勤職員等	66	65	
	蔵書冊数	640,803	628,242	蔵書冊数	654,831	685,062	
		319,843	301,137	児童	311,136	316,182	
	合計	960,646	929,379	合計	965,967	1,001,244	
	購入冊数	26,942	30,634	購入冊数	34,942	25,705	
		10,793	12,156	児童	14,794	10,092	
	合計	37,735	42,790	合計	49,736	35,797	
	除籍冊数	16,188	46,124	除籍冊数	27,813	36,297	
	5,105	28,370	児童	7,252	6,543		
合計	21,293	74,494	合計	35,065	42,840		
一般会計歳出	109,750,340	109,739,168	一般会計歳出	106,422,707	101,859,466		
教育費	12,701,943	12,503,730	教育費	12,158,437	12,388,380		
中央図書館整備事業費			中央図書館整備事業費	2,000	4,919		
(内図書費)			(内図書費)				
図書館経費	1,120,250	1,059,332	図書館経費	1,069,644	1,007,738		
決算額	917,683	874,543	決算額	877,350	850,851		
(単位:千円)	135,711	111,791	(単位:千円)	105,131	94,166		
物件費	54,156	60,329	物件費	74,907	50,964		
図書費	12,700	12,669	逐次刊行物費	12,256	11,757		
逐次刊行物費							
算出に関する指標	登録者数	39,490	29,962	新規登録者数	19,859	16,033	
		13,267	10,953	児童	8,142	6,403	
	合計	52,757	40,915	合計	28,001	22,436	
	実利用者数			実利用者数	63,638	62,673	
				児童	19,513	18,304	
	合計			合計	83,151	80,977	
	貸出冊数	1,780,795	1,796,154	貸出冊数	2,170,727	2,364,096	
		751,387	745,744	児童	902,348	1,010,575	
	合計	2,532,182	2,541,898	合計	3,073,075	3,374,671	
	予約受付数	102,939	110,853	予約受付数	140,080	170,390	
		13,573	18,947	児童	25,877	30,059	
	合計	116,512	129,800	合計	165,957	200,449	
団体貸出冊数	312	301	団体貸出冊数	326	407		
	35,298	38,783		52,689	66,446		
相互貸借借受冊数	5,729	5,228	相互貸借借受冊数	6,254	8,768		
貸出冊数	528	673	貸出冊数	473	491		
複写サービス件数	20,150	19,626	複写サービス件数	18,761	17,258		
枚数	91,107	89,496	枚数	84,330	75,691		
対面読書実利用者数	16	19	対面読書実利用者数	19	18		
実施回数	417	474	実施回数	543	564		
点字資料貸出冊数(タイトル数のみ)	100	161	点字資料貸出冊数(タイトル数のみ)	170	22		
録音資料貸出冊数(タイトル数のみ)	2,122	1,294	録音資料貸出冊数(タイトル数のみ)	1,290	1,338		
主なサービス指数	登録率(登録者数/人口)%	13.0%	10.1%	新規登録率(新規登録者数/人口)%	6.9%	5.5%	
	実利用者率(実利用者数/人口)%			実利用者率(実利用者数/人口)%	20.4%	19.8%	
	市民一人あたり貸出冊数	6.2	6.3	市民一人あたり貸出冊数	7.5	8.3	
	登録者一人あたり貸出冊数	48.0	62.1	新規登録者一人あたり貸出冊数	109.7	150.4	
	市民一人あたり蔵書冊数	2.4	2.3	市民一人あたり蔵書冊数	2.4	2.5	
	蔵書回転率(回)	2.6	2.7	蔵書回転率(回)	3.2	3.4	
	市民千人あたり購入冊数	93	105	市民千人あたり購入冊数	122	88	
	市民一人あたり図書費	134	149	市民一人あたり図書費	184	125	
	購入図書平均単価(円)	1,435	1,410	購入図書平均単価(円)	1,506	1,424	
	貸出コスト	442	417	貸出コスト	348	299	
	一般職員一人あたり貸出冊数	30,508	31,381	一般職員一人あたり貸出冊数	39,398	44,996	
	一般職員一人あたり奉仕人口	4,882	5,010	一般職員一人あたり奉仕人口	5,222	5,443	
一般会計に占める図書館費の割合(%)	1.02%	0.97%	一般会計に占める図書館費の割合(%)	1.01%	0.99%		
枚方市人口(各年度末)	405,232	405,804	枚方市人口(各年度末)	407,298	408,204		

※平成14(2002)年から登録者数⇒新規登録者数に指標変更。登録率、1人あたり貸出冊数も準じて変更

2004年度 (平成16)	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)	2009年度 (平成21)		
9	8	8	8	8	8	図書館数	分館
10	11	11	11	11	11		分室
30	27	27	27	27	27		自動車文庫ステーション
74	67	66	61	58	57	職員数	一般職員
57	61	62	60	66	64		非常勤職員等
755,099	791,178	837,900	856,409	886,630	886,868	蔵書冊数	成人
332,187	337,124	343,882	353,889	360,890	357,444		児童
1,087,286	1,128,302	1,181,782	1,210,298	1,247,520	1,244,312		合計
57,488	47,160	46,909	45,978	47,257	26,840	購入冊数	成人
23,625	14,203	14,209	17,397	17,941	5,712		児童
81,113	61,363	61,118	63,375	65,198	32,552		合計
18,393	20,677	15,005	40,922	22,576	33,352	除籍冊数	成人
10,411	9,989	10,638	10,214	10,080	9,082		児童
28,804	30,666	25,643	51,136	32,656	42,434		合計
109,165,530	101,841,265	104,386,277	111,002,126	107,788,712	113,491,092	図書館経費 決算額 (単位:千円)	一般会計歳出
12,585,329	11,522,704	11,016,915	10,913,802	14,377,912	12,491,369		教育費
885,125,869							中央図書館整備事業費
(124,707)							(内図書館費)
1,061,710	1,090,254	1,096,303	1,065,318	1,058,406	981,380		図書館費
830,170	791,535	778,966	742,720	740,492	724,548		人件費
168,944	182,985	202,664	207,852	204,016	196,238		物件費
50,404	102,000	100,816	100,048	100,000	47,974		図書費
12,192	13,735	13,857	14,698	13,899	12,620		逐次刊行物費
18,019	15,703	18,557	16,968	15,499	39,136		
8,463	5,814	5,564	5,431	5,265	8,836	新規登録者数	成人
26,482	21,517	24,121	22,399	20,764	47,972		児童
59,479	64,057	65,987	66,300	66,996	70,163		合計
16,985	17,062	16,736	16,819	16,567	17,908	実利用者数	成人
76,464	81,119	82,723	83,119	83,563	88,071		児童
2,258,063	2,555,428	2,871,731	3,012,592	3,198,021	3,301,305		合計
978,033	979,285	1,020,236	1,049,340	1,100,433	1,118,382	貸出冊数	成人
3,236,096	3,534,713	3,891,967	4,061,932	4,298,454	4,419,687		児童
189,930	220,052	268,153	313,444	370,431	499,802		合計
32,894	31,139	34,591	37,296	41,142	49,313	予約受付数	成人
222,824	251,191	302,744	350,740	411,573	549,115		児童
489	514	532	538	651	613		合計
73,660	80,150	96,358	101,028	107,856	105,125	団体貸出冊数	団体数
10,336	5,546	5,788	6,134	7,799	7,811		冊数
582	1,748	3,086	3,253	4,480	5,210		
14,413	14,230	13,006	12,269	11,806	11,340	相互貸借	借受冊数
56,559	65,209	66,618	64,744	62,943	60,725		貸出冊数
16	23	17	17	18	16	複写サービス	件数
613	598	597	550	638	649		枚数
45	48	38	10	14	64	対面読書	実利用者数
904	563	827	726	3,483	5,174		実施回数
6.5%	5.3%	5.9%	5.5%	5.1%	11.7%	点字資料貸出冊数(タイトル数のみ)	
18.7%	19.9%	20.2%	20.3%	20.6%	21.4%		録音資料貸出巻数(タイトル数のみ)
7.9	8.7	9.5	9.9	10.6	10.8	新規登録率 (新規登録者数/人口)%	
122.2	164.3	161.4	181.3	207.0	92.1		実利用者率(実利用者数/人口)%
42.3	43.6	47.0	48.9	51.4	50.2	市民一人あたり貸出冊数	
2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.0		新規登録者一人あたり貸出冊数
3.0	3.1	3.3	3.4	3.4	3.6	市民一人あたり蔵書冊数	
199	150	149	155	160	79		蔵書回転率(回)
124	250	246	244	246	117	市民千人あたり購入冊数	
2,159	1,662	1,650	1,579	1,534	1,474		市民一人あたり図書費
328	308	282	262	246	222	購入図書平均単価(円)	
43,731	52,757	58,969	66,589	74,111	77,538		貸出コスト
5,514	6,094	6,199	6,723	7,004	7,213	一般職員一人あたり貸出冊数	
0.97%	1.07%	1.05%	0.96%	0.98%	0.86%		一般職員一人あたり奉仕人口
408,025	408,290	409,118	410,112	406,253	411,133	一般会計に占める図書館費の割合(%)	
						枚方市人口(各年度末)	

※平成17(2005)年からの分館数には中央図書館を含む

		2010年度 (平成22)	2011年度 (平成23)	2012年度 (平成24)	2013年度 (平成25)	2014年度 (平成26)
投入に関する指標	※分館	8	8	8	8	8
	図書館数	11	11	11	11	11
	分室	26	26	26	26	26
	自動車文庫ステーション					
	職員数	54	53	48	47	48
	一般職員	71	68	71	75	78
	非常勤職員等					
	蔵書冊数	905,755	916,975	899,876	910,257	909,272
	成人	358,649	357,831	354,824	356,025	358,120
	児童	1,264,404	1,274,806	1,254,700	1,266,282	1,267,392
合計						
購入冊数	28,249	24,348	27,065	26,758	25,870	
成人	9,808	8,531	8,832	10,173	10,254	
児童	38,057	32,879	35,897	36,931	36,124	
合計						
除籍冊数	22,442	24,373	56,883	27,250	37,753	
成人	9,421	10,756	13,321	10,906	8,071	
児童	31,863	35,129	70,204	38,156	45,824	
合計						
図書館経費	118,323,212	115,937,035	118,683,841	119,695,823	123,287,726	
一般会計歳出	12,397,871	11,381,593	9,299,158	10,537,819	10,565,983	
教育費						
中央図書館整備事業費						
(内図書費)						
図書館経費	953,976	1,025,014	926,213	885,604	1,000,227	
図書館費	703,738	699,216	618,555	606,358	631,358	
決算額	189,897	258,807	240,693	212,629	299,115	
(単位:千円)	54,636	55,793	55,843	55,717	58,450	
図書費	10,800	11,198	11,122	10,900	11,304	
逐次刊行物費						
算出に関する指標	新規登録者数	9,792	8,277	7,095	6,981	7,106
	成人	3,263	3,115	2,760	2,756	3,449
	児童	13,055	11,392	9,855	9,737	10,555
	合計					
	実利用者数	68,928	67,374	64,814	62,531	60,260
	成人	16,891	16,195	14,710	14,130	13,955
	児童	85,819	83,569	79,524	76,661	74,215
	合計					
	貸出冊数	3,189,035	3,039,238	2,938,277	2,799,305	2,747,992
	成人	1,095,633	1,016,422	973,786	938,149	918,284
	児童	4,284,668	4,055,660	3,912,063	3,737,454	3,666,276
	合計					
	予約受付数	633,527	674,269	719,307	696,798	685,464
	成人	64,860	68,297	73,671	73,506	75,745
	児童	698,387	742,566	792,978	770,304	761,209
	合計					
	団体貸出	611	263	245	215	274
団体数	90,769	51,325	48,063	47,074	64,487	
冊数						
相互貸借	8,301	7,484	7,607	5,240	5,003	
借受冊数	5,392	6,017	7,451	7,785	7,125	
貸出冊数	9,786	9,059	8,567	7,880	6,808	
複写サービス	50,055	39,678	200,882	33,445	27,943	
件数						
枚数						
対面読書	15	13	14	13	14	
実利用者数	611	546	375	362	390	
実施回数						
点字資料貸出冊数(タイトル数のみ)	102	69	176	196	157	
録音資料貸出巻数(タイトル数のみ)	6,356	6,260	6,578	7,457	6,612	
主なサービス指標	新規登録率 (新規登録者数/人口)%	3.2%	2.8%	2.4%	2.4%	2.6%
	実利用者率(実利用者数/人口)%	20.9%	20.4%	19.4%	18.8%	18.3%
	市民一人あたり貸出冊数	10.4	9.9	9.6	9.2	9.0
	新規登録者一人あたり貸出冊数	328.2	356.0	396.9	383.8	347.3
	実利用者一人あたり貸出	49.9	48.5	49.2	48.8	49.4
	市民一人あたり蔵書冊数	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	蔵書回転率(回)	3.4	3.2	3.1	3.0	2.9
	市民千人あたり購入冊数	93.0	80.0	88.0	91.0	89.0
	市民一人あたり図書費	133	136	137	137	144
	購入図書平均単価(円)	1,436	1,697	1,556	1,509	1,618
	貸出コスト	223	253	236	237	273
	一般職員一人あたり貸出冊数	79,346	76,522	81,501	79,520	76,381
	一般職員一人あたり奉仕人口	7,610	7,739	8,520	8,671	8,463
一般会計に占める図書館費の割合(%)	0.81%	0.88%	0.78%	0.74%	0.81%	
枚方市人口(各年度末)	410,926	410,142	408,966	407,558	406,228	

※平成17(2005)年からの分館数には中央図書館を含む

注  
・録音図書の統計は  
テープ、デジター、CD  
ブックの合計  
・録音図書・点字図書  
の統計に雑誌は含まな  
い。  
・相互貸借による貸出  
も含む。



書誌的事項	
1)	「枚方子どもの本フォーラム報告」川上博幸, 『こどもの図書館』36(1), 1989. 1, p. 9～13.
2)	『ひらかた子どもの本フォーラム報告書』, 枚方市立図書館, 1989, 28p.
3)	「公共図書館における障害者サービスの確立をめざして-枚方市立図書館における障害者サービスの歩み-」岡室 公平, 『図書館界』44(4), 1992. 11, p. 156～165.
4)	『枚方市内のティーンエイジャーの生活と読書についての報告書』, 枚方市立図書館, 1993, 109p.
5)	「行政の立場から司書に何をのぞむか」家高憲三, 『図書館界』45(2), 1993. 6, p. 241～242.
6)	「障害者サービスは公立図書館の貸出カウンターから始まる」石橋進一, 『図書館界』45(2), 1993. 6, p. 262～269.
7)	『枚方市立図書館の子どもへのサービス-第2回子どもの本フォーラム』, 枚方市立図書館, 1993, 92p.
8)	『第2回子どもの本フォーラム 子どもの生活と読書』, 枚方市立図書館, 1993, 25p.
9)	『第2回子どもの本フォーラム 子どもの生活と読書資料集 資料解題とアンケート調査概要報告』, 枚方市立図書館, 1993, 44p.
10)	『ひらかた第2回子どもの本フォーラム報告書』, 枚方市立図書館, 1994, 44p.
11)	「入院している子どもたちへのおはなし会」紫藤孝史, 『こどもの図書館』42(4), 1995. 4, p. 18～19.
12)	「期限付き一般行政事務従事制度-枚方市の場合」大原実, 『みんなの図書館』(227), 1996. 3, p. 16～21.
13)	「枚方市立図書館の児童サービス」『本はともだち-公立図書館の児童サービス実践事例』, 文部省, 1996, p. 28～35.
14)	「枚方市立図書館における病院サービスについて」紫藤孝史. 松井一郎, 『みんなの図書館』(228), 1996. 4, p. 44～52.
15)	「公共施設は高齢者にどんなサービスを提供できるか」高島涼子, 『高齢化社会への意識改革』, 勁草書房, 1996, p. 210～228.
16)	「枚方市立図書館における障害者施設への巡回について」松井一郎, 『みんなの図書館』(242), 1997. 6, p. 36～40.
17)	「枚方市における公共図書館の最適立地問題-立地-配分モデルによる分析-」足立理, 『人文地理』49(4), 1997. 8, p. 378～394.
18)	「枚方市立図書館の病院サービス」松井一郎, 『病院図書室』17(4), 1997. 11, p. 104～111.
19)	「公共図書館の「病院サービス」-病院の立場から」首藤佳子, 『病院図書室』17(4), 1997. 11, p. 112～
20)	「公共図書館の「病院サービス」-病院の立場から」首藤佳子, 『図書館界』49(6), 1998. 3, p. 300～305.
21)	「入院患者やお年寄りへの資料提供を实践して」前裕大造, 『図書館雑誌』92(4), 1998. 4, p. 269.
22)	「枚方市立図書館自動車文庫の病院サービス」前裕大造, 『病院患者図書館』21(2), 1998. 10, p. 16～19.
23)	「入院患者へのサービス」金沢みどり, 『図書館サービス論』, 学文社, 1999, p. 115.

書誌的事項	
24)	「枚方市の社会教育施設に関する一考察」黒石久昭, 『四條畷学園女子短期大学研究論集』(33), 1999.12, p.1～18.
25)	「小学校と、市立図書館-枚方の場合」京極樹, 『こどもの図書館』47(11), 2000.11, p.7～8.
26)	『枚方市の図書館について(提案)』, 枚方まちづくり市民会議, 2001, 20p.
27)	「本をめぐる三日間-図書館員と出版社社員の日記公開」中村希美子, 『図書館の学校』2005.10・11, p42
28)	「枚方市の中央図書館のこと」南秀幸, 『みんなの図書館』(345), 2006.1, p.64～66.
29)	「大学図書館が市民のための図書館へ 各フロアが大充実の館内は、居心地抜群」『枚方walker』, 角川クロスメディア, 2006, p.100.
30)	「聴覚障害者(ろう者)サービスの充実を目指して-枚方市立図書館からの取り組み」山元亮, 『図書館雑誌』101(5), 2007.5, p.298～300.
31)	「中央図書館は市民の憩いの場 ふれあいルームやカフェも充実」『枚方walker 2008』, 角川クロスメディア, 2008, p.24.
32)	「枚方の図書館づくり運動」中地正博, 『図書館界』60(6), 2009.3, p.372～386.
33)	「枚方市立図書館の全域サービス」松井一郎, 『図書館界』60(6), 2009.3, p.436～439.
34)	「手話でたのしむおはなし会」山口俊裕, 『こどもの図書館』57(11), 2010.11, p.6～7.
35)	「聴覚障害者(ろう者)サービスの現況と展望」山元亮. 山口俊裕, 『図書館雑誌』105(4), 2011.4, p.232～
36)	「家高憲三と枚方市立図書館」石橋進一, 『図書館界』65(5), 2014.1, p.324～330,
37)	「移動図書館車が三台に」鎌倉幸子, 『走れ! 移動図書館』, 筑摩書房, 2014, p.102.

執筆者 (五十音順)

池田純子	石村和巳	市辺善則	植田昌吉	内田雅博
岡田順子	岡室公平	川端幸雄	川村 太*	京極 樹*
久保田正啓*	黒臺芳明	河本美奈子	小林敦子	紫藤明紀
下次幹生	杉尾美穂	田畑啓一	苗代和重	中道直岐
野井保治	橋本春樹	服部敦司	前裕大造*	松井一郎
森岡秀夫	森高律子	安田巳智子	山口俊裕	山元 亮
横田幸恵	和田全弘	和田義久	渡辺由美*	

(\* : 四十年誌プロジェクトチーム)

枚方市立図書館四十年誌  
～平成元年以降の取組み～

発行 平成 28 年 3 月  
枚方市立中央図書館  
〒573-1159  
枚方市車塚 2 丁目 1-1  
TEL 050-7105-8141  
FAX 072-851-0962